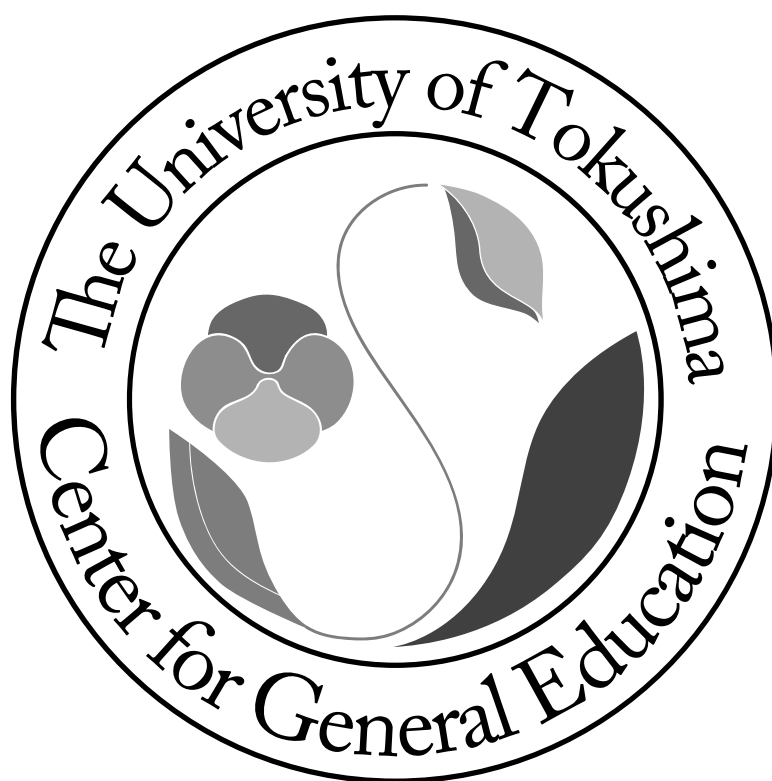


2010（平成22）年度

全学共通教育履修の手引



徳島大学全学共通教育センター

は じ め に

この「履修の手引」は、徳島大学に入学されたみなさんが、全学共通教育で「何をどのように学ぶのか」を理解するための必要な情報を掲載したものです。また学生生活を送る上で必要となる諸手続の情報も併せて掲載しています。

徳島大学では、学部・学科ごとに進級や卒業に必要な最低単位数や履修条件が定められています。授業を受けるに先立って、まず自分が所属する学部学科で定められた規則を十分に理解した上で履修計画を立てて下さい。そのためにも「履修の手引」を熟読してください。また全学共通教育の概要を述べた「2010 学びのファーストステップ」と、各授業の目的・内容などを収めた「全学共通教育授業概要（シラバス）」を活用し、オリエンテーション等での説明もよく聞いて、納得のいく計画を立てることを望みます。もし不明な点があれば、担当の先生や事務の方に相談できるような体制を整えていますので、積極的に利用して下さい。

各学部の専門教育科目には指定された必修科目が多くありますが、全学共通教育科目の場合は、選択科目が中心となります。全学共通教育は、大学教育が「高等教育」である証しの一つとなるものです。みなさんが大学生として、主体的に、積極的に自らの意志で個性に満ちた履修計画を立てることを願って止みません。

2010 年 4 月

徳島大学全学共通教育センター長

荒 木 秀 夫

掲 示 の 確 認

学生のみなさんへの連絡は、すべて掲示によって行います。少なくとも 1 日 1 回は全学共通教育掲示板（共通教育 4 号館 1 階）を確認するようにしてください。

全学共通教育センターの HP

「履修の手引」や「授業概要（シラバス）」は、全学共通教育センターのホームページ（HP）でも見るができます。「休講情報」，「前後期の試験についての情報」，休講情報は携帯電話からもアクセスできます。

PC から <http://www.g-edu.tokushima-u.ac.jp/ceducom/>

携帯電話から <http://www.g-edu.tokushima-u.ac.jp/ceducom/mobile.cgi>

平成 22 年度 新入生オリエンテーション等日程（学部生用）

学部名 月日・曜日	総合科学部	医 学 部	歯 学 部	薬 学 部	工 学 部
4 月 2 日(金)	※「オリエンテーション・大学入門講座」や「健康診断」などは必ず出席（受診）してください。 ※「大学入門講座」は全学部必修（1 単位）の授業です。				大学入門講座 （全学共通教育及び専門教育の履修について、学生生活について、防災学習について、その他） 昼間コース 集合時間 8:30 開催時間 9:00～17:50 集合場所 建設工学科 共通講義棟 K402 講義室 機械工学科 " K407 " 化学応用工学科 " K401 " 生物工学科 " K501 " 電気電子工学科 " K507 " 知能情報工学科 " K502 " 光応用工学科 " K505 " 夜間主コース 集合時間 17:50 開催時間 18:00～21:10 集合場所 共通講義棟 K309 講義室
4 月 3 日(土)					
4 月 4 日(日)	13:00～15:00 全学新入生歓迎サークルオリエンテーション（文化団体・体育団体連合会主催 公認サークルの紹介）場所：常三島体育館				
4 月 5 日(月)					学科別オリエンテーション・大学入門講座 昼間コース 集合時間 8:30 開催時間 8:40～17:50 集合場所 建設工学科 共通講義棟 K402 講義室 機械工学科 " K407 " 化学応用工学科 " K401 " 生物工学科 " K501 " 電気電子工学科 " K507 " 知能情報工学科 " K502 " 光応用工学科 " K505 " 夜間主コース 集合時間 14:25 開催時間 14:35～21:10 集合場所 共通講義棟 K309 講義室
4 月 6 日(火)	徳島大学入学式 9:00 入場開始 10:00 開式 10:45 終了予定 式場：アスティとくしま（徳島市山城町東浜傍示 1 TEL(088)624-5111）				
	学部オリエンテーション・大学入門講座 集合時間 13:50 開催時間 14:00～16:00 場 所 共通教育 4 号館 人間文化学科 4 号館 201 講義室 社会創生学科 4 号館 301 講義室 総合理数学科 4 号館 401 講義室	学部オリエンテーション・大学入門講座 集合時間 13:00 開催時間 13:30～16:00 場 所 長井記念ホール	学部オリエンテーション 集合時間 13:00 開催時間 13:30～16:30 場 所 歯学部大講義室（4 F）	大学入門講座 集合時間 13:30 開催時間 14:00～15:15 場 所 薬学部第 1 講義室	学部オリエンテーション 開催時間 入学式終了後 場 所 アスティとくしま 大学入門講座 昼間コース 集合時間 12:40 開催時間 12:50～14:20 集合場所 建設工学科 工学部共通講義棟創成学習スタジオ 機械工学科 " 化学応用工学科 " 集合時間 14:25 開催時間 14:35～16:05 集合場所 生物工学科 工学部共通講義棟創成学習スタジオ 電気電子工学科 " 知能情報工学科 " 光応用工学科 " 一斉プレテスト（昼・全学科） 集合時間 16:10 開催時間 16:20～17:50 夜間主コース 集合時間 12:40 開催時間 12:50～16:05 集合場所 工学部共通講義棟 一斉プレテスト（夜・全学科） 集合時間 17:50 開催時間 18:00～19:30
	蔵本地区新入生歓迎サークルオリエンテーション（蔵本地区サークルの紹介） 開催時間 16:30～ 場 所 長井記念ホール				
4 月 7 日(水)	大学入門講座 集合時間 8:50 開催時間 9:00～17:00 場 所 共通教育 4 号館 人間文化学科 4 号館 201 講義室 社会創生学科 4 号館 301 講義室 総合理数学科 4 号館 401 講義室	大学入門講座 集合時間 8:50 開催時間・場所 医学科 9:00～15:00 医学部基礎第 2 講義室 栄養学科 9:00～12:00 医学部共通講義棟 A-3 講義室（2 F） 保健学科 9:00～17:00 保健学 A 棟大講義室 他	大学入門講座 集合時間 8:20 開催時間 8:30～17:00 場 所 歯学部大講義室（4 F）	大学入門講座 集合時間 8:20 開催時間 8:30～18:00 頃 場 所 薬学部第 1 講義室 他	学部オリエンテーション 昼間コース 集合時間 8:30 開催時間 8:40～10:10 集合場所 建設工学科 工学部共通講義棟創成学習スタジオ 機械工学科 " 化学応用工学科 " 集合時間 10:15 開催時間 10:25～11:55 集合場所 生物工学科 工学部共通講義棟創成学習スタジオ 電気電子工学科 " 知能情報工学科 " 光応用工学科 " 集合時間 17:50 開催時間 18:00～19:30

学部名 月日・曜日	総合科学部	医 学 部	歯 学 部	薬 学 部	工 学 部
4月8日(木)	大学入門講座 集合時間 開始の10分前 開催時間・場所 人間文化学科 10:00～17:00 共通教育4号館201講義室 社会創生学科 9:00～17:00 共通教育4号館301講義室 総合理数学科 9:00～17:00 共通教育4号館401講義室 健康診断 (保健管理センター(常三島地区)) 集合時間 開始の10分前 実施時間 人間文化学科 9:00～10:00 社会創生学科 15:30～16:30	大学入門講座 医 学 科 午後(履修計画立案) 栄養学科 午前(履修計画立案) 保健学科 開催時間 9:00～11:30 場 所 保健学A棟大講義室 他 健康診断 (保健管理センター(常三島地区)) 集合時間 開始の10分前 実施時間 医 学 科 10:00～11:00 栄養学科 13:00～14:30 保健学科 13:00～14:30	大学入門講座 集合時間 8:20 開催時間 8:30～17:30 場 所 歯学部大講義室 (4 F) ※午前中のみ薬学部と合同で開催	大学入門講座 集合時間 8:20 開催時間 8:30～17:00頃 場 所 薬学部第1講義室 歯学部大講義室 (4 F) 他 ※午前中のみ歯学部と合同で開催	健康診断 (保健管理センター(常三島地区)) 集合時間 開始の10分前 電気電子工学科 11:00～12:00 化学応用工学科 14:30～15:30
4月9日(金)	大学入門講座 集合時間 8:50 開催時間 9:00～17:00 場 所 共通教育4号館 人間文化学科 4号館201講義室 社会創生学科 4号館301講義室 総合理数学科 4号館401講義室 健康診断 (保健管理センター(常三島地区)) 集合時間 14:20 実施時間 総合理数学科 14:30～15:30	大学入門講座 集合時間 開始の30分前 開催時間・場所 医 学 科 11:00～12:00 医学部第一総合実習室 医 学 科 13:00～16:00 医学部コンピュータ室 栄養学科 9:00～12:00 医学部コンピュータ室 保健学科 9:00～17:00 保健学A棟大講義室 他	大学入門講座 集合時間 8:20 開催時間 8:30～10:45 場 所 歯学部大講義室 (4 F) 健康診断 (保健管理センター(常三島地区)) 集合時間 12:50 実施時間 13:00～14:30	大学入門講座 集合時間 8:50 開催時間 9:00～11:15 場 所 薬学部第1講義室 健康診断 (保健管理センター(常三島地区)) 集合時間 12:50 実施時間 13:00～14:30	健康診断 (保健管理センター(常三島地区)) 集合時間 開始の10分前 生 物 工 学 科 9:00～10:00 光 応 用 工 学 科 9:00～10:00 機 械 工 学 科 10:00～11:00 知能情報工学科 11:00～12:00 夜間主コース 14:30～15:30 建 設 工 学 科 15:30～16:30
＜全学共通教育の4月12日(月)の授業履修登録締切 13:00＞					
4月10日(土)		大学入門講座(学部新入生研修) 集合時間 8:30 開始時間 9:00 場 所 長井記念ホール他		大学入門講座 集合時間 8:45 開催時間 9:00～17:00 場 所 薬学部第1講義室 薬学部スタジオブラザ	
4月11日(日)					
4月12日(月)	全 学 共 通 教 育 の 授 業 開 始				

※健康診断は常三島地区の保健管理センターで行う。学生証を必ず持参のこと。健康診断実施項目：①内科検診 ②胸部X線検査 ③検尿 ④身長、体重、血圧、視力

※新入生合宿（日帰り）研修及びオリエンテーション・大学入門講座についての詳細は、各学部で別途通知する。

- ・合 宿 研 修：歯学部（4/17～18）、工学部（建設工学科：4/10～11，光応用工学科：4/30～5/1）
- ・日帰り研修：工学部（機械工学科・生物工学科・知能情報工学科：4/10，化学応用工学科：5/8，電気電子工学科：日程は入学後連絡）

2010（平成 22）年度 学年暦及び全学共通教育関係行事予定

年 月 日	学 年 暦	全 学 共 通 教 育 関 係 行 事 予 定
【2010年】 4月1日(木)	前 期 開 始	
4月1日(木)から 4月5日(月)まで	春 季 休 業	
4月2日(金)から		新入生オリエンテーション(～4月10日) 新入生健康診断(4月8日～9日) Webによる履修登録開始(4月2日～)
4月6日(火)	入 学 式	
4月12日(月)		前 期 授 業 開 始
4月15日(木)		W e b による履修登録締切
4月23日(金)		前 期 履 修 科 目 変 更 締 切
5月7日(金)		月曜日の振替日(月曜日の授業を実施)
7月10日(土)		英 語 統 一 試 験 (T O E I C)
7月26日(月)から 7月30日(金)まで		前 期 試 験 期 間
8月2日(月)から 8月6日(金)まで		総 括 授 業
8月6日(金)		追 試 験 願 出 締 切
8月7日(土)から 8月31日(火)まで	夏 季 休 業	
8月30日(月)		W e b による前期試験成績通知
9月6日(月)から 9月10日(金)まで		追 試 験 ・ 再 試 験 期 間
9月24日(金)		W e b による追試験・再試験の成績通知 W e b による履修登録開始
9月30日(木)	前 期 終 了	
10月1日(金)	後 期 開 始	後 期 授 業 開 始
10月6日(水)		W e b による履修登録締切
10月14日(木)		後 期 履 修 科 目 変 更 締 切 ただし、月曜日授業の締切は10月18日とする。
10月30日(土)から 11月1日(月)まで	大 学 祭	11月1日(月) 大学祭のため休業日
11月2日(火)	開 学 記 念 日	開 学 記 念 日 の た め 休 業 日
11月5日(金)		月曜日の振替日(月曜日の授業を実施)
12月25日(土)から 【2011年】 1月7日(金)まで	冬 季 休 業	
1月14日(金)		大学入試センター試験場設営のため休業日
1月15日(土)から 1月16日(日)まで	大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験	
2月2日(水)から 2月8日(火)まで		後 期 試 験 期 間
2月9日(水)から 2月16日(水)まで		総 括 授 業 2月16日は金曜日の振替日(金曜日の授業を実施)
2月15日(火)		追 試 験 願 出 締 切
2月16日(水)		金曜日の振替日(金曜日の授業を実施)
2月21日(月)		W e b による後期試験成績通知
2月25日(金)	前 期 日 程 入 学 試 験 (予 定)	
2月28日(月)から 3月4日(金)まで		追 試 験 ・ 再 試 験 期 間
3月11日(金)		W e b による追試験・再試験の成績通知
3月12日(土)	後 期 日 程 入 学 試 験 (予 定)	
3月23日(水)	卒 業 式 ・ 修 了 式	
3月25日(金)から 3月31日(木)まで	学 年 末 休 業	
3月31日(木)	後 期 終 了	

2010（平成22）年度カレンダー

4

日	月	火	水	木	金	土
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
...	...	...	...	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	...

5

...	...	...	...	...	...	1
2	③	④	⑤	6	【7】	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	...	...	...	...	...

6

...	...	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	...	...	...

7

...	...	...	...	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	①⑨	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	...	...	...	...

9

...	...	...	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	②⑩	21	22	②③	24	25
26	27	28	29	30	...	...

10

日	月	火	水	木	金	土
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
...	...	...	...	...	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	①	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	...	...	...	...	...	...

11

...	1	2	③	4	【5】	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	②③	24	25	26	27
28	29	30	...	...	...	...

12

...	...	...	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	②③	24	25
26	27	28	29	30	31	...

1

...	...	...	...	...	...	①
2	3	4	5	6	7	8
9	⑩	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	...	...	...	...	...

2

...	...	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	①	12
13	14	15	①⑥	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	...	...	...	...	...

3

...	...	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	②①	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	...	...

：休業期間

1月14日は大学入試センター試験場設営のため休業

：祝・土・日

11月2日(火)：開学記念日

：学期末試験期間

：追・再試験期間

【】：月曜日の振替日

：総括授業

《》：金曜日の振替日

10月30日(土)～11月1日(月)：大学祭

目 次

I. 徳島大学における学びについて	1
1. 全学共通教育の目的・目標	1
2. 大学での学びの全般的な注意	1
II. 全学共通教育の履修 全体にわたる事項	3
1. 単位の基準	3
2. 全学共通教育の開設授業科目	3
3. 特別な単位の認定	7
3. 1. 入学前の既修得単位の認定	7
3. 2. 放送大学の修得単位の認定	8
3. 3. 外国語技能検定試験による単位の認定	8
3. 4. 留学による単位の認定	9
4. 授業の履修手続き	10
4. 1. 履修登録の方法と期間	10
4. 2. 初回授業受講時の注意	11
4. 3. 初回授業以後の履修登録の変更の方法と期間	12
4. 4. 履修登録確認について	14
5. 授業を受ける	14
5. 1. 授 業 の 場 所	14
5. 2. 授 業 の 時 間 帯	15
5. 3. 授業のクラス分け	15
5. 4. 授業を受ける態度	15
5. 5. オフィス・アワーについて	16
5. 6. 学習支援室の利用	16
5. 7. 気象警報が徳島県北部（徳島・鳴門）に発令された場合の授業の休講	16
6. 試験及び成績の評価	16
6. 1. 受 験 資 格	16
6. 2. 学期末試験の期間	16
6. 3. 試験の受験心得	16
6. 4. 成 績 の 評 価	17
6. 5. 不正行為について	17
6. 6. 成 績 の 通 知	17
6. 7. 追 試	17
6. 8. 再 試	18
6. 9. 再履修について（特に外国語と基礎科目群）	18
7. 全学共通教育の授業に関する付随的な事項	18
7. 1. Grade Point 評価	18
7. 2. 授業参観について	19
7. 3. 全学共通教育の授業公開について	19
7. 4. 工学部 JABEE（日本技術者教育認定機構）について	19
III. 学部・学科別の履修方法	22
1. 総 合 科 学 部	22
1. 1. 総合科学部人間文化学科	22
1. 2. 総合科学部社会創生学科	24
1. 3. 総合科学部総合理数学科	26
2. 医 学 部	28
2. 1. 医学部医学科	28
2. 2. 医学部栄養学科	30
2. 3. 医学部保健学科	32
2. 3. 1. 医学部保健学科看護学専攻	32
2. 3. 2. 医学部保健学科放射線技術科学専攻	34
2. 3. 3. 医学部保健学科検査技術科学専攻	36
3. 歯 学 部	38
3. 1. 歯学部歯学科	38
3. 2. 歯学部口腔保健学科	40

4. 薬 学 部	42
5. 工 学 部	44
5. 1. 工学部建設工学科	44
5. 2. 工学部機械工学科	46
5. 3. 工学部化学応用工学科	48
5. 4. 工学部生物工学科	50
5. 5. 工学部電気電子工学科	52
5. 6. 工学部知能情報工学科	54
5. 7. 工学部光応用工学科	56
6. 工学部夜間主コース	58
6. 1. 工学部夜間主コース建設工学科	58
6. 2. 工学部夜間主コース機械工学科	60
6. 3. 工学部夜間主コース化学応用工学科	62
6. 4. 工学部夜間主コース生物工学科	64
6. 5. 工学部夜間主コース電気電子工学科	66
6. 6. 工学部夜間主コース知能情報工学科	68
7. 留 学 生	70
IV. 全学共通教育 開講授業科目・授業題目・担当者一覧（2010年度）	71
V. 徳島大学全学共通教育履修規則	83
VI. 全学共通教育に関わる学生生活	87
1. 学生窓口と取扱時間	87
1. 1. 全学共通教育履修学生の窓口事務	87
1. 2. 2年次生（後期）以降の窓口事務	87
1. 3. 取 扱 時 間	87
2. 学生への連絡方法（掲示）	87
3. 学 生 証	88
4. 各種証明書の発行	89
5. 講義室の使用	90
6. 授 業 料	90
7. 授 業 料 免 除	91
8. 奨 学 金	91
9. 健康管理関係	91
10. 課外活動その他学生生活に関すること	91
11. 交通事故の防止	91
12. そ の 他	91
12. 1. 学生の呼び出し等について	91
12. 2. 郵便物について	92
12. 3. 喫煙について	92
12. 4. 遺失物及び拾得物について	92
12. 5. 交通事故・盗難について	92
12. 6. 携帯電話等の使用について	92
12. 7. エレベーターの使用について	92
12. 8. そ の 他	92
VII. 常三島キャンパス	94
総合科学部建物配置図（共通教育棟を含む）	94
工学部建物配置図	95
共通教育4号館	96
共通教育5号館	97
共通教育6号館	98
総合科学部3号館	99
総合科学部1号館	101
総合科学部2号館	104
工学部共通講義棟（K棟）	105
総合運動場	107

I 徳島大学における学びについて

- 1. 全学共通教育の目的・目標 1
- 2. 大学での学びの全般的な注意 1

用 語 の 説 明

「履修」：受けたい授業が決まったら、登録の作業を行い受講の手続きをします。授業を受け、試験やレポートを提出して、合格すればその授業の単位が修得できます。この一連の流れを履修といいます。

「履修要件」：自分の所属する学部学科が、履修規則によって定めた進級や卒業のため各々の科目において最低限修得しなければならない単位の条件を履修要件といいます。自分の所属する学科の全学共通教育の履修要件については、学部・学科別の履修方法（p.22 ～ p.70）で説明しています。

「単位」：単位とは、予習・復習に時間をかけて、1時間半の授業を受け、試験やレポートなどによって成績の評価を受けて合格した場合に認定されるものです。授業によって、1単位、2単位などのように決まっています。時間割や、授業概要（シラバス）に示されています。詳しくは「単位の基準」（p.3）で説明しています。

「TOEIC（IP）」：TOEIC（IP）とは、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテスト（TOEIC:Test of English for International Communication）の団体特別受験制度（IP:Institutional Program）のことです。新生は全員学内で実施される TOEIC（IP）試験を2回受験します。第1回目の試験は1年生の7月に実施します。第2回目の試験は2年生の前期に実施予定です。自分の英語のコミュニケーション能力を客観的に知ることができます。成績がよいと、英語の単位が認定されます。詳しくは外国語技能検定試験による単位認定（p.8）で説明しています。

I. 徳島大学における学びについて

1. 全学共通教育の目的・目標

徳島大学では、全学共通教育の目的と5つの目標を定め、学生の皆さんの学びへの意欲と、知識、能力を高めようとしています。

<目的>

徳島大学の教育理念は、「明日を目指す学生の多様な個性を尊重して、人間性に富む人格の形成を促す教育を行い、優れた専門的能力と、自立して未来社会の諸問題に立ち向かう進取の気風を身につけた人材の育成に努める」ことである。

この理念を実現すべく、全学共通教育では、人間性に富む人格の形成を促し、「持続可能な社会づくり」のために、相互理解に基づき、権利と義務を分かち合う精神を持ち、自立して未来社会の諸問題に立ち向かう進取の気風を身につけることを全体の目的としている。そのため、各々の科目群ごとに、以下の目標をおき、その達成に努める。

<5つの目標>

1. 大学での学びに適応し、主体的に知的訓練に取り組む態度を身につける。
2. 社会人として必要な豊かな人間性と高い倫理観を修得する。
3. さまざまな体験を通して、人間力や社会性を身につける。
4. 諸科学の基本的な思考法や言語運用能力などを身につけ、自立的学習の基盤を形成する。
5. 複合的な視点から専門分野を理解するために、必要な基礎的知識を身につける。

2. 大学での学びの全般的な注意

1) 資料に目を通す

大学では、自分で授業を選び、自主的に学んでいく姿勢を持たなくてはなりません。

本学の授業科目には全学共通教育センターが行う全学共通教育科目と皆さんの所属する学部が行う専門教育科目があります。

全学共通教育センターが行う全学共通教育科目については、次の資料が用意されています。

- ・『全学共通教育履修の手引（本冊子）』

全学共通教育で行われる授業を履修するための重要な事項が説明されています。

- ・『全学共通教育授業概要（シラバス）』

全学共通教育で行われるそれぞれの授業の概要が説明されています。

- ・『全学共通教育時間割』

前・後期別に作成されています。

- ・『徳島大学全学共通教育 2010 学びのファーストステップ』

全学共通教育のカリキュラムや授業の登録方法などが分かりやすく説明されています。

また、皆さんの所属する学部の専門教育科目などの授業については、次の資料が用意されています。

- ・『学部学科の履修の手引』

- ・『専門科目の時間割』

- ・『専門科目の授業概要（シラバス）』

皆さんは、これらの資料をもとにして、それぞれ所属する学部学科によって決められた全学共通教育科目と専門教育科目の単位を修得し、卒業することになります。

2) 時間割を作る

大学では、各自が自由に授業を選ぶため、ひとりひとりが異なる「時間割」を作成することになります。

授業には、学部ごとに必ずとらなければならない必修科目と学生が選択を行う選択科目があります。まず、必修科目から時間割を埋めてゆく手順となります。大学入門講座などの集中講義も忘れないように時間割に加えてください。

詳しくは、『徳島大学全学共通教育 2010 学びのファーストステップ』にある「授業時間割表の作り方」に従って時間割を作成してください。

3) 授業の登録

時間割が決まったら、各学部などにあるパソコンで教務事務システム（Web 履修登録）によって受講科目を登録します。その方法については、『徳島大学全学共通教育 2010 学びのファーストステップ』に詳しく説明していますので、そちらを見てください。Web 履修登録は、**初回授業が実施される前日の 13 時（月曜日授業は金曜日の 13 時）まで（工学部夜間主コースも同じ）に登録してください。**なお、履修登録数が受講定員を超過した場合は、抽選による受講調整を行います。抽選があった場合、結果は初回授業の前日の 17 時（月曜日授業は金曜日の 17 時）に共通教育 4 号館の玄関に掲示するので必ず確認してください。

4) 悩んだときは

全学共通教育に関して分からないことがあったら、共通教育 4 号館 1 階の教育支援課共通教育係に相談してください。

全学共通教育センター学習支援室が総合科学部 3 号館 1 階のスタジオの一角にあります。教員が待機して、履修相談をはじめ、いろいろな相談に対応しています。ご利用ください。（p 16 参照）。

各教員がオフィスアワーを設け、授業の質問などに対応しています。オフィスアワーの時間や場所は、『全学共通教育授業概要（シラバス）』の各授業の概要の中に記載されています。

また、それぞれの学部にある学務（教務）係や学部・学科の教務委員やクラス担任などが、履修相談などに応じています。

5) 日々のお知らせ

いろいろな情報は、すべて掲示板によって知らされます。全学共通教育に関するお知らせ等は、共通教育 4 号館 1 階の掲示板及び電子掲示板に掲示します。毎日少なくとも一度は、全学共通教育掲示板・電子掲示板を確認するようにしてください。

授業が、教員の出張のためや気象状況などで休講になることがあります。そうした休講情報は、全学共通教育センターのホームページで見ることができます（携帯電話からも可能）。また、休講になった授業については補講があります。

6) その他

大学等（本学を含む。）を卒業または中途退学して、本学に入学した学生は、入学前の既修得単位を本学の単位に認定できる制度がありますので、期日内にその手続きをしてください。

説明会を 4 月 6 日(火) 18 時 10 分から共通教育 4 号館 202 講義室で開催しますので、既修得単位の認定を申請する学生は、必ず出席してください。詳しくは、「3. 1. 入学前の既修得単位の認定」(p. 7)を参照ください。

Ⅱ 全学共通教育の履修 全体にわたる事項

1. 単位の基準	3
2. 全学共通教育の開設授業科目	3
3. 特別な単位の認定	7
3. 1. 入学前の既修得単位の認定	7
3. 2. 放送大学の修得単位の認定	8
3. 3. 外国語技能検定試験による単位の認定	8
3. 4. 留学による単位の認定	9
4. 授業の履修手続き	10
4. 1. 履修登録の方法と期間	10
4. 2. 初回授業受講時の注意	11
4. 3. 初回授業以後の履修登録の変更の方法と期間	12
4. 4. 履修登録確認について	14
5. 授業を受ける	14
5. 1. 授業の場所	14
5. 2. 授業の時間帯	15
5. 3. 授業のクラス分け	15
5. 4. 授業を受ける態度	15
5. 5. オフィス・アワーについて	16
5. 6. 学習支援室の利用	16
5. 7. 気象警報が徳島県北部（徳島・鳴門）に発令された場合の授業の休講	16
6. 試験及び成績の評価	16
6. 1. 受験資格	16
6. 2. 学期末試験の期間	16
6. 3. 試験の受験心得	16
6. 4. 成績の評価	17
6. 5. 不正行為について	17
6. 6. 成績の通知	17
6. 7. 追試験	17
6. 8. 再試験	18
6. 9. 再履修について（特に外国語と基礎科目群）	18
7. 全学共通教育の授業に関する付随的な事項	18
7. 1. Grade Point 評価	18
7. 2. 授業参観について	19
7. 3. 全学共通教育の授業公開について	19
7. 4. 工学部 JABEE（日本技術者教育認定機構）について	19

Ⅱ. 全学共通教育の履修 全体にわたる事項

1. 単位の基準

1単位あたりの学習時間は大学設置基準第21条、徳島大学学則第30条で45時間と定められています。これに従って、授業ごとに単位数が決められていますが、1回の授業について、講義については2時間の予習と復習が、演習、実験、実習については1時間の予習または復習が必要です。各授業科目に対する単位数は、時間割表とシラバスに次のように数字と記号で表されています。なお、ウェルネス総合演習は、授業名に演習が付いていますが、単位の考え方は講義と同じです。また、外国語については、単位の考え方は原則演習ですが、発信型英語は講義の扱いとなります。

単位数の表記の例（原則1学期15回の授業に対する単位数）

	時間割での表記の仕方	履修すると与えられる単位数
大学入門科目群 大学入門講座 高大接続科目 自然科学入門	1 L 2 L 2 L	1単位（8回の授業相当） 2単位 ※1 2単位 ※2
教養科目群	2 L	2単位
社会性形成科目群 ウェルネス総合演習 共創型学習 ヒューマンコミュニケーション	2 L 2 L 2 L又は2 S	2単位 2単位 2単位
基盤形成科目群 外国語の科目 発信型英語 情報科学	1 S 2 L 2 L	1単位 2単位 2単位
基礎科目群 基礎科目 医学科、歯学科の基礎科目 実験	2 L 1 S 2 E	2単位 1単位 2単位（4講時の実験の授業）

L、S、Eは授業形式であり、Lは講義、Sは演習、Eは実験を表しています。

※1 高大接続科目「数学」の修得単位は、卒業に必要な単位に認められる学科と認められない学科があります。卒業に必要な単位に認められる学科では、教養科目群の「自然と技術」の単位に認められます。各学科別の履修方法を参照してください。

※2 自然科学入門の修得単位は、歯学部歯学科では必修の単位です。それ以外の学部学科は、卒業に必要な単位と認められません。各学科別の履修方法を参照してください。

2. 全学共通教育の開設授業科目

全学共通教育では、開設されている授業科目を5つの科目群に分けています。各科目群にはいくつかの授業科目があり、そしてそれぞれの授業科目のもとに複数の授業題目が設けられています。

次の科目表を参照してください。

科 目 表

授 業 科 目 の 区 分		授 業 題 目
科 目 群	授 業 科 目	
大学入門科目群	大学入門講座 高大接続科目 自然科学入門	大学入門講座 数学 物理学 化学 生物学
教養科目群	歴史と文化 人間と生命 生活と社会 自然と技術	個々の授業題目
	日本事情（留学生対象）	日本事情Ⅰ～Ⅳ
社会性形成科目群	ウェルネス総合演習 共創型学習 ヒューマンコミュニケーション	ウェルネス総合演習 個々の授業題目 乳幼児との交流から学ぶ 高齢者との交流から学ぶ 社会人としてのマナーを学ぶ
基盤形成科目群	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 情報科学	基盤英語 主題別英語 発信型英語 ドイツ語入門 ドイツ語初級 フランス語入門 フランス語初級 中国語入門 中国語初級 情報科学入門
	日本語（留学生対象）	日本語 1～8
基礎科目群	基礎数学 基礎物理学 基礎物理学実験 基礎化学 基礎化学実験 基礎生物学 基礎生物学実験	個々の授業題目

学生の皆さんは、所属する学部学科によって定められている履修要件に従って、それぞれの科目群から、授業科目・授業題目を選んで履修し、卒業に必要な単位を満たす必要があります。

各科目群及び授業科目の概要は次のとおりです。

1 大学入門科目群

大学での学びに適応し、主体的に知的訓練に取り組む態度を養う科目群です。

次の3つの授業科目から構成されています。

大学入門講座

全学部全学科必修で、1単位とし、卒業に必要な単位となります。各学部、各学科の教務担当と学生担当の教員が中心となって担当し、学生の皆さんが徳島大学の学生としてのアイデンティティを持ち、これまでの学習方法とは異なる、大学での自発的な自学自習の方法を身に付けることを主眼としています。

高大接続科目

数学の授業題目があります。「数学」は、数Ⅲ・Cについての補習的な内容を含んだ授業で、自由選択の授業科目です。修得すると2単位として成績が出されますが、卒業に必要な単位には含まれません。ただし、総合科学部全学科、医学部栄養学科、保健学科（看護学専攻・検査技術科学専攻）、歯学部口腔保健学科の学生については、教養科目群の「自然と技術」の2単位として含めることができます。

自然科学入門

物理学、化学、生物学の3つの授業題目があります。これらの授業は単なる高校の物理学、化学、生物学の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強しながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学へ繋がりを目指した授業です。歯学部歯学科は必修です。それ以外の学部学科は自由選択で、修得した単位は卒業に必要な単位に認められません。

ア 必修の学科について（歯学部歯学科）

所属学科の教員から指定された授業科目を履修してください。指定以外の授業科目を履修しても卒業に必要な単位と認められません。

イ 卒業に必要な単位に認められない学科について（歯学部歯学科以外の学部学科）

- ・所属学科の教員から履修指導がある場合は、履修指導された授業科目を履修してください。
- ・履修指導がない場合は、自由に授業科目を選択して履修してください。
- ・修得すると2単位として成績が出ますが、卒業に必要な単位に認められません。

2 教養科目群

社会人として豊かな人間性と高い倫理観を培う科目群です。

次の4つの授業科目と日本事情（留学生対象）から構成されています。

1) 歴史と文化 2) 人間と生命 3) 生活と社会 4) 自然と技術

各学部学科において、履修する単位が指定されていますので、「Ⅲ. 学部・学科別の履修方法」に従って、それぞれの授業科目に属する授業科目を履修し、必要な単位をそろえてください。

また、次のことに注意して履修してください。

ア 同じ授業科目の授業を再度履修することはできません。

イ 各授業科目において卒業に必要な単位として認められるのは6単位（3授業科目）までです。

ウ 教養科目のゼミナール形式（少人数クラス）の授業（授業科目が「ゼミナール○○○」となっているもの）は、1つしか履修できません。

【学部学科が全学共通教育に開放する授業科目等の履修について】

学部学科の専門教育科目の授業（当該学部・学科の学生にとっては必修）あるいは他学部・学科が指定する全学共通教育科目の基礎科目群の授業科目（指定する学部学科の学生にとっては必修）を、他の学部学科の学生が履修すると教養科目群の単位に含めることができます。

該当する授業科目は以下のものです。時間割には別表で示してあります。授業は当該学部・学科の教室で行われる場合があります。

1) 学部学科が全学共通教育に開放する授業科目について

認定される教養科目群		担当教員	前期・後期の別	曜日	講時	開設学部	専門科目／ 全学共通教育教養(基礎)科目群	平成16年度以前の入学生 (保健学科は平成17年度以前の入学生)	
授 業 題 目	授業科目							旧授業科目	旧 授 業 題 目
【歴史と文化】									
(総)中国語Ⅱ	歴史と文化	邵 迎建	前	火	5・6	総	総合科学部専門科目	中国語	中国語(2)
(総)中国語Ⅱ	歴史と文化	荻森健介	後	火	5・6	総	総合科学部専門科目	中国語	中国語(2)
【人間と生命】									
(医)生命・健康・病気(1)	人間と生命	医学部教員	前	金	3・4	医	全学共通教育教養科目群	学部開放科目	(医)生命・健康・病気
(歯)口腔と健康	人間と生命	河野文昭	前	金	3・4	歯	歯学部歯学科専門科目	学部開放科目	(歯)口腔と健康
(医)放射線医学入門	人間と生命	上野淳二 他	後	金	7・8	医	全学共通教育教養科目群	学部開放科目	(医)放射線医学入門
【自然と技術】									
(工)機械工学概論	自然と技術	機械工学科教員	前	月	13・14	工	全学共通教育教養科目群 (夜間)	学部開放科目	(工)機械工学概論
(工)化学応用工学概論	自然と技術	河村保彦 他	前	月	13・14	工	全学共通教育教養科目群 (夜間)	学部開放科目	(工)化学応用工学概論
(工)電気電子工学概論	自然と技術	電気電子工学科教員	前	月	13・14	工	全学共通教育教養科目群 (夜間)	学部開放科目	(工)電気電子工学概論
(医)臨床検査学入門	自然と技術	西田 他	前	木	1・2	医	全学共通教育教養科目群	学部開放科目	(医)臨床検査学入門
(工)知能情報工学セミナー	自然と技術	知能情報工学科教員	前	木	5・6	工	工学部知能情報工学科専門科目	学部開放科目	(工)知能情報工学セミナー
(工)機械工学概論	自然と技術	機械工学科教員	前	木	5・6	工	全学共通教育教養科目群	学部開放科目	(工)機械工学概論
(工)光の基礎	自然と技術	陶山史朗	前	木	5・6	工	工学部光応用工学科専門科目	学部開放科目	(工)光の基礎
(工)地域の環境と防災	自然と技術	河口洋一 他	前	木	5・6	工	全学共通教育教養科目群	学部開放科目	地域の環境と防災
(工)化学応用工学概論	自然と技術	金崎 森賀	前	木	5・6	工	全学共通教育教養科目群	学部開放科目	(工)化学応用工学概論
(工)電気電子工学概論	自然と技術	電気電子工学科教員	前	木	5・6	工	全学共通教育教養科目群	学部開放科目	(工)電気電子工学概論
(医)医療情報処理学入門	自然と技術	近藤 正	前	金	5・6	医	全学共通教育教養科目群	学部開放科目	(医)医療情報処理学入門
(歯)医療情報処理	自然と技術	河野文昭	前	金	5・6	歯	歯学科：全学共通教育基礎科目群 歯学部口腔保健学科専門科目	学部開放科目	(歯)医療情報処理
(歯)歯学概論	自然と技術	歯学部教員	後	木	1・2	歯	歯学部歯学科専門科目	学部開放科目	(歯)歯学概論
(工)生物工学概論	自然と技術	長宗 他	後	木	5・6	工	全学共通教育教養科目群	学部開放科目	(工)生物工学概論

※夜間授業（第11講時～14講時）は、工学部夜間主コースの学生しか受講できません。

これ以外にも、教養科目の履修については、各学部・学科ごとに卒業に必要な履修上の条件が定められていますので注意してください。

日本事情

留学生を対象としています。日本事情Ⅰ～Ⅳがあり、教養科目群の中の授業（歴史と文化、人間と生命、生活と社会、自然と技術）に読み替えることができます。具体的な科目については年度により異なることがありますので、日本事情担当教員に問い合わせてください。

3 社会性形成科目群

さまざまな体験を通して、人間力や社会性を身につけ、進取の気風（自ら進んで物事を行う）を育む科目群です。

次の3つの授業科目から構成されています。

- 1) ウェルネス総合演習 2) 共創型学習 3) ヒューマンコミュニケーション

「Ⅲ. 学部・学科別の履修方法」に各学部学科の履修要件や注意事項が定められています。

4 基盤形成科目群

諸科学の基本的な思考法や言語運用能力などを身につけ、自立学習の基盤を形成する科目群です。

外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語）及び日本語（留学生対象）、情報科学で構成されています。

外国語の区分：

1) 英語

英語は、基盤英語(B:Basic English)、主題別英語(T:Thematic English)、発信型英語(C:Communicative English)で構成されています。基盤英語と主題別英語は、1授業で1単位です。発信型英語は、2年生以上で受講することができ、1授業で2単位の授業です。

各学部学科の履修要件に従って、4単位から8単位まで履修することになります。各学部学科に応じて履修のパターンが用意されています。

また、次のことに注意して履修してください。

ア Bの履修は上限2単位です。ただし、薬学部と工学部電気電子工学科（夜間主）は上限1単位です。

イ Bの再履修は、次の期のTを余分に取ることで代替可能です。

ウ Tの再履修はTで、Cの再履修は原則Cを再受講する必要がありますが、事情によりCはTを2つで代替可能です。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。

エ Cについては、少人数クラスであるので、開講数の関係上原則1回の履修とします。ただし、総合科学部人間文化学科・社会創生学科は2回の履修とします。

オ 工学部夜間主コースに限り、必要単位数より多く単位を修得した場合、その余剰単位は、教養科目群の単位に振り替えることもできます。

2) 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）

それぞれ「入門」と「初級」の授業題目があります。各学部学科の履修要件に応じて、ひとつの外国語を2単位または4単位のまとまりで履修してください。

日本語

留学生を対象としています。日本語1～8の授業題目があり、外国語の単位に含めることができます。

情報科学

情報科学入門の授業題目があり、各学部学科の履修要件に応じて履修します。

5 基礎科目群

複合的な視点から専門分野を理解し、必要な基礎知識を身につける科目群です。

次の7つの授業科目で構成されています。

基礎数学

基礎物理学 基礎物理学実験

基礎化学 基礎化学実験

基礎生物学 基礎生物学実験

それぞれの授業科目に、講義形式、演習形式、実験形式の授業題目が開講されています。各学部学科の履修要件に応じて履修します。

再履修となった場合は、次学期、次年度等で学部学科が指定する授業を受講するのが原則ですが、自分が所属する学部学科の専門科目履修の関係で、学部学科が指定する以外の授業を受講する場合は、必ず授業担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

3. 特別な単位の認定

3. 1. 入学前の既修得単位の認定

下記の者については、大学・短大等における既修得単位のうち、30単位まで全学共通教育の単位として認定されることがあります。なお、徳島大学の卒業生・中途退学者に対しては、各学部で定めた単位を上限として既修得単位が認められています。また、一部の学部・学科では、専門科目の既修得単位についても認めていますので、これらについては各学部の学務（教務）担当係で確認してください。

1. 大学または短期大学を卒業あるいは中途退学した者で、新たに第1年次に入学した者

(1) 申請用紙は教育支援課共通教育係で交付します。

(2) 申請書の書き方については、4月6日(火)18時10分から共通教育4号館202講義室で説明会を開催します。説明会では具体的な単位認定の手続き・方法について説明しますので、必ず出席してください。なお、申請者は、既修得単位が確定する5月中～下旬までは、各学部・学科の履修要件に沿って通常の受講手続きを行い、授業を受けておいてください。単位認定の結果により、履修を取りやめることができますが、その際は必ず担当教員及び教育支援課共通教育係へ申し出てください。

(3) 申請書以外に、単位を取得した大学・短期大学の成績証明書や認定を受けようとする大学・短期大学における授業内容が判る資料（シラバスなど）が必要となります。申請前に予め用意し、可能であれば説明会の際に持参してください。

なお、大学によっては一般教育科目と基礎科目を分離していない場合があります。また、認定の過程で専門科目として取得した単位が全学共通教育の単位として認定される場合もあります。成績証明書やシラバス（コピー可／シラバスの表紙・目次も添付すること）などについては、一般教育科目（基礎科目を含む）・専門科目の両方について準備しておくといでしょう。

(4) 申請締切後に関係委員が提出書類を審査します。シラバス（コピー可）などが入手できない場合には、申請者との面接等により各申請科目の授業内容を確認することになります。

(5) 既修得単位の認定は、全学共通教育センター運営委員会での予備審査の後、各学部の教授会（5月）で最終的に認定され、その後申請者へ通知されます。

関係する事柄については別途掲示によりお知らせしますので注意しておいてください。

2. 編入学した者……入学前に当該学部から案内があります。

3. 補欠入学した者……当該学部の学務（教務）担当係へ問い合わせてください。

4. 本学の学生で転学部、転学科を許可された者……当該学部の学務（教務）担当係へ問い合わせてください。

3. 2. 放送大学の修得単位の認定

徳島大学が指定した放送大学の開設科目を修得した場合、全学共通教育科目(外国語の科目を含む。)として8単位まで認定されます。ただし、事前に本学を通して放送大学へ受講申請をする必要があります。徳島大学が指定する開設科目、受講手続き等の詳細については、教育支援課共通教育係に相談してください。

3. 3. 外国語技能検定試験による単位の認定

外国語技能検定試験の成績により外国語の科目の単位が下記のように認定されます。該当する検定試験に合格、あるいは所定の得点に達した場合に、単位の認定を希望するものは速やかに教育支援課共通教育係まで申し出てください。ただし、これらの検定試験による単位の認定は1つの外国語につき8単位までとします。なお、入学前に受験した試験の結果得られた級および得点についても単位が認定されます。

① 英語

【ア】 実用英語技能検定(英検)(財団法人 日本英語検定協会、文部科学省認定)

準1級：英語4単位(既に他の英語の技能検定試験で4単位認定を受けている場合は認められません)

1 級：英語8単位(既に4単位認定を受けている場合は4単位、
既に6単位認定を受けている場合は2単位)

【イ】 TOEFL(国際教育交換協議会)

IBT	CBT	PBT
-----	-----	-----

61～73点	173～201点	500～534点：英語4単位
--------	----------	----------------

(既に他の英語の技能検定試験で4単位認定を受けている場合は認められません)

74～87点	202～229点	535～569点：英語6単位
--------	----------	----------------

(既に4単位認定を受けている場合は2単位)

88点以上	230点以上	570点以上	：英語8単位
-------	--------	--------	--------

(既に4単位認定を受けている場合は4単位、
既に6単位認定を受けている場合は2単位)

【ウ】 TOEIC(財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会)

580～679点：英語4単位(既に他の英語の技能検定試験で4単位認定を受けている場合は認められません)

680～779点：英語6単位(既に4単位認定を受けている場合は2単位)

780点以上：英語8単位(既に4単位認定を受けている場合は4単位、
既に6単位認定を受けている場合は2単位)

(注) 新入生は全員、学内で実施される TOEIC (IP) による英語統一試験を2回受験します。第1回目の試験は、平成22年7月10日(土)に実施します。なお、病気などやむをえない理由で欠席した者に限り、翌週の7月17日(土)に試験を受験することができます。また、第2回目の試験は、2年生の前期に実施する予定です。

② ドイツ語

ドイツ語技能検定試験(独検)(財団法人 ドイツ語学文学振興会)

5 級：ドイツ語入門1単位

4 級：ドイツ語入門2単位

3 級以上：ドイツ語入門2単位およびドイツ語初級2単位

③ フランス語

実用フランス語技能検定試験（仏検）（財団法人 フランス語教育振興協会）

4 級 : フランス語入門 2 単位

3 級以上: フランス語入門 2 単位およびフランス語初級 2 単位

④ 中国語

【ア】 中国語検定試験（日本中国語検定協会）

準 4 級: 中国語入門 2 単位

4 級: 中国語入門 2 単位および中国語初級 2 単位

3 級以上: 4 級の規定に準じる

【イ】 中国政府漢語水平考試（HSK）（中国国家漢語水平考試委員会）

基礎 1 級: 中国語入門 2 単位

基礎 2 級: 中国語入門 2 単位および中国語初級 2 単位

基礎 3 級, 初中等 3 級以上: 基礎 2 級の規定に準じる

※注意事項

平成 22 年度以降入学の医学部医学科学学生は、外国語技能検定試験により認定された単位は卒業に必要な単位とは認められないので、注意してください。

3. 4. 留学による単位の認定

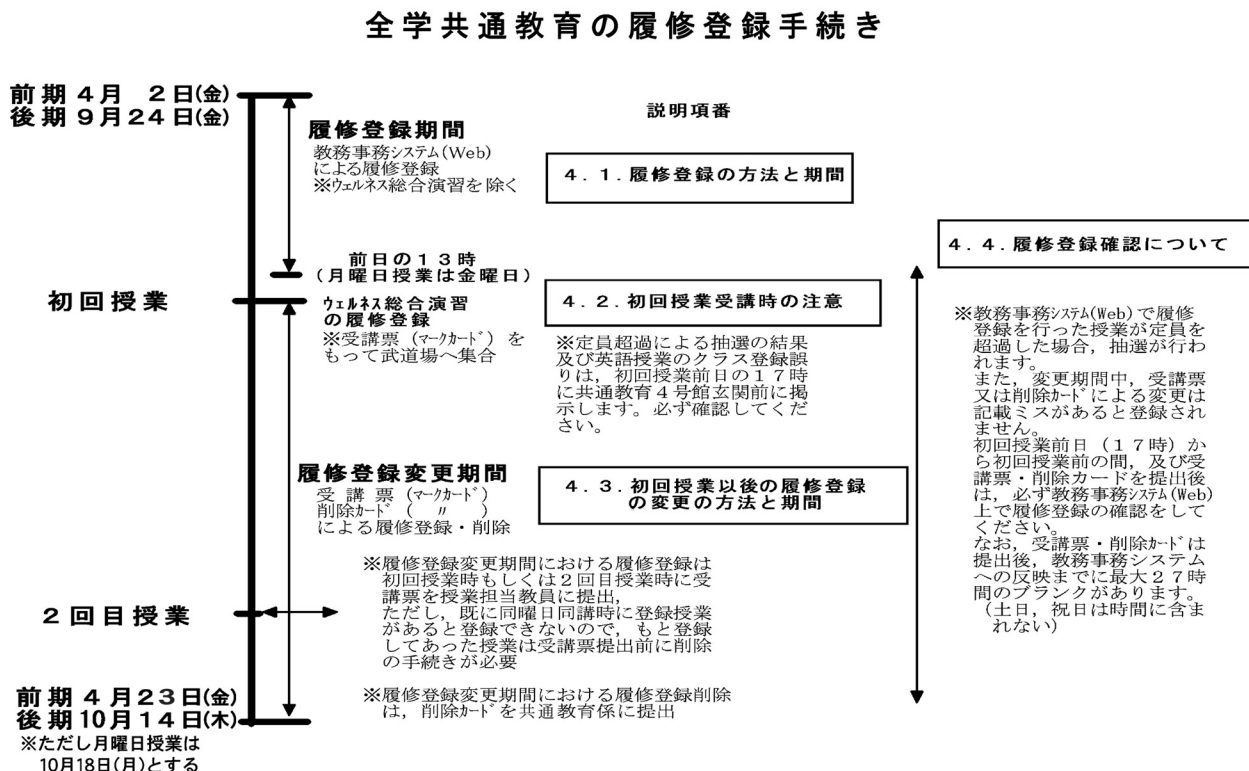
徳島大学では、下記の大学に短期留学した場合は、所定の条件のもとで、全学共通教育の外国語科目の単位が認定されます。単位認定を希望する学生は必ず事前に教育支援課共通教育係に相談してください。

外国語	指定研修先	備考
英語	ウェールズ大学スウォンジー校 カリフォルニア大学サンディエゴ校（医学英語プログラム※） 南イリノイ州立大学カーボンデール校 オークランド大学	※生理学と解剖学の知識を要する。
中国語	復旦大学 武漢大学	
フランス語	グルノーブル第三大学 ボルドー第三大学	

4. 授業の履修手続き

全学共通教育授業の履修計画の立案に当たっては、「全学共通教育履修の手引」及び「全学共通教育授業概要（シラバス）」を熟読するとともに「全学共通教育時間割」を参照し、『徳島大学全学共通教育 2010 学びのファーストステップ』に従って、立案してください。この場合、各学部・学科によって、卒業に必要な単位数が異なりますので、履修要件を満たすように計画してください。

授業の履修手続きの流れは、次の図（全学共通教育の履修登録手続き）のとおりです。



4. 1. 履修登録の方法と期間

全学共通教育の科目を履修するためには、履修しなければならない科目、履修したい科目を登録することが必要です。『徳島大学全学共通教育 2010 学びのファーストステップ』の「履修登録の手順」に従って、登録してください。

1. 履修登録の方法（ウェルネス総合演習を除く。）

履修登録は、原則学内（学部・学科・高度情報化基盤センターなど）のパソコンを使用して教務事務システム（Web）で登録します。（※注1・2）

教務事務システム（Web）の履修登録には締め切りがあり、それ以降の履修登録は受講票（マークカード）のみとなります。（※注3）

2. ウェルネス総合演習の履修登録の方法

ウェルネス総合演習は、受講票（マークカード）を担当教員に提出することにより、履修登録します。教務事務システム（Web）での履修登録はできません。詳しくは、「4. 2. 初回授業受講時の注意」をご覧ください。

3. 履修登録の期間

前期授業履修登録期間 平成22年4月 2日(金)～ 4月15日(休)

後期授業履修登録期間 平成22年9月24日(金)～ 10月 6日(休)

- (1) 各授業の履修登録には締め切りがあり、初回授業前日（月曜日の授業は前週の金曜日）の13時となっています。（昼間、夜間主コースとも締切は同じ）

(2) ウェルネス総合演習は初回授業時、教員の指示により、受講票（マークカード）を授業担当教員へ提出します。

***注1：学外からの履修登録について**

高度情報化基盤センターホームページで学外用ユーザー ID を登録すると学外からも履修システムが利用できるようになります。新入生は、既に登録されているので、学外のパソコンから履修登録ができます。

なお、オリエンテーション時に渡しました学外用のユーザー ID は、4 か月の利用期限があり、継続して利用する場合は、その都度更新（登録）する必要があります。（新入生用に登録したものは7月末までの期限となります。）

利用方法は『徳島大学全学共通教育 2010 学びのファーストステップ ⑧学外からの接続方法』の「WWW ブラウザによる学外からの学内の Web サーバー閲覧（SSL－VPN）サービスについて」を参照ください。

***注2：英語（再履修）の履修登録について**

「Ⅲ 学部・学科別の履修方法」で記載の、主題別英語（T）を基盤英語（B）の代わりに受講する場合の履修登録は教務事務システム（Web）を使用せず、初回授業時に担当教員へ受講票（マークカード）を提出することにより、登録してください。（履修登録システム（Web）で登録すると誤りとして取り扱われます。）

***注3：履修登録のマークカードについて**

履修登録に使用するマークカードは、履修登録用の受講票（マークカード）と履修削除用の削除カード（マークカード）の2種類あります。これらのマークカードは、共通教育4号館1階の教育支援課共通教育係にあります。

4. 2. 初回授業受講時の注意

1. 教養科目の場合

履修登録数が受講定員を超えた場合は、コンピュータにより抽選します。抽選結果は授業前日（月曜日授業は前週の金曜日）17時に共通教育4号館1階玄関前に掲示しますので、必ず確認してください。なお、教務事務システム（WEB）の履修登録画面でも、抽選結果を確認できますが、掲示では、履修登録の誤り等の情報もお知らせしているので、必ず掲示も併せて確認してください。）

また、抽選にはずれた履修登録は、既に登録取り消しの処理が行われているので、削除カード（マークカード）を提出する必要はありません。

（抽選にはずれた場合）

抽選にはずれた場合は、次に希望する授業の受講票（マークカード）を準備し、授業開始時に担当教員に受講票を提出することにより、履修登録します。その際、既に抽選が行われた授業には受講票の提出はできません。また、受講票が提出できても授業開始後10分以内に受講定員を超過した場合は、提出された受講票の中で再度抽選が行われます。

再度抽選にはずれた場合は、同様に受講票を準備して次に希望する授業へ行き、「再度抽選にはずれた」旨を申し出て、すみやかに担当教員に受講票を提出してください。（その際、受講票の提出は、授業開始時刻を超過していても差し支えありません。）

なお、教育支援課共通教育係に当日、朝の時点の各授業の履修登録状況一覧表を準備しているので、確認の上、次に受講票を提出する授業を決めてください。

また、初回授業時は担当教員が教室の黒板に、担当授業の履修登録追加可能な人数を板書することとなっていますので、教室へ行ったときに状況を把握することができます。

教養科目以外の授業（高大接続科目、自然科学入門、共創型学習、ヒューマンコミュニケーションなど）でも定員を超過した場合は、抽選を行います。抽選にはずれた場合は、教養科目と同様に受講票を準備して次に希望する授業へ行き、すみやかに担当教員に受講票を提出してください。

2. ウェルネス総合演習の場合

初回授業は常三島体育館 1 F の武道場に全員集まりクラス分けを行います。受講票（マークカード）を担当教員の指示により提出し、授業を受けてください。（事前の受講票提出はできません。）

また、通常の授業の受講に特別な事情で不安がある場合（肢体不自由、身体衰弱、退院後間もない、病氣、けがの場合など）は、担当教員に相談してください。

受講票（マークカード）の記入については、「4. 3 初回授業以後の履修登録の変更の方法と期間」の記載例をご覧ください。

3. 外国語科目の場合

外国語科目は、学部・学科により、時間割の指定があります。時間割の指定があっても複数の選択肢がある場合は、受講定員超過による抽選が行われる場合があります。教養科目と同様、抽選が行われた場合は、初回授業前日の 17 時に、結果を共通教育 4 号館 1 階に掲示します。

もし、抽選にはずれた場合は、次に希望する授業の受講票を準備し、授業開始時に担当教員に受講票（マークカード）を提出してください。なお、抽選にはずれた授業の削除カード（マークカード）は、提出不要です。

（英語について）

英語は、次の事項に注意ください。

(1) 英語クラスの抽選について

英語クラスでは、受講定員の超過の有無にかかわらず、その時間帯の同種クラスの人数バランスによって調整（抽選）を行うことがありますので、授業前に必ず掲示を確認してください。

受講調整が行われた場合は、他の抽選と同様に掲示を行います。移動先を指示していますので、授業当日、指示された移動先の担当教員へ受講票を提出し、受講してください。なお、抽選にはずれた授業の削除カード（マークカード）は、提出不要です。

(2) 履修するクラスの登録誤り

履修登録で指定クラスの誤りがあった場合も抽選と同様に掲示を行います。

移動先（正しいクラス）を指示していますので、授業当日、指示された移動先の担当教員へ受講票を提出し、受講してください。なお、受講調整となった授業の削除カード（マークカード）は、提出不要です。

(3) 再履修者、編入学者の履修登録について

再履修者、編入学者はクラス指定にかかわらず、必要に応じて自分の都合の良い曜日講時に履修登録することができますが、履修登録の状況により、同じ講時の別のクラスへ移動するよう、指示されることがあります。その場合は、抽選と同様、初回授業前日の 17 時に掲示しますので、授業当日、移動先の担当教員へ受講票を提出し、受講してください。なお、その場合、移動となった授業の削除カード（マークカード）は、提出不要です。

4. 基礎科目の場合

初回授業についての特記事項はありません。履修登録した授業を受講してください。

5. 日本語科目及び日本事情に関する科目の場合

初回授業についての特記事項はありません。履修登録した授業を受講してください。

4. 3. 初回授業以後の履修登録の変更の方法と期間

履修登録期間の初回授業の前日 13 時までは、教務事務システム(Web)で登録・削除を自由にできます。初回授業以後の履修登録の変更については、次の 1～3 のとおりです。

なお、変更期間中の変更でも、各教員が授業計画に従い授業進行している最中の変更となりますので、教員の了承を得られたもの（受講票が受理されたもの）のみ、登録されます。（教員に提出しても受理されない場合があります。）

1. 変更の方法

履修登録の変更は

受講の許可を受けたい授業： 受講票（マークカード）を授業担当 教員に提出	+	履修登録を取り消したい授業： 削除カード（マークカード）を教育 支援課共通教育係へ提出
--	---	---

の一組の手続きが必要です。（「登録」と「削除」の2枚のマークカードが必要です。）

注意点は次のとおりです。

- (1) 例年、受講票、削除カードのマークミスによる誤りが多くあります。

提出前の確認、また、提出後に変更が反映されているかを必ず確認してください。（少なくとも翌々日には教務事務システム（Web）へ反映されます。）

- (2) 抽選が実施された授業への受講票の提出はできません。

抽選後、履修の取り消し等で、受講定員より受講者が少なくなる場合がありますが、その場合も不可です。

- (3) 履修登録変更のための受講票提出先は、授業担当教員のみです。

- (4) 全学共通教育、専門教育に関わらず同じ講時に複数の登録はできません。授業担当教員が受講票を受理した場合は、**速やかに**同じ講時に登録済みの授業の削除カード（マークカード）を教育支援課共通教育係へ提出してください。（専門科目は各学部で履修取り消しをしてください。）

* 受講票を提出し、同一曜日講時に既に登録があった場合、教務事務システム（Web）へ反映された時点で、既登録済みの履修登録と新規履修登録の両方が無効となるので注意して下さい。

なお、同一曜日講時の履修登録で無効となった履修登録は、全学共通教育または専門教育で同一曜日講時の授業の一方を削除すると、片方の授業は自動的に履修可となります。

2. 履修登録変更期間

履修登録変更期間は次のとおりです。

前期履修登録変更期間 初回授業日～平成22年 4月23日(金)

後期履修登録変更期間 初回授業日～平成22年10月14日(木)

ただし、後期月曜日の授業の変更締切は10月18日(月)とする。

注意事項

* 変更期間は設けていますが、非常勤講師等、授業日以外に手渡しできる機会の無い教員がいます。受講票は必ず授業時に渡すようにしてください。

全学共通教育 受講票

区分	学部	学 生 番 号	時間割コード	全学共通教育 受講票		
新規 削除	総科 医 歯 薬 工昼 工夜	5010070010	12407	平成 22 年度 前期 火 曜日 7・8 講時	マーク例 良い例 悪い例 マークは鉛筆HBを使用して	
		[1][1][1][1][1][1][1][1][1][1]	[1][1][1][1][1][1][1][1][1][1]	授業科目名		ウェルネス総合演習
		[2][2][2][2][2][2][2][2][2][2]	[2][2][2][2][2][2][2][2][2][2]	授業題目名		
		[3][3][3][3][3][3][3][3][3][3]	[3][3][3][3][3][3][3][3][3][3]	教 官 名		的 場 教官
		[4][4][4][4][4][4][4][4][4][4]	[4][4][4][4][4][4][4][4][4][4]	〈工 学 部〉		光太郎工 学科 / 年
		[5][5][5][5][5][5][5][5][5][5]	[5][5][5][5][5][5][5][5][5][5]	氏 名		光 太郎
		[6][6][6][6][6][6][6][6][6][6]	[6][6][6][6][6][6][6][6][6][6]	注1. 受講票は1科目1枚受講する全科目提出してください。		
		[7][7][7][7][7][7][7][7][7][7]	[7][7][7][7][7][7][7][7][7][7]	注2. 同じ時間帯に複数のカードを出すは無効になります。		
		[8][8][8][8][8][8][8][8][8][8]	[8][8][8][8][8][8][8][8][8][8]	注3. エラーが出ると無効になります。注意して記入してください。		
		[9][9][9][9][9][9][9][9][9][9]	[9][9][9][9][9][9][9][9][9][9]			
		[0][0][0][0][0][0][0][0][0][0]	[0][0][0][0][0][0][0][0][0][0]			

全学共通教育 受講削除カード

区分	学部	学 生 番 号	時間割コード	全学共通教育 受講削除カード		
削 除 カ ー ド	総科 医 歯 薬 工昼 工夜	5010070010	12407	平成 22 年度 前期 火 曜日 7・8 講時	マーク例 良い例 悪い例 マークは鉛筆HBを使用して	
		[1][1][1][1][1][1][1][1][1][1]	[1][1][1][1][1][1][1][1][1][1]	授業科目名		ウェルネス総合演習
		[2][2][2][2][2][2][2][2][2][2]	[2][2][2][2][2][2][2][2][2][2]	授業題目名		
		[3][3][3][3][3][3][3][3][3][3]	[3][3][3][3][3][3][3][3][3][3]	教 員 名		的 場 教員
		[4][4][4][4][4][4][4][4][4][4]	[4][4][4][4][4][4][4][4][4][4]	工 学部		光太郎工 学科 / 年
		[5][5][5][5][5][5][5][5][5][5]	[5][5][5][5][5][5][5][5][5][5]	氏 名		光 太郎
		[6][6][6][6][6][6][6][6][6][6]	[6][6][6][6][6][6][6][6][6][6]	注1. このカードは受講登録後、受講を取り消す時に提出してください。		
		[7][7][7][7][7][7][7][7][7][7]	[7][7][7][7][7][7][7][7][7][7]	注2. エラーが出ると無効になります。注意して記入してください。		
		[8][8][8][8][8][8][8][8][8][8]	[8][8][8][8][8][8][8][8][8][8]			
		[9][9][9][9][9][9][9][9][9][9]	[9][9][9][9][9][9][9][9][9][9]			
		[0][0][0][0][0][0][0][0][0][0]	[0][0][0][0][0][0][0][0][0][0]			

4. 履修登録確認について

履修登録の確認は、教務事務システム（Web）の履修登録画面で随時見ることができます。また、受講調整や受講票・削除カードの提出などで履修登録の変更を行った場合は、必ずその都度確認してください。履修登録されていない科目は、授業を受けても単位を修得することはできません。

5. 授業を受ける

5. 1. 授業の場所

全学共通教育の授業は、共通教育4号館、5号館及び6号館、総合科学部2号館、3号館、および工学部共通講義棟の各講義室で行われます。ただし、一部の授業は、所属学部で行われるものもありますので、「全学共通教育時間割」で確認してください。なお、情報科学は高度情報化基盤センターで、ウェルネス総合演習は総合グラウンド及び常三島体育館でも実施されます。（この手引のp.94～p.107に配置図がありますので参照してください。）

5. 2. 授業の時間帯

全学共通教育の授業時間は、1 講時を 45 分とし、原則として 2 講時 90 分を 1 コマ（ひとまとまり）として実施されます。なお、各講時の授業時間帯は次のとおりです。

講時別授業時間帯

講 時	時 間 帯	備 考
第 1・2 講時	8 時40分～9 時25分 9 時25分～10 時10分	昼間コース授業
第 3・4 講時	10 時25分～11 時10分 11 時10分～11 時55分	〃
第 5・6 講時	12 時50分～13 時35分 13 時35分～14 時20分	〃
第 7・8 講時	14 時35分～15 時20分 15 時20分～16 時05分	〃
第 9・10 講時	16 時20分～17 時05分 17 時05分～17 時50分	〃
第 11・12 講時	18 時00分～18 時45分 18 時45分～19 時30分	夜間主コース授業
第 13・14 講時	19 時40分～20 時25分 20 時25分～21 時10分	〃

※夜間授業（第 11 講時～14 講時）は、工学部夜間主コースの学生しか受講できません。

5. 3. 授業のクラス分け

クラス分けは次のとおりです。なお、各授業の具体的なクラス分けは、オリエンテーション時に配付の「全学共通教育時間割クラス分け一覧」のとおりです。全学共通教育と専門教育でのクラス分けが異なる場合がありますので、履修登録時にクラスを間違わないように注意してください。

【教 養 科 目 群】…… クラスの指定はなく、各自が履修したい授業を自由に選ぶことができます。受講定員が定められており、受講希望者が定員数を超えた場合は、抽選等により受講者の調整を行います。

ゼミナール形式の授業、学部が開放する科目については受講者数の制限があります。

【社会性形成科目群】…… ウェルネス総合演習、共創型学習、ヒューマンコミュニケーション
ウェルネス総合演習とヒューマンコミュニケーションの一部ではクラス分けがあります。共創型学習はクラス指定はなく、各自が履修したい授業を自由に選ぶことができます。受講定員が定められており、受講希望者が定員数を超えた場合は、抽選等により受講者の調整を行います。

【基 盤 形 成 科 目 群】…… 時間割に記載のとおり、受講対象学部・学科が指定されています。

【基 礎 科 目 群】…… 時間割に記載のとおり、受講対象学部・学科が指定されています。

留学生対象

【日本語、日本事情】…… 日本語については、漢字圏出身者のクラスと非漢字圏出身者のクラスが用意されています。

5. 4. 授業を受ける態度

皆さんは大学生であるといえども、広い意味では社会人でもあります。授業を受けるにもマナーが必要です。次のことには特に注意してください。

- ・遅刻をしない
- ・飲食しない
- ・携帯電話の電源は切っておく
- ・私語はしない
- ・その他、迷惑になることをしない
- ・授業中に勝手に出入りしない

5. 5. オフィス・アワーについて

シラバスに記載されている「オフィスアワー」は、授業担当教員がみなさんからの質問に答えるために、研究室に在室している時間帯です。遠慮せずに教員の研究室を訪ねてください。本学の専任教員でない非常勤の教員については、非常勤講師控室（共通教育4号館1階）などで対応します。

5. 6. 学習支援室の利用

1. 総合科学部3号館1階にスタジオがあります。スタジオは全学の学生が自習のために利用できます。スタジオの利用時間は、土日祝日、授業等での使用時を除く21時30分までです。スタジオの一角に全学共通教育センター学習支援室があります。
2. 学習支援室には、さまざまな科目の教科書、参考書、辞典などを配架した書架と自習用スペースがあります。活用してください。
3. 学習支援室では、教員が待機して、みなさんの質問にお答えしています。待機している教員が担当している授業や待機時間は、掲示板に掲示されています。気軽に質問に来てください。
4. 成績に関する疑問や不満、不服等があった場合も学習支援室に申し出てください。適切に対応します。なお、この点については教育支援課共通教育係でも対応します。

5. 7. 気象警報が徳島県北部（徳島・鳴門）に発令された場合の授業の休講

1. 午前7時に「暴風警報と大雨警報」もしくは「暴風警報と洪水警報」または「大雪警報」が発令中の場合は、午前の授業を休講とします。
2. 午前11時に上記の警報が発令中の場合は、午後の授業を休講とします。
3. 午後4時に上記の警報が発令中の場合は、工学部夜間主コースの授業を休講とします。
4. 授業開始後に上記の警報が発令された場合は、次の時限以降の授業を休講とします。

6. 試験及び成績の評価

6. 1. 受験資格

試験は原則として前期・後期の学期末に行われ、授業時間数の3分の2以上出席していなければ、学期末試験の受験資格を失います。なお、試験を欠席した者で、追試験対象者以外は再受講となります。

6. 2. 学期末試験の期間

試験期間は次のとおりです。

学期末試験は通常の授業と同じ曜日・講時に行われます。

前期試験 平成22年 7月26日(月)～7月30日(金)

後期試験 平成23年 2月 2日(水)～2月 8日(火)

6. 3. 試験の受験心得

学期末試験をはじめとする、すべての試験の受験に当たっては、次のことを厳守しなければなりません。

1. 試験受験時は「学生証」を机の上に置いてください。
2. 学生証を所持していない学生は、教育支援課共通教育係において、「仮受験票」の交付を受けてください。
3. 「学生証」、「仮受験票」のどちらも所持しない者は試験を受けることはできません。
4. 携帯電話の使用は認めません。（時計は全教室に設置してあります。）
5. 遅刻の限度は試験開始後20分です。これを超えた者は受験資格を失います。
6. 退出する場合は試験開始後20分を待たなければなりません。

6. 4. 成績の評価

1. 成績の評価は、試験、レポート、学習状況などによって行われます。
2. 成績は、1科目100点満点で採点され、60点以上が合格となり、60点未満は不合格となります。
なお、成績証明書には、80点以上が優、70点～79点が良、60点～69点が可として、記載されます。
単位認定されたもの（入学前の既修得単位、放送大学の修得単位、外国語技能検定試験による単位等）については、認と記載されます。

6. 5. 不正行為について

学期末試験をはじめとする試験で不正行為をした者は、徳島大学学則により相応の懲戒処分を受けるとともに、不正行為があった学期中に履修した全科目（全学共通教育科目及び専門教育科目）の成績が取り消されます。

もちろん、取り消された科目は、再受講（改めて初めから受講すること）することとなります。

1. 不正行為とは、次のとおりとする。
 - (1) カンニング（カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
 - (2) 使用を禁じられた用具を使用して問題を解くこと。
 - (3) 試験場において、他の受験者の迷惑となる行為をすること。
 - (4) 試験場において、試験監督者等の指示に従わないこと。
 - (5) その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

6. 6. 成績の通知

1. 履修科目の成績は、次のとおり教務事務システム（Web）の成績照会画面でお知らせしますので、必ず確認してください。

前期試験成績の通知 平成22年8月30日(月)から

後期試験成績の通知 平成23年2月21日(月)から

2. 教務事務システム（Web）による成績通知の表示内容は、次のとおりです。

60点以上の点数記載の科目……合 格

不と記載されている科目……不合格につき「再試験」を受験できる科目

(不) " ……不合格につき再受講（改めて初めから授業を受講）となる科目

欠 " ……試験を欠席した科目（追試験対象者以外は再受講となる）

(欠) " ……受験資格（2／3以上の授業出席）がない科目（再受講となる）

6. 7. 追試験

1. 下記(1)～(3)の理由により学期末試験を受験できなかった者は、医師の診断書または欠席の理由が証明できる書類等を添えて「追試験」の実施を願い出ることができます。ただし、授業への規定出席日数が不足する者はこの対象にはなりません。

(1) 病気、ケガの場合

(2) 本人の責に帰することのできない特別の事情がある場合

(3) 全学共通教育センター運営委員会が認めた行事・大会等に参加する場合
（事前に教育支援課共通教育係に申し出てください。）

2. 追試験の願い出は、前項の事実を証明する証明書（医師の診断書など）に「学期末試験欠席届」を添えて、前期は8月6日(金)までに、後期は2月15日(火)までに教育支援課共通教育係へ申し出なければなりません。追試験の可否は全学共通教育センター運営委員会で審議され、許可された者には許可書が交付されます。

なお、「学期末試験欠席届」の用紙は教育支援課共通教育係にあります。

3. 追試験の期間は次のとおりです。

- ・前期追試験期間 平成22年9月 6日(月)～9月10日(金)
- ・後期追試験期間 平成23年2月28日(月)～3月 4日(金)

4. 追試験を受験する場合は「追試験許可書」(全学共通教育センター運営委員会押印のもの)を教育支援課共通教育係で受け取った上、学生本人が追試験の実施を改めて授業担当教員に願い出てください。試験日等は、授業担当教員から口頭又は掲示により連絡されます。なお、「追試験許可書」は、追試験の実施を授業担当教員に申し出る際に提出することとします。遅くとも試験開始時刻までには授業担当教員に提出してください。

5. 追試験の成績は、1科目100点満点で採点され、60点以上が合格となり、60点未満は不合格となります。不合格の場合は「再受講」となります。

6. 8. 再試験

1. 学期末試験の成績が不合格となり、成績通知表に再試験の指示を示す「不」の標示が記載されている科目については、次の期間内に再試験を受験することができます。なお、授業によっては再試験が実施されないものもありますので「授業概要」の「再試験の有無」欄で十分確認してください。

- ・前期再試験期間 平成22年9月 6日(月)～9月10日(金)
- ・後期再試験期間 平成23年2月28日(月)～3月 4日(金)

2. 再試験の受験を希望する場合は、教育支援課共通教育係で「再試験願」用紙の交付を受け、学生本人が再試験の実施を授業担当教員へ申し出て、「再試験願」を提出してください。

3. 再試験の実施日は、授業担当教員から口頭又は掲示により連絡されます。

4. 再試験合格者の成績は、一律に60点となります。不合格の場合は「再受講」となります。

6. 9. 再履修について(特に外国語と基礎科目群)

再履修となった場合、学年が上になるに従って、自分が所属する学部学科の専門の授業履修の関係で、受講上制約が生ずる可能性があります。再履修となった場合には、必ず授業担当の教員に問い合わせてください。

7. 全学共通教育の授業に関する付随的な事項

7. 1. Grade Point 評価

点数評価をもとに、Grade Point (GP) 評価を行っています。GP 評価とは1から5までの数字を用いた5段階評価であり、国際的によく使われる方法です。GP の計算方式は以下のようになります。

点数が60点以上の場合

$$GP = (\text{点数評価} - 50) / 10$$

点数が60点に満たない場合

$$GP = 0$$

したがって、100点なら GP = 5.0, 80点なら GP = 3.0, 60点なら GP = 1.0 となります。

GP によって2つの平均値を計算することができます。個人の成績の平均値 (GPA) とクラスの成績の平均値 (GPC) です。

$$GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の総和} / (\text{履修登録した単位数の合計})$$

$$GPC = \text{履修登録した受講者の GP の総和} / (\text{履修登録した受講者数の合計})$$

GPA を用いて、全学共通教育では各学部・専攻ごとにもっとも点数の高かった学生を「全学共通教育優秀学生賞」として表彰します。履修登録した科目で単位をとれなかった場合（不合格や試験の欠席など）、GP は 0 点と計算されます。成績評価が「認定」の科目は、GP の対象外となっています。授業計画を立てる際は十分気をつけてください。

7. 2. 授業参観について

全学共通教育センターでは、ファカルティ・デベロップメント（FD）（教員の授業内容や教育方法などの改善・向上を目的とした組織的な取組み）の一環として、教員同士がお互いに授業方法を学び合い、全学共通教育の一層の充実を図ることを目的として、「授業参観制度」があります。そのため、授業担当教員以外の教職員等が授業参観をすることがあります。授業参観の期間は次のとおりです。

授業参観の時期

前期 6 月前半

後期 12 月前半

7. 3. 全学共通教育の授業公開について

学習機会に対する地域住民の方々の多様なニーズに応じ、全学共通教育の一部の授業を一般市民・高校生にも公開しています。

公開する授業については、全学共通教育時間割の☆印を付してある科目です。学生と市民・高校生が同じ教室で学ぶことは、授業の活性化や世代間交流としても意義があり、学生にとっても市民・高校生にとっても良い刺激となるはずです。

7. 4 工学部 JABEE（日本技術者教育認定機構）について

工学部学生にとっては全学共通教育科目すべてが JABEE 対応科目となります。JABEE 合格の単位認定要領は、下記の通りとなっていますので、注意してください。

- 1) JABEE 合格の単位認定は、全学共通教育の成績が 60 点以上とします。
- 2) 全学共通教育の再試験で合格した場合は、JABEE も追加合格とします。ただし、再試験が行われない場合は、特に JABEE 用の再試験も行われません。
- 3) JABEE 基準 1（学習・教育目標）との関連については、
教養科目群：歴史と文化、人間と生命、生活と社会は、
 (a) 「地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養」に、
教養科目群：自然と技術、基盤形成科目群：情報科学は、
 (c) 「数学、自然科学、情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力」に、
基盤形成科目群：英語、ドイツ語、フランス語、中国語、日本語（留学生対象）は、
 (f) 「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力」に、
社会性形成科目群：ウェルネス総合演習は、
 (g) 「変化に対応した自主的、継続的に学習できる能力」に当たるものとします。

Ⅲ 学部・学科別の履修方法

1. 総合科学部	22
1. 1. 総合科学部人間文化学科	22
1. 2. 総合科学部社会創生学科	24
1. 3. 総合科学部総合理数学科	26
2. 医学部	28
2. 1. 医学部医学科	28
2. 2. 医学部栄養学科	30
2. 3. 医学部保健学科	32
2. 3. 1. 医学部保健学科看護学専攻	32
2. 3. 2. 医学部保健学科放射線技術科学専攻	34
2. 3. 3. 医学部保健学科検査技術科学専攻	36
3. 歯学部	38
3. 1. 歯学部歯学科	38
3. 2. 歯学部口腔保健学科	40
4. 薬学部	42
5. 工学部	44
5. 1. 工学部建設工学科	44
5. 2. 工学部機械工学科	46
5. 3. 工学部化学応用工学科	48
5. 4. 工学部生物工学科	50
5. 5. 工学部電気電子工学科	52
5. 6. 工学部知能情報工学科	54
5. 7. 工学部光応用工学科	56
6. 工学部夜間主コース	58
6. 1. 工学部夜間主コース建設工学科	58
6. 2. 工学部夜間主コース機械工学科	60
6. 3. 工学部夜間主コース化学応用工学科	62
6. 4. 工学部夜間主コース生物工学科	64
6. 5. 工学部夜間主コース電気電子工学科	66
6. 6. 工学部夜間主コース知能情報工学科	68
7. 留学生	70

Ⅲ. 学部・学科別の履修方法

1. 総合科学部

1. 1. 総合科学部人間文化学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で35単位です。

表1

(単位数)

区分	大学入門 科目群			教養科目群				社会性形成 科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウエ ル ス 合 演 習	共 創 型 学 習	ヒュー マン シ ン コ ミ ニ テ ィ	英 語	ド イ ツ 語	フ ラ ン ス 語	中 国 語	情 報 科 学	基 礎 数 学	基 礎 物 理 学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1	*0	0	4	4	4	4	2		0	8	4			2	0	0	0	0	0	0	0	
					2 (2科目群の科目から選択)																		
小計	1			20							14					0							35

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座は1単位必修の科目です。

※高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・Cについての補習的な内容を含んだ授業です。修得した場合は、教養科目群の授業科目「自然と技術」に2単位として含めることができます。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群・社会性形成科目群 (20単位)

教養科目群から16単位、社会性形成科目群から2単位、教養科目群と社会性形成科目群から2単位の合計20単位を修得してください。

① 教養科目群

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)ずつ、合計8題目(16単位)を修得してください。

・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか修得できません。

② 社会性形成科目群

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」の2つの授業科目から1授業題目(2単位)を修得してください。

③ 教養科目群と社会性形成科目群

2科目群の授業科目(ヒューマンコミュニケーションを除く。)から1授業題目(2単位)を修得してください。

(3) 基盤形成科目群 (14単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語8単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から4単位の計12単位、それに情報科学入門2単位の合計14単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									情報科学
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	情 報 科 学 入 門
2	2	4	4						2

① 英語（8単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）4単位の併せて8単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

総合科学部人間文化学科の履修パターン：

1年前期 B B 後期 T T 2年前期 C 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

履修登録上の注意：

1年次の外国語は、月5・6、火3・4、水1・2、木1・2の4つの時間帯に開講されていますが、時間割については、まず初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）を決め、その後に英語を決めてください。フランス語および中国語では学生番号等によるクラス分けがあり（「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照）、選択した外国語と自分の学生番号によって、「月5・6と水1・2」または「火3・4と木1・2」のどちらかの時間帯で受講します。英語は、初修外国語の時間割が決まった後、空いた時間帯で受講してください。英語については、登録者数が多いクラスでは受講者調整をすることがあります。第1回目授業の前日（前期：4月9日～4月15日、後期：10月1日～10月6日）の17時に履修登録名簿を共通教育4号館1階玄関に掲示します。

② 初修外国語（4単位）

ひとつの外国語を4単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を前期に2単位、「初級」を後期に2単位の計4単位を修得してください。

「入門」および「初級」は指定されたペアのクラスで受講してください。クラスは、A、B、Cなどと表記されています。なお、ドイツ語のクラスは学科指定になります。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はドイツ語は1単位ずつ、フランス語と中国語では2単位が一括認定されます。

再受講については、原則として、「入門」は「入門」で、「初級」は「初級」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

※ 中国語は「入門」の単位を取得していなければ、「初級」を受講することはできません。

1. 2. 総合科学部社会創生学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で 35 単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門 科目群			教養科目群				社会性形成 科目群		基盤形成科目群					基礎科目群							合計	
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス 総合演習	共創型学習	コミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1	※0	0	4	4	4	4	2		0	8	4			2	0	0	0	0	0	0	0	
	2（2科目群の科目から選択）																						
小計	1			20							14					0							35

(1) 大学入門科目群 (1 単位)

大学入門講座は 1 単位必修の科目です。

※高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・C についての補習的な内容を含んだ授業です。修得した場合は、教養科目群の授業科目「自然と技術」に 2 単位として含めることができます。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群・社会性形成科目群 (20 単位)

教養科目群から 16 単位、社会性形成科目群から 2 単位、教養科目群と社会性形成科目群から 2 単位の合計 20 単位を修得してください。

① 教養科目群

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の 4 つの授業科目のそれぞれの中から、2 授業題目 (4 単位) ずつ、合計 8 題目 (16 単位) を修得してください。

・ゼミナール形式の授業 (授業題目にゼミナールと表示) は、1 授業題目 (2 単位) しか修得できません。

② 社会性形成科目群

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」の 2 つの授業科目から 1 授業題目 (2 単位) を修得してください。

③ 教養科目群と社会性形成科目群

2 科目群の授業科目 (ヒューマンコミュニケーションを除く。) から 1 授業題目 (2 単位) を修得してください。

(3) 基盤形成科目群 (14 単位)

下記の表 2 の通り、外国語については、英語 8 単位、英語以外の外国語 (ドイツ語、フランス語、中国語) から 4 単位の計 12 単位、それに情報科学入門 2 単位の合計 14 単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	4			4				2

① 英語（8単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）4単位の併せて8単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

総合科学部社会創生学科の履修パターン：

1年前期 B B 後期 T T 2年前期 C 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

履修登録上の注意：

1年次の外国語は、月5・6、火3・4、水1・2、木1・2の4つの時間帯に開講されていますが、時間割については、まず初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）を決め、その後に英語を決めてください。フランス語および中国語では学生番号等によるクラス分けがあり（「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照）、選択した外国語と自分の学生番号によって、「月5・6と水1・2」または「火3・4と木1・2」のどちらかの時間帯で受講します。英語は、初修外国語の時間割が決まった後、空いた時間帯で受講してください。英語については、登録者数が多いクラスでは受講者調整をすることがあります。第1回目授業の前日（前期：4月9日～4月15日、後期：10月1日～10月6日）の17時に履修登録名簿を共通教育4号館1階玄関に掲示します。

② 初修外国語（4単位）

ひとつの外国語を4単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を前期に2単位、「初級」を後期に2単位の計4単位を修得してください。

「入門」および「初級」は指定されたペアのクラスで受講してください。クラスはA、B、Cなどと表記されています。なお、ドイツ語のクラスは学科指定になります。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はドイツ語は1単位ずつ、フランス語と中国語では2単位が一括認定されます。

再受講については、原則として、「入門」は「入門」で、「初級」は「初級」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

※中国語は「入門」の単位を取得していなければ、「初級」を受講することはできません。

1. 3. 総合科学部総合理数学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で 35 単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門 科目群			教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成 科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1	※0	0	4	4	4	4	2		0	6	4			2	0	0	0	0	0	0	0	
				4(2科目群の科目から選択)																			
小計	1			22									12					0					35

(1) 大学入門科目群 (1 単位)

大学入門講座は 1 単位必修の科目です。

※高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・C についての補習的な内容を含んだ授業です。修得した場合は、教養科目群の授業科目「自然と技術」に 2 単位として含めることができます。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群・社会性形成科目群 (22 単位)

教養科目群から 16 単位、社会性形成科目群から 2 単位、教養科目群と社会性形成科目群から 4 単位の合計 22 単位を修得してください。

① 教養科目群

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の 4 つの授業科目のそれぞれの中から、2 授業題目 (4 単位) ずつ、合計 8 題目 (16 単位) を修得してください。

・各授業科目は各 6 単位までしか卒業に必要な単位として認められません。

ただし、③教養科目群と社会性形成科目群で履修した教養科目群の単位数を含みます。

・ゼミナール形式の授業 (授業題目にゼミナールと表示) は、1 授業題目 (2 単位) しか修得できません。

② 社会性形成科目群

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」の 2 つの授業科目から 1 授業題目 (2 単位) を修得してください。

③ 教養科目群と社会性形成科目群

2 科目群の授業科目 (ヒューマンコミュニケーションを除く。) から 2 授業題目 (4 単位) を修得してください。

(3) 基盤形成科目群 (12 単位)

下記の表 2 の通り、外国語については、英語 6 単位、英語以外の外国語 (ドイツ語、フランス語、中国語) から 4 単位の計 10 単位、それに情報科学入門 2 単位の合計 12 単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	2			4				2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

総合科学部総合理数学科の履修パターン

（年度によって履修可能なパターンが異なりますので、時間割を確認してください。）：

1年前期	B	B	後期	T	2年前期	C	後期	T
または								
1年前期	B	B	後期	T	2年前期	T	後期	C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

1年次後期は、再受講を除いて、Tを1つだけ履修してください。Tを2つ履修している場合は、片方を削除することもあります。

履修登録上の注意：

1年次の外国語は、月5・6、火3・4、水1・2、木1・2の4つの時間帯に開講されていますが、時間割については、まず初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）を決め、その後に英語を決めてください。フランス語および中国語では学生番号等によるクラス分けがあり（「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照）、選択した外国語と自分の学生番号によって、「月5・6と水1・2」または「火3・4と木1・2」のどちらかの時間帯で受講します。英語は、初修外国語の時間割が決まった後、空いた時間帯で受講してください。英語については、登録者数が多いクラスでは受講者調整をすることがあります。第1回目授業の前日（前期：4月9日～4月15日、後期：10月1日～10月6日）の17時に履修登録名簿を共通教育4号館1階玄関に掲示します。

② 初修外国語（4単位）

ひとつの外国語を4単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を前期に2単位、「初級」を後期に2単位の計4単位を修得してください。

「入門」および「初級」は指定されたペアのクラスで受講してください。クラスは、A、B、Cなどと表記されています。

なお、ドイツ語のクラスは学科指定で、受講者数が45人を超えた場合は、受講者の調整をします。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はドイツ語は1単位ずつ、フランス語と中国語では2単位が一括認定されます。

再受講については、原則として、「入門」は「入門」で、「初級」は「初級」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

※ 中国語は「入門」の単位を取得していなければ、「初級」を受講することはできません。

2. 医 学 部

2. 1. 医学部医学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で 45 単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門 科目群			教養科目群				社会性形成 科目群			基盤形成科目群				基礎科目群							合計	
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1	0	0	4	4	4	4	2	2		4	4			2	2	2	2	2	2	2	2	
小計	1			16				4			10				14							45	

(1) 大学入門科目群 (1 単位)

大学入門講座は 1 単位必修の科目です。

高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・C についての補足的な内容を含んだ授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (16 単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の 4 つの授業科目のそれぞれの中から、2 授業題目 (4 単位) ずつ、合計 8 題目 (16 単位) を修得してください。

・ゼミナール形式の授業 (授業題目にゼミナールと表示) は、1 授業題目 (2 単位) しか修得できません。

(3) 社会性形成科目群 (4 単位)

「ウェルネス総合演習」2 単位と、「共創型学習」と「ヒューマンコミュニケーション」の 2 つの授業科目から 1 授業題目 (2 単位) の合計 2 題目 (4 単位) を修得してください。

(4) 基盤形成科目群 (10 単位)

下記の表 2 の通り、外国語については、英語 4 単位、英語以外の外国語 (ドイツ語、フランス語、中国語) から 4 単位の計 8 単位、それに情報科学入門 2 単位の合計 10 単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

※平成 22 年度以降入学の医学部医学科学生については、外国語技能検定試験により認定された単位は 卒業に必要な単位とは認められないので、注意してください。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									情報科学
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	
2	2	0	4						

① 英語（4単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位の併せて4単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

医学部医学科の履修パターン：

1年前期 B B 後期 T T

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、再受講する必要があります。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語（4単位）

ひとつの外国語を4単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を前期に2単位、「初級」を後期に2単位の計4単位を修得してください。

「入門」および「初級」は指定されたペアのクラスで受講してください。クラスは、A、B、Cなどと表記されています。ドイツ語の指定クラスは「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はドイツ語は1単位ずつ、フランス語と中国語では2単位が一括認定されます。

再受講については、原則として、「入門」は「入門」で、「初級」は「初級」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

※ 中国語は「入門」の単位を取得していなければ、「初級」を受講することはできません。

(5) 基礎科目群（14単位）

下表3の通り、基礎数学2単位、基礎物理学2単位、基礎物理学実験2単位、基礎化学2単位、基礎化学実験2単位、基礎生物学2単位、基礎生物学実験2単位の合計14単位を修得してください。

表3

基礎数学	2 S	微分積分学	1 S	1年前期	火7・8
		統計学	1 S	1年後期	火7・8
基礎物理学	2 S	基礎物理学Ⅰ・物理学概論	1 S	1年前期	火3・4
		基礎物理学Ⅱ・物理学概論	1 S	1年後期	火3・4
基礎物理学実験	2 E	基礎物理学実験A	2 E	1年後期	金7・8・9・10
		基礎物理学実験B	2 E	1年後期	水7・8・9・10
基礎化学	2 S	基礎化学Ⅰ・生化学の基礎	1 S	1年前期	金5・6
		基礎化学Ⅱ	1 S	1年後期	木5・6
基礎化学実験	2 E	基礎化学実験	2 E	1年後期	集中(①9/13~9/17, ②2/17, 18, 21, ③2/22, 23)
基礎生物学	2 S	基礎生物学MⅠ	1 S	1年前期	金7・8
		基礎生物学MⅡ	1 S	1年後期	月5・6
基礎生物学実験	2 E	基礎生物学実験A	2 E	1年後期	水7・8・9・10
		基礎生物学実験B	2 E	1年後期	金7・8・9・10

※ 基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学または電磁気）で受講してください。

※ 基礎化学実験の履修は、①～③の各期間毎の前半をAクラスとし、後半をBクラスとします。

2. 2. 医学部栄養学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で43単位です。

表1

(単位数)

区分	大学入門 科目群			教養科目群				社会性形成 科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	コミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1	※0	0	4	4	4	4	2	2	0	6		2		2	2	0	0	4	2	2	2	
小計	1			16				4			10					12							43

(1) 大学入門科目群（1単位）

大学入門講座は1単位必修の科目です。

※高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・Cについての補習的な内容を含んだ授業です。修得した場合は、教養科目群の授業科目「自然と技術」に2単位として含めることができます。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群（16単位）

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目（4単位）ずつ、合計8題目（16単位）を修得してください。

・ゼミナール形式の授業（授業題目にゼミナールと表示）は、1授業題目（2単位）しか修得できません。

(3) 社会性形成科目群（4単位）

「ウェルネス総合演習」2単位と「共創型学習」2単位の合計4単位を修得してください。

(4) 基盤形成科目群（10単位）

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）から2単位の計8単位、それに情報科学入門2単位の合計10単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤	主題別	発信型	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
英語	英語	英語							
2	2	2	2						2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。ただし、初修外国語でフランス語を選択する場合は、前期月曜日5・6講時の基盤英語の代わりに前期月曜日7・8講時の基盤英語を受講してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

医学部栄養学科の履修パターン

（年度によって履修可能なパターンが異なりますので、時間割を確認してください。）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位を修得してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に週1回ずつ、受講してください。フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。中国語の指定クラスは「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2単位が一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。なお、ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

(5) 基礎科目群（12単位）

下表3の通り、基礎数学2単位、基礎化学4単位、基礎化学実験2単位、基礎生物学2単位、基礎生物学実験2単位の合計12単位を修得してください。

表3

基礎数学	2 L	統計学	2 L	1年前期	火3・4
基礎化学	4 L	基礎化学Ⅰ・物理化学 (化学平衡と反応速度論)	2 L	1年後期	金3・4
		基礎化学Ⅱ・有機化学 (ライフサイエンスの基礎)	2 L	1年前期	木1・2
基礎化学実験	2 E	基礎化学実験	2 E	1年後期	火5・6・7・8
基礎生物学	2 L	基礎生物学N	2 L	1年後期	水7・8
基礎生物学実験	2 E	基礎生物学実験N	2 E	1年前期	水7・8・9・10

2. 3. 医学部保健学科

2. 3. 1. 医学部保健学科看護学専攻

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で 29 単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群			教養科目群				社会性形成科目群			基盤形成科目群				基礎科目群							合計			
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験			
	1	※0	0	4	4	4	4		2		6		2		2	0	0	0	0	0	0	0			
	小計			1				16				2			10				0						

(1) 大学入門科目群 (1 単位)

大学入門講座は 1 単位必修の科目です。

※高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・C についての補習的な内容を含んだ授業です。修得した場合は、教養科目群の授業科目「自然と技術」に 2 単位として含めることができます。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (16 単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の 4 つの授業科目のそれぞれの中から、2 授業題目 (4 単位) ずつ、合計 8 題目 (16 単位) を修得してください。

・ゼミナール形式の授業 (授業題目にゼミナールと表示) は、1 授業題目 (2 単位) しか修得できません。

(3) 社会性形成科目群 (2 単位)

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の 3 つの授業科目から 1 授業題目 (2 単位) を修得してください。

(4) 基盤形成科目群 (10 単位)

下記の表 2 の通り、外国語については、英語 6 単位、英語以外の外国語 (ドイツ語、フランス語、中国語) から 2 単位の計 8 単位、それに情報科学入門 2 単位の合計 10 単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	2	2						2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

医学部保健学科看護学専攻の履修パターン

（年度によって履修可能なパターンが異なりますので、時間割を確認してください。）：

1年前期	B	B	後期	T	2年前期	C	後期	T
または								
1年前期	B	B	後期	T	2年前期	T	後期	C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位を修得してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に週1回ずつ受講してください。フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2単位が一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。なお、ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

2. 3. 2. 医学部保健学科放射線技術科学専攻

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で 37 単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門 科目群			教養科目群				社会性形成 科目群			基盤形成科目群				基礎科目群							合計	
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1	0	0	4	4	4	4		2		6		2		2	2	0	2	0	2	0		
小計	1			16				2			10				8							37	

(1) 大学入門科目群 (1 単位)

大学入門講座は 1 単位必修の科目です。

高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・C についての補習的な内容を含んだ授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (16 単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の 4 つの授業科目のそれぞれの中から、2 授業題目 (4 単位) ずつ、合計 8 題目 (16 単位) を修得してください。

・ゼミナール形式の授業 (授業題目にゼミナールと表示) は、1 授業題目 (2 単位) しか修得できません。

(3) 社会性形成科目群 (2 単位)

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の 3 つの授業科目から 1 授業題目 (2 単位) を修得してください。

(4) 基盤形成科目群 (10 単位)

下記の表 2 の通り、外国語については、英語 6 単位、英語以外の外国語 (ドイツ語、フランス語、中国語) から 2 単位の計 8 単位、それに情報科学入門 2 単位の合計 10 単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	2	2						2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

医学部保健学科放射線技術科学専攻の履修パターン

（年度によって履修可能なパターンが異なりますので、時間割を確認してください。）：

1年前期	B	B	後期	T	2年前期	C	後期	T
または								
1年前期	B	B	後期	T	2年前期	T	後期	C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位を修得してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に週1回ずつ受講してください。フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2単位が一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。なお、ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

(5) 基礎科目群（8単位）

下表3の通り、基礎数学2単位、基礎物理学2単位、基礎化学2単位、基礎生物学2単位の合計8単位を修得してください。

表3

基礎数学	2 L	微分積分学	2 L	1年前期	月7・8
基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学概論	2 L	1年前期	月5・6
基礎化学	2 L	化学の基礎	2 L	1年前期	水1・2
基礎生物学	2 L	基礎生物学H	2 L	1年後期	水1・2

※基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学）で受講してください。

2. 3. 3. 医学部保健学科検査技術科学専攻

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で33単位です。

表1

(単位数)

区分	大学入門 科目群			教養科目群				社会性形成 科目群			基盤形成科目群				基礎科目群							合計	
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1	※0	0	4	4	4	4		2		6		2		2	0	0	0	2	0	2	0	
小計	1			16				2			10				4							33	

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座は1単位必修の科目です。

※高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・Cについての補習的な内容を含んだ授業です。修得した場合は、教養科目群の授業科目「自然と技術」に2単位として含めることができます。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (16単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)ずつ、合計8題目(16単位)を修得してください。

・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか修得できません。

(3) 社会性形成科目群 (2単位)

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の3つの授業科目から1授業題目(2単位)を修得してください。

(4) 基盤形成科目群 (10単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から2単位の計8単位、それに情報科学入門2単位の合計10単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	2	2						2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

医学部保健学科検査技術科学専攻の履修パターン

（年度によって履修可能なパターンが異なりますので、時間割を確認してください。）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位を修得してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に週1回ずつ受講してください。フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2単位が一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。なお、ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

(5) 基礎科目群（4単位）

下表3の通り、基礎化学2単位、基礎生物学2単位の合計4単位を修得してください。

表3

基礎化学	2 L	化学の基礎	2 L	1年前期	水1・2
基礎生物学	2 L	基礎生物学H	2 L	1年後期	水1・2

3. 歯 学 部

3. 1. 歯学部歯学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で 49 単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群			教養科目群				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	コミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1	0	※2	4	4	4	4		2		6		4		2	3	2	2	3	2	2	2	
小計	3			16				2			12					16							49

(1) 大学入門科目群（3 単位）

大学入門講座は 1 単位必修の科目です。

高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・C についての補足的な内容を含んだ授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

※自然科学入門は 2 単位必修の科目です。「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強しながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。大学入門講座「大学としての学び」において、履修指導された授業を履修してください。履修指導された授業以外を履修して修得した単位は卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

(2) 教養科目群（16 単位）

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の 4 つの授業科目のそれぞれの中から、2 授業題目（4 単位）ずつ、合計 8 題目（16 単位）を修得してください。

・ゼミナール形式の授業（授業題目にゼミナールと表示）は、1 授業題目（2 単位）しか修得できません。

(3) 社会性形成科目群（2 単位）

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の 3 つの授業科目から 1 授業題目（2 単位）を修得してください。

(4) 基盤形成科目群（12 単位）

下記の表 2 の通り、外国語科目については、英語 6 単位、英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）から 4 単位の計 10 単位、それに情報科学入門 2 単位の合計 12 単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	2	4						2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

歯学部歯学科の履修パターン：

1年前期 B B 後期 T T 2年前期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語（4単位）

ひとつの外国語を4単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を前期に2単位、「初級」を後期に2単位の計4単位を修得してください。

「入門」および「初級」は指定されたペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はドイツ語は1単位ずつ、フランス語と中国語では2単位が一括認定されます。

再受講については、原則として、「入門」は「入門」で、「初級」は「初級」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

※ 中国語は「入門」の単位を取得していなければ、「初級」を受講することはできません。

(5) 基礎科目群（16単位）

下表3の通り、基礎数学3単位、基礎物理学2単位、基礎物理学実験2単位、基礎化学3単位、基礎化学実験2単位、基礎生物学2単位、基礎生物学実験2単位の合計16単位を修得してください。

表3

基礎数学	3 S	微分積分学	1 S	1年前期	火7・8
		統計学	1 S	1年後期	火7・8
		医療情報処理	1 S	1年前期	金5・6
基礎物理学	2 S	基礎物理学Ⅰ・物理学概論	1 S	1年前期	火5・6
		基礎物理学Ⅱ・物理学概論	1 S	1年後期	火5・6
基礎物理学実験	2 E	基礎物理学実験A	2 E	1年後期	金7・8・9・10
		基礎物理学実験B	2 E	1年後期	水7・8・9・10
基礎化学	3 S	基礎化学Ⅰ・物理化学 (平衡と反応速度)	1 S	1年前期	水5・6
		基礎化学ⅡA・有機化学 (ライフサイエンスの基礎)	1 S	1年後期	月5・6
		基礎化学ⅡB・有機化学 (ライフサイエンスの基礎)	1 S	2年前期	火1・2
基礎化学実験	2 E	基礎化学実験	2 E	2年前期	水7・8・9・10
基礎生物学	2 S	基礎生物学DⅠ	1 S	1年前期	金1・2
		基礎生物学DⅡ	1 S	1年後期	木3・4
基礎生物学実験	2 E	基礎生物学実験A	2 E	1年後期	水7・8・9・10
		基礎生物学実験B	2 E	1年後期	金7・8・9・10

※ 基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学または電磁気）で受講してください。

3. 2. 歯学部口腔保健学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で 29 単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群			教養科目群				社会性形成科目群			基盤形成科目群				基礎科目群							合計			
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験			
	1	※0	0	4	4	4	4		2		6		2		2	0	0	0	0	0	0	0			
	小計			1				16				2			10				0						

(1) 大学入門科目群（1 単位）

大学入門講座は 1 単位必修の科目です。

※高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・C についての補習的な内容を含んだ授業です。修得した場合は、教養科目群の授業科目「自然と技術」に 2 単位として含めることができます。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群（16 単位）

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の 4 つの授業科目のそれぞれの中から、2 授業題目（4 単位）ずつ、合計 8 題目（16 単位）を修得してください。

・ゼミナール形式の授業（授業題目にゼミナールと表示）は、1 授業題目（2 単位）しか修得できません。

※ 社会福祉士国家試験の受験資格を取得しようとする者は、「人間と生命」から「心理学概論」を修得してください。

(3) 社会性形成科目群（2 単位）

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の 3 つの授業科目から 1 授業題目（2 単位）を修得してください。

(4) 基盤形成科目群（10 単位）

下記の表 2 の通り、外国語については、英語 6 単位、英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）から 2 単位の計 8 単位、それに情報科学入門 2 単位の合計 10 単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	2	2						2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

歯学部口腔保健学科履修パターン：

1年前期 B B 後期 T T 2年前期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位を修得してください。中国語の指定クラスは「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に週1回ずつ受講してください。フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2単位が一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。なお、ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

4. 薬 学 部

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で 49 単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群			教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群				基礎科目群							合計	
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ユニバーシジョンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1	0	0	4	4	4	4	2			4	4			2	4	2	0	6	0	2	0	
	6（2科目群の科目から選択）											4	4			2	4	2	0	6	0	2	
小計	1			24							10				14							49	

(1) 大学入門科目群 (1 単位)

大学入門講座は 1 単位必修の科目です。

高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・C についての補習的な内容を含んだ授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群・社会性形成科目群 (24 単位)

教養科目群から 16 単位、社会性形成科目群から 2 単位、教養科目群と社会性形成科目群から 6 単位の合計 24 単位を修得してください。

① 教養科目群

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の 4 つの授業科目のそれぞれの中から、2 授業題目 (4 単位) ずつ、合計 8 題目 (16 単位) を修得してください。

・各授業科目は各 6 単位までしか卒業に必要な単位として認められません。

ただし、③教養科目群と社会性形成科目群で修得した教養科目群の単位数を含みます。

・ゼミナール形式の授業 (授業題目にゼミナールと表示) は、1 授業題目 (2 単位) しか修得できません。

② 社会性形成科目群

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の 3 つの授業科目から 1 授業題目 (2 単位) を修得してください。

③ 教養科目群と社会性形成科目群

2 科目群の授業科目から 3 授業題目 (6 単位) を修得してください。

(3) 基盤形成科目群 (10 単位)

下記の表 2 の通り、外国語については、英語 4 単位、英語以外の外国語 (ドイツ語、フランス語、中国語) から 4 単位の計 8 単位、それに情報科学入門 2 単位の合計 10 単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		情報科学
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	情 報 科 学 入 門
1	1	2	4						2

① 英語（4単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）1単位、主題別英語（Tと略記）1単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて4単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

薬学部の履修パターン：

1年前期 B 後期 T 2年前期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限1単位です。

② 初修外国語（4単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択してください。ドイツ語は「入門」を1年次前期・後期に各1単位、「初級」を2年次前期・後期に各1単位の計4単位を修得してください。フランス語および中国語はペアのクラスで「入門」を1年次前期に2単位、「初級」を1年次後期に2単位の計4単位履修してください。ドイツ語の指定クラスは「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

「入門」および「初級」は指定されたクラスで受講してください。

※ ドイツ語「入門」を2単位、フランス語「入門」を2単位、あわせて4単位のように、2つの外国語で各2単位、計4単位履修することもできます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語と中国語では2単位が一括認定されます。

再受講については、原則として、「入門」は「入門」で、「初級」は「初級」で受講してください。

なお、ドイツ語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

※ 中国語は「入門」の単位を取得していなければ、「初級」を受講することはできません。

(4) 基礎科目群（14単位）

下表3の通り、基礎数学4単位、基礎物理学2単位、基礎化学6単位、基礎生物学2単位の合計14単位を修得してください。

表3

基礎数学	4 L	微分積分学	2 L	2年前期	月5・6
		統計学	2 L	2年後期	月5・6
基礎物理学	2 L	力学及び熱力学	2 L	1年前期	月1・2
基礎化学	6 L	基礎化学Ⅰ・電子と有機化学	2 L	1年前期	水7・8
		基礎化学Ⅱ・原子と分子	2 L	1年後期	水5・6
		基礎化学Ⅲ・細胞生物化学の基礎	2 L	1年前期	水9・10
基礎生物学	2 L	基礎生物学P	2 L	1年前期	月5・6

5. 工 学 部

5. 1. 工学部建設工学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で 41 単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門 科目群			教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成 科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1	0	0	2	2	2	4	2			6	2			2	8	2	0	2	0	0	0	
	6(2科目群の科目から選択)																						
小計	1			18							10					12							41

(1) 大学入門科目群 (1 単位)

大学入門講座は 1 単位必修の科目です。

高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・C についての補習的な内容を含んだ授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群・社会性形成科目群 (18 単位)

教養科目群から 10 単位、社会性形成科目群から 2 単位、教養科目群と社会性形成科目群から 6 単位の合計 18 単位を修得してください。

① 教養科目群

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」の 3 授業科目のそれぞれの中から 1 授業題目 (2 単位) ずつ、「自然と技術」から 2 授業題目 (4 単位) を修得し、合計 5 授業題目 (10 単位) を修得してください。

・各授業科目は各 6 単位までしか卒業に必要な単位として認められません。

ただし、③教養科目群と社会性形成科目群で修得した教養科目群の単位数を含みます。

・ゼミナール形式の授業 (授業題目にゼミナールと表示) は、1 授業題目 (2 単位) しか修得できません。

② 社会性形成科目群

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の 3 つの授業科目から 1 授業題目 (2 単位) を修得してください。

③ 教養科目群と社会性形成科目群

2 科目群の授業科目から 3 授業題目 (6 単位) を修得してください。

(3) 基盤形成科目群 (10 単位)

下記の表 2 の通り、外国語については、英語 6 単位、英語以外の外国語 (ドイツ語、フランス語、中国語) から 2 単位の計 8 単位、それに情報科学入門 2 単位の合計 10 単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群										
外 国 語 の 区 分									情報科学	
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語			
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	情 報 科 学 入 門	
2	2	2	2							2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

工学部建設工学科の履修パターン

（年度によって履修可能なパターンが異なりますので、時間割を確認してください。）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位を修得してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に週1回ずつ受講してください。フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2単位が一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。なお、ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

(4) 基礎科目群（12単位）

下表3の通り、基礎数学8単位、基礎物理学2単位、基礎化学2単位の合計12単位を修得してください。

表3

基礎数学	8 L	線形代数学Ⅰ	2 L	1年前期	水1・2
		線形代数学Ⅱ	2 L	1年後期	水1・2
		微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	金3・4
		微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	金3・4
基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学概論	2 L	1年前期	月5・6
基礎化学	2 L	基礎化学概論	2 L	1年後期	木1・2

※ 基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学）で受講してください。

5. 2. 工学部機械工学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で41単位です。

表1

(単位数)

区分	大学入門科目群			教養科目群				社会性形成科目群			基盤形成科目群				基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験
	1	0	0	4	4	4	4	2	0	0	6	2			2	8	2	0	0	0	0	0
				2 (4科目から選択)																		
小計	1			18				2			10				10							41

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座は1単位必修の科目です。

高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・Cについての補習的な内容を含んだ授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (18単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)以上3授業題目(6単位)以内を修得し、合計9題目(18単位)を修得してください。

・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか修得できません。

(3) 社会性形成科目群 (2単位)

「ウェルネス総合演習」2単位を修得してください。

(4) 基盤形成科目群 (10単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から2単位の計8単位、それに情報科学入門2単位の合計10単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	2	2						2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

工学部機械工学科の履修パターン

（年度によって履修可能なパターンが異なりますので、時間割を確認してください。）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位を修得してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に週1回ずつ受講してください。フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。ドイツ語の指定クラスは「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2単位が一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。なお、ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

(5) 基礎科目群（10単位）

下表3の通り、基礎数学8単位、基礎物理学2単位の合計10単位を修得してください。

表3

基礎数学	8 L	線形代数学Ⅰ	2 L	1年前期	木1・2
		線形代数学Ⅱ	2 L	1年後期	木1・2
		微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	水5・6
		微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	水5・6
基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学概論	2 L	1年前期	月5・6

※ 基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学）で受講してください。

5. 3. 工学部化学応用工学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で43単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門 科目群			教養科目群				社会性形成 科目群			基盤形成科目群				基礎科目群							合計	
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1	0	0	4	4	4	4	2	0	0	6		2		2	8	4	0	0	2	0	0	
小計	1			16				2			10				14							43	

(1) 大学入門科目群（1単位）

大学入門講座は1単位必修の科目です。

高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・Cについての補習的な内容を含んだ授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群（16単位）

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目（4単位）ずつ、合計8題目（16単位）を修得してください。

・ゼミナール形式の授業（授業題目にゼミナールと表示）は、1授業題目（2単位）しか修得できません。

(3) 社会性形成科目群（2単位）

「ウェルネス総合演習」2単位を修得してください。

(4) 基盤形成科目群（10単位）

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）から2単位の計8単位、それに情報科学入門2単位の合計10単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									情報科学
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	
2	2	2	2						2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

工学部化学応用工学科の履修パターン

（年度によって履修可能なパターンが異なりますので、時間割を確認してください。）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位を修得してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に週1回ずつ受講してください。フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。中国語の指定クラスは「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

なお、ドイツ語のクラスは受講者数が60人を超えた場合は、受講者の調整をします。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2単位が一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。なお、ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

(5) 基礎科目群（14単位）

下表3の通り、基礎数学8単位、基礎物理学4単位、基礎化学実験2単位の合計14単位を修得してください。

表3

基礎数学	8 L	線形代数学Ⅰ	2 L	1年前期	水1・2
		線形代数学Ⅱ	2 L	1年後期	水1・2
		微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	金3・4
		微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	金3・4
基礎物理学	4 L	基礎物理学 f・力学概論	2 L	1年前期	水5・6
		基礎物理学 g・電磁気学概論	2 L	1年後期	水5・6
基礎化学実験	2 E	基礎化学実験	2 E	2年後期	水5・6・7・8

※ 基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学または電磁気）で受講してください。

5. 4. 工学部生物工学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で45単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群			教養科目群				社会性形成科目群			基盤形成科目群				基礎科目群							合計	
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1	0	0	4	4	4	4		2		6		2		2	8	4	0	2	0	2	0	
小計	1			16				2			10				16							45	

(1) 大学入門科目群 (1 単位)

大学入門講座は1単位必修の科目です。

高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・Cについての補習的な内容を含んだ授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (16 単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)ずつ、合計8題目(16単位)を修得してください。

・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか修得できません。

(3) 社会性形成科目群 (2 単位)

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の3つの授業科目から1授業題目(2単位)を修得してください。

(4) 基盤形成科目群 (10 単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から2単位の計8単位、それに情報科学入門2単位の合計10単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	2	2						2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

工学部生物工学科の履修パターン

（年度によって履修可能なパターンが異なりますので、時間割を確認してください。）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位を修得してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に週1回ずつ受講してください。フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2単位が一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。なお、ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

(5) 基礎科目群（16単位）

下表3の通り、基礎数学8単位、基礎物理学4単位、基礎化学2単位、基礎生物学2単位の合計16単位を修得してください。

表3

基礎数学	8 L	線形代数学Ⅰ	2 L	1年前期	水1・2
		線形代数学Ⅱ	2 L	1年後期	水1・2
		微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	金3・4
		微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	金3・4
基礎物理学	4 L	基礎物理学 f・力学概論	2 L	1年前期	水7・8
		基礎物理学 g・電磁気学概論	2 L	1年後期	水7・8
基礎化学	2 L	基礎化学 i・化学結合論	2 L	1年前期	火5・6
基礎生物学	2 L	基礎生物学 T	2 L	1年前期	月5・6

※ 基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学または電磁気）で受講してください。

5. 5. 工学部電気電子工学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で45単位です。

表1

(単位数)

区分	大学入門科目群			教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1	0	0	4	4	4	4	2	0	0	6		2		2	8	2	0	0	0	0	0	
	6(2科目群の科目から選択)																						
小計	1			24							10					10							45

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座は1単位必修の科目です。

高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・Cについての補習的な内容を含んだ授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群・社会性形成科目群 (24単位)

教養科目群から16単位、社会性形成科目群からウェルネス総合演習2単位、教養科目群と社会性形成科目群から6単位の合計24単位を修得してください。

① 教養科目群

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)ずつ、合計8題目(16単位)を修得してください。

・各授業科目は各6単位までしか卒業に必要な単位として認められません。

ただし、③教養科目群と社会性形成科目群で修得した教養科目群の単位数を含みます。

・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか修得できません。

② 社会性形成科目群

「ウェルネス総合演習」2単位を修得してください。

③ 教養科目群と社会性形成科目群

2科目群の授業科目から3授業題目(6単位)を修得してください。

(3) 基盤形成科目群 (10単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から2単位の計8単位、それに情報科学入門2単位の合計10単位修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									情報科学
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	
2	2	2	2						

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

工学部電気電子工学科の履修パターン

（年度によって履修可能なパターンが異なりますので、時間割を確認してください。）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位を修得してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に週1回ずつ受講してください。フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。中国語の指定クラスは「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2単位が一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。なお、ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

(4) 基礎科目群（10単位）

下表3の通り、基礎数学8単位、基礎物理学2単位の合計10単位を修得してください。

表3

基礎数学	8 L	線形代数学Ⅰ	2 L	1年前期	木1・2
		線形代数学Ⅱ	2 L	1年後期	木1・2
		微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	水5・6
		微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	水5・6
基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学概論	2 L	1年前期	火5・6

※ 基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学）で受講してください。

5. 6. 工学部知能情報工学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で43単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群			教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	コミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1	0	0	4	4	4	4	2	0	0	6		2		0	8	2	0	0	0	0	0	
				6(4科目から選択)																			
小計	1			22				2			8					10							43

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座は1単位必修の科目です。

高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・Cについての補習的な内容を含んだ授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (22単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)以上3授業題目(6単位)以内を修得し、合計11題目(22単位)を修得してください。

- ・各授業科目は各6単位までしか卒業に必要な単位として認められません。
- ・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか修得できません。

(3) 社会性形成科目群 (2単位)

「ウェルネス総合演習」2単位を修得してください。

(4) 基盤形成科目群 (8単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から2単位の合計8単位修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									情報科学
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	情 報 科 学 入 門
2	2	2	2						0

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

工学部知能情報工学科の履修パターン

（年度によって履修可能なパターンが異なりますので、時間割を確認してください。）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位を修得してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に週1回ずつ受講してください。フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2単位が一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。なお、ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

(5) 基礎科目群（10単位）

下表3の通り、基礎数学8単位、基礎物理学2単位の合計10単位を修得してください。

表3

基礎数学	8 L	線形代数学Ⅰ	2 L	1年前期	月7・8
		線形代数学Ⅱ	2 L	1年後期	月7・8
		微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	水7・8
		微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	水7・8
基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学概論	2 L	1年後期	金7・8

※ 基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学）で受講してください。

5. 7. 工学部光応用工学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で43単位です。

表1

(単位数)

区分	大学入門科目群			教養科目群				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス	総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験
	1	0	0	4	4	4	4	2	0	0		6		2		2	8	2	0	2	0	0	0
	2(2科目群の科目から選択)																						
小計	1			20							10					12							43

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座は1単位必修の科目です。

高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・Cについての補習的な内容を含んだ授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群・社会性形成科目群 (20単位)

教養科目群から16単位、社会性形成科目群からウェルネス総合演習2単位、教養科目群と社会性形成科目群から2単位の合計20単位を修得してください。

① 教養科目群

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)ずつ、合計8題目(16単位)を修得してください。

・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか修得できません。

② 社会性形成科目群

「ウェルネス総合演習」2単位を修得してください。

③ 教養科目群と社会性形成科目群

2科目群の授業科目から1授業題目(2単位)を修得してください。

(3) 基盤形成科目群 (10単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から2単位の計8単位、それに情報科学入門2単位の合計10単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	2	2						2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

工学部光応用工学科の履修パターン

（年度によって履修可能なパターンが異なりますので、時間割を確認してください。）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位を修得してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に週1回ずつ受講してください。フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。中国語の指定クラスは「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2単位が一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。なお、ドイツ語と中国語の後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

特別な事情によりすでに相当の知識・技能を有している外国語を、初修外国語として履修するのは望ましくないこともあります。このような場合は、事前に関係教員と相談してください。

(4) 基礎科目群（12単位）

下表3の通り、基礎数学8単位、基礎物理学2単位、基礎化学2単位の合計12単位を修得してください。

表3

基礎数学	8 L	線形代数学Ⅰ	2 L	1年前期	月7・8
		線形代数学Ⅱ	2 L	1年後期	月7・8
		微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	火3・4
		微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	火5・6
基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学概論	2 L	1年前期	水1・2
基礎化学	2 L	基礎化学 i・化学結合論	2 L	1年前期	火5・6

※ 基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学）で受講してください。

6. 工学部夜間主コース

6. 1. 工学部夜間主コース 建設工学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で 37 単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群			教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1	0	0	2	2	2	4	2			6	0			2	8	2	0	0	0	0	0	
	6 (2科目群の科目から選択)																						
小計	1			18							8					10							37

(1) 大学入門科目群 (1 単位)

大学入門講座は 1 単位必修の科目です。

高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・Cについての補習的な内容を含んだ授業で、昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業で、昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群・社会性形成科目群 (18 単位)

教養科目群から 10 単位、社会性形成科目群から 2 単位、教養科目群と社会性形成科目群から 6 単位の合計 18 単位を修得してください。

① 教養科目群

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」の 3 授業科目のそれぞれの中から 1 授業題目 (2 単位) ずつ、「自然と技術」から 2 授業題目 (4 単位) を修得し、合計 5 授業題目 (10 単位) を修得してください。

- 各授業科目は各 6 単位までしか卒業に必要な単位として認められません。

- ただし、③教養科目群と社会性形成科目群で修得した教養科目群の単位数を含みます。

- ゼミナール形式の授業 (授業題目にゼミナールと表示) は、1 授業題目 (2 単位) しか修得できません。

② 社会性形成科目群

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の 3 つの授業科目から 1 授業題目 (2 単位) を修得してください。

③ 教養科目群と社会性形成科目群

2 科目群の授業科目から 3 授業題目 (6 単位) を修得してください。

※ 教養科目群の授業題目は、後期に限り、昼間コースから 2 授業題目 (4 単位) まで履修することができます。

※ 共創型学習の授業題目は、昼間コースから 1 授業題目 (2 単位) のみ履修することができます。

(3) 基盤形成科目群 (8 単位)

次頁の表 2 の通り、外国語については、英語 6 単位、それに情報科学入門 2 単位の合計 8 単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									情報科学
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	
2	2	2	0						2

① 英語 (6 単位)

表 2 の通り、基盤英語 (B と略記) 2 単位、主題別英語 (T と略記) 2 単位、発信型英語 (C と略記) 2 単位の併せて 6 単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は 1 科目 1 単位の授業ですが、発信型英語は 2 単位の授業です。
次の履修パターンが用意されています。

工学部建設工学科夜間主コースの履修パターン

(専門科目の履修もできるパターンを選んでください。):

1 年前期 B B 後期 T 2 年前期 C 後期 T
または
1 年前期 B B 後期 T 2 年前期 T 後期 C

B の再受講は次の期の T を余分にとることによって可能です。T の再受講は T で、C については原則 C を再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によっては C は T ふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。B の履修は上限 2 単位です。

※ 所要単位数を超えて修得した外国語科目の単位は、4 単位を上限として教養科目群の単位に含めることができます。

(4) 基礎科目群 (10 単位)

下表 3 の通り、基礎数学 8 単位、基礎物理学 2 単位の合計 10 単位を修得してください。

表 3

基礎数学	8 L	線形代数学 I	2 L	1 年前期	火 13・14
		線形代数学 II	2 L	1 年後期	火 13・14
		微分積分学 I	2 L	1 年前期	水 11・12
		微分積分学 II	2 L	1 年後期	水 11・12
基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学	2 L	1 年前期	木 13・14

※ 昼間コースの授業を履修する場合は、受講票 (マークカード) を教育支援課共通教育係へ提出してください。(Web では履修登録できません。)

なお、受講票の提出期限は、Web 登録と同じ (初回授業前日の 13 時まで) です。

6. 2. 工学部夜間主コース 機械工学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で 37 単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群			教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	コミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1	0	0	4	4	4	4	2	0	0	6		0		2	4	2	0	0	0	0	0	
	4(4科目から選択)																						
小計	1			20				2			8					6							37

(1) 大学入門科目群 (1 単位)

大学入門講座は 1 単位必修の科目です。

高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・C についての補習的な内容を含んだ授業で、昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業で、昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (20 単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の 4 つの授業科目のそれぞれの中から、2 授業題目 (4 単位) 以上 3 授業題目 (6 単位) 以内を修得し、合計 10 題目 (20 単位) を修得してください。

- ・各授業科目は各 6 単位までしか卒業に必要な単位として認められません。
- ・ゼミナール形式の授業 (授業題目にゼミナールと表示) は、1 授業題目 (2 単位) しか修得できません。

※ 教養科目群の授業題目は、後期に限り、昼間コースから 2 授業題目 (4 単位) まで履修することができます。

(3) 社会性形成科目群 (2 単位)

「ウェルネス総合演習」2 単位を修得してください。

(4) 基盤形成科目群 (8 単位)

下記の表 2 の通り、外国語については、英語 6 単位、それに情報科学入門 2 単位の合計 8 単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	2	0						2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

工学部機械工学科夜間主コースの履修パターン

（専門科目の履修もできるパターンを選んでください。）：

1年前期 B 後期 T 2年前期 B 後期 T 3年前期 C
 または
 1年前期 B 後期 T 2年前期 B 後期 T 3年後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

※ 所要単位数を超えて修得した外国語科目の単位は、4単位を上限として教養科目群の単位に含めることができます。

(5) 基礎科目群（6単位）

下表3の通り、基礎数学4単位、基礎物理学2単位の合計6単位を修得してください。

表 3

基礎数学	4 L	微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	水11・12
		微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	水11・12
基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学	2 L	1年前期	木13・14

※ 昼間コースの授業を履修する場合は、受講票（マークカード）を教育支援課共通教育係へ提出してください。（Webでは履修登録できません。）

なお、受講票の提出期限は、Web登録と同じ（初回授業前日の13時まで）です。

6. 3. 工学部夜間主コース 化学応用工学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で 37 単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群			教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群				基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	コミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験
	1	0	0	4	4	4	4	2	0	0	4	2	0	2		4	0	0	0	0	0	
				6(4科目から選択)																		
小計	1			22				2			8				4							37

(1) 大学入門科目群 (1 単位)

大学入門講座は 1 単位必修の科目です。

高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・C についての補習的な内容を含んだ授業で、昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業で、昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (22 単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の 4 つの授業科目のそれぞれの中から、2 授業題目 (4 単位) 以上 3 授業題目 (6 単位) 以内を修得し、合計 11 題目 (22 単位) を修得してください。

- 各授業科目は各 6 単位までしか卒業に必要な単位として認められません。

- ゼミナール形式の授業 (授業題目にゼミナールと表示) は、1 授業題目 (2 単位) しか修得できません。

※ 教養科目群の授業題目は、後期に限り、昼間コースから 2 授業題目 (4 単位) まで履修することができます。

※ 所要単位数を超えて修得した教養科目群の単位は、10 単位まで専門科目の選択科目に読み替えることができます。

(3) 社会性形成科目群 (2 単位)

「ウェルネス総合演習」2 単位を修得してください。

(4) 基盤形成科目群 (8 単位)

下記の表 2 の通り、外国語については、英語 4 単位とドイツ語 2 単位の計 6 単位、それに情報科学入門 2 単位の合計 8 単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2		2		0				2

① 英語（4単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）あるいは発信型英語（Cと略記）の中から2単位の併せて4単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

工学部化学応用工学科夜間主コースの履修パターン

（専門科目の履修もできるパターンを選んでください。）：

・ 1 年前期	B	B	後期	T	2 年前期	T	後期
・ 1 年前期	B	B	後期	T	2 年前期		後期 T
・ 1 年前期	B	B	後期		2 年前期	C	後期
・ 1 年前期	B	B	後期		2 年前期		後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

② ドイツ語（2単位）

ドイツ語入門を前期・後期に各1単位の計2単位を修得してください。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。

なお、後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。

再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

※ 所要単位数を超えて修得した外国語科目の単位は、6単位を上限として教養科目群の単位に含めることができます。

(5) 基礎科目群（4単位）

下表3の通り、基礎数学および基礎物理学から2授業科目4単位を修得してください。

表 3

右の題目から 4単位を選択	基礎数学	4 L	微分積分学Ⅰ	2 L	1 年前期	水11・12
			微分積分学Ⅱ	2 L	1 年後期	水11・12
	基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学	2 L	1 年前期	木13・14

※ 化学応用工学科夜間主コースの学生が、所要単位を超える基礎科目を修得した場合の超過単位は、外国語科目の超過単位と併せて8単位まで教養科目群の単位に含めることができます。

※ 昼間コースの授業を履修する場合は、受講票（マークカード）を教育支援課共通教育係へ提出してください。（Webでは履修登録できません。）

なお、受講票の提出期限は、Web登録と同じ（初回授業前日の13時まで）です。

6. 4. 工学部夜間主コース 生物工学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で 37 単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門 科目群			教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成 科目群			基盤形成科目群				基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	コミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験
				4	4	4	4	2			4	2	0	2	4	0	0	0	0	0		
	100			6 (4科目から選択)																		
小計	1			22				2			8				4							37

(1) 大学入門科目群 (1 単位)

大学入門講座は 1 単位必修の科目です。

高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・C についての補習的な内容を含んだ授業で、昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業で、昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (22 単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の 4 つの授業科目のそれぞれの中から、2 授業題目 (4 単位) 以上 3 授業題目 (6 単位) 以内を修得し、合計 11 題目 (22 単位) を修得してください。

- ・各授業科目は各 6 単位までしか卒業に必要な単位として認められません。
- ・ゼミナール形式の授業 (授業題目にゼミナールと表示) は、1 授業題目 (2 単位) しか修得できません。

※ 教養科目群の授業題目は、後期に限り、昼間コースから 2 授業題目 (4 単位) まで履修することができます。

※ 所要単位数を超えて修得した教養科目群の単位は、10 単位まで専門科目の選択科目に読み替えることができます。

(3) 社会性形成科目群 (2 単位)

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の 3 つの授業科目から 1 授業題目 (2 単位) 修得してください。

※ 共創型学習の授業題目は、昼間コースから 1 授業題目 (2 単位) のみ履修することができます。

(4) 基盤形成科目群 (8 単位)

下記の表 2 の通り、外国語については、英語 4 単位とドイツ語 2 単位の計 6 単位、それに情報科学入門 2 単位の合計 8 単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	0	2			0			2

① 英語（4単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位の併せて4単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

工学部生物工学科夜間主コースの履修パターン

（専門科目の履修もできるパターンを選んでください。）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 後期 T
 または
 1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTを再受講する必要があります。Bの履修は上限2単位です。

② ドイツ語（2単位）

ドイツ語入門を前期・後期に各1単位の計2単位を修得してください。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。

なお、後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。

再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

※ 所要単位数を超えて修得した外国語科目の単位は、4単位を上限として教養科目群の単位に含めることができます。

(5) 基礎科目群（4単位）

下表3の通り、基礎数学および基礎物理学から2授業題目4単位を修得してください。

表3

右の題目から 4単位を選択	基礎数学	4 L	微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	水11・12
			微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	水11・12
	基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学	2 L	1年前期	木13・14

※ 所要単位数を超えて修得した基礎科目群の単位は、専門科目の単位として読み替えることはできないので、注意してください。

※ 昼間コースの授業を履修する場合は、受講票（マークカード）を教育支援課共通教育係へ提出してください。（Webでは履修登録できません。）

なお、受講票の提出期限は、Web登録と同じ（初回授業前日の13時まで）です。

6. 5. 工学部夜間主コース 電気電子工学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で43単位です。

表1

(単位数)

区分	大学入門 科目群			教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成 科目群			基盤形成科目群				基礎科目群							合計	
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ユニバーサルコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1	0	0	4	4	4	4	2	0	0	4	2	0	2	8	2	0	0	0	0	0	0	
	6（2科目群の科目から選択）																						
小計	1			24							8				10							43	

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座は1単位必修の科目です。

高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・Cについての補習的な内容を含んだ授業で、昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業で、昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群・社会性形成科目群 (24単位)

教養科目群から16単位、社会性形成科目群からウェルネス総合演習2単位、教養科目群と社会性形成科目群から6単位の合計24単位を修得してください。

① 教養科目群

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)ずつ、合計8題目(16単位)を修得してください。

・各授業科目は各6単位までしか卒業に必要な単位として認められません。

ただし、③教養科目群と社会性形成科目群で修得した教養科目群の単位数を含みます。

・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか修得できません。

② 社会性形成科目群

「ウェルネス総合演習」2単位を修得してください。

③ 教養科目群と社会性形成科目群

2科目群の授業科目から3授業題目(6単位)を修得してください。

※ 教養科目群の授業題目は、後期に限り、昼間コースから2授業題目(4単位)まで履修することができます。

※ 共創型学習の授業題目は、昼間コースから1授業題目(2単位)のみ履修することができます。

(3) 基盤形成科目群 (8単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語4単位とドイツ語2単位の計6単位、それに情報科学入門2単位の合計8単位を修得してください。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									情報科学
英 語			ドイツ語		フランス語		中 国 語		
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	
1	1	2	2			0			

① 英語（4単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）1単位、主題別英語（Tと略記）1単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて4単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

工学部電気電子工学科夜間主コースの履修パターン：

1年前期 B 後期 T 2年前期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限1単位です。

② ドイツ語（2単位）

ドイツ語入門を前期・後期に各1単位の計2単位を修得してください。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。

なお、後期「入門」の再受講は、原則、後期「入門」を受講してください。

（選択できるクラスは時間割上少ないので、注意して受講することが必要です。）

再受講の具体的な方法については、各授業担当教員または教育支援課共通教育係に問い合わせてください。

※ 所要単位数を超えて修得した外国語科目の単位は、4単位を上限として教養科目群の単位に含めることができます。

(4) 基礎科目群（10単位）

下表3の通り、基礎数学8単位、基礎物理学2単位の合計10単位を修得してください。

表3

基礎数学	8 L	線形代数学Ⅰ	2 L	1年前期	火13・14
		線形代数学Ⅱ	2 L	1年後期	火13・14
		微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	水11・12
		微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	水11・12
基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学	2 L	1年前期	木13・14

※ 昼間コースの授業を履修する場合は、受講票（マークカード）を教育支援課共通教育係へ提出してください。（Webでは履修登録できません。）

なお、受講票の提出期限は、Web登録と同じ（初回授業前日の13時まで）です。

6. 6. 工学部夜間主コース 知能情報工学科

卒業に必要な全学共通教育の単位数は総計で 37 単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群			教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	自然科学入門	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	コミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1	0	0	4	4	4	4	2	0	0	6		0		0	8	0	0	0	0	0	0	
	4(4科目から選択)																						
小計	1			20				2			6					8							37

(1) 大学入門科目群 (1 単位)

大学入門講座は 1 単位必修の科目です。

高大接続科目の「数学」は、数Ⅲ・C についての補習的な内容を含んだ授業で、昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

自然科学入門には「物理学」、「化学」、「生物学」の授業があります。これらの授業は単なる高校の補習ではありません。高校の物理学・化学・生物学を勉強をしながら、身の回りの出来事を理解し、さらには基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを目指した授業で、昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位に認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (20 単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の 4 つの授業科目のそれぞれの中から、2 授業題目 (4 単位) 以上 3 授業題目 (6 単位) 以内を修得し、合計 10 題目 (20 単位) を修得してください。

- ・各授業科目は各 6 単位までしか卒業に必要な単位として認められません。
- ・ゼミナール形式の授業 (授業題目にゼミナールと表示) は、1 授業題目 (2 単位) しか修得できません。

※ 教養科目群の授業題目は、後期に限り、昼間コースから 2 授業題目 (4 単位) まで履修することができます。

(3) 社会性形成科目群 (2 単位)

「ウェルネス総合演習」2 単位を修得してください。

(4) 基盤形成科目群 (6 単位)

下記の表 2 の通り、外国語については、英語 6 単位を修得してください。

情報科学については、専門科目で履修します。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行うため、クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									情報科学
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	
2	2	2	0						

○ 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を修得してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次の履修パターンが用意されています。

工学部知能情報工学科夜間主コースの履修パターン

（専門科目の履修もできるパターンを選んでください。）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。ただし、履修前に教育支援課共通教育係へ問い合わせてください。Bの履修は上限2単位です。

※ 所要単位数を超えて修得した外国語科目の単位は、4単位を上限として教養科目群の単位に含めることができます。

(5) 基礎科目群（8単位）

下表3の通り、基礎数学8単位を修得してください。

表3

基礎数学	8 L	線形代数学Ⅰ	2 L	1年前期	火13・14
		線形代数学Ⅱ	2 L	1年後期	火13・14
		微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	水11・12
		微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	水11・12

※ 昼間コースの授業を履修する場合は、受講票（マークカード）を教育支援課共通教育係へ提出してください。（Webでは履修登録できません。）

なお、受講票の提出期限は、Web登録と同じ（初回授業前日の13時まで）です。

7. 留 学 生

留学生のみなさんには、所属する学部学科の履修方法に加え、次の方法が認められています。

- 1 日本事情には、日本事情Ⅰ～Ⅳがあり、教養科目群の中の授業（歴史と文化、人間と生命、生活と社会、自然と技術）に読み替えることができます。具体的な科目については年度により異なることがありますので、日本事情担当教員に問い合わせてください。
- 2 日本語は、基盤形成科目群に、日本語1～8まで開講され、1年生、2年生共にどの授業も受講することができます。日本語は外国語の単位として振り替えることができます。

IV 全学共通教育 開講授業科目・ 授業題目・担当者一覧(2010年度)

Ⅳ. 全学共通教育 開講授業科目・授業題目・担当者一覧 (2010年度)

大学入門科目群

授業科目(新)	授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
大学入門講座	大学入門講座 (総合科学部)	総合科目		教務・学生委員	前	総科
大学入門講座	大学入門講座 (医・医)	総合科目		教務・学生委員	前	医・医
大学入門講座	大学入門講座 (医・栄養)	総合科目		教務・学生委員	前	医・栄
大学入門講座	大学入門講座 (医・保健)	総合科目		教務・学生委員	前	医・保
大学入門講座	大学入門講座 (歯学部)	総合科目		教務・学生委員	前	歯
大学入門講座	大学入門講座 (薬学部)	総合科目		教務・学生委員	前	薬
大学入門講座	大学入門講座 (工・建設)	総合科目		教務・学生委員	前	工・建
大学入門講座	大学入門講座 (工・機械)	総合科目		教務・学生委員	前	工・機
大学入門講座	大学入門講座 (工・化学)	総合科目		教務・学生委員	前	工・化
大学入門講座	大学入門講座 (工・生物)	総合科目		教務・学生委員	前	工・生
大学入門講座	大学入門講座 (工・電気電子)	総合科目		教務・学生委員	前	工・電
大学入門講座	大学入門講座 (工・知能)	総合科目		教務・学生委員	前	工・知
大学入門講座	大学入門講座 (工・光)	総合科目		教務・学生委員	前	工・光
大学入門講座	大学入門講座 (工・建設) (夜)	総合科目		教務・学生委員	前	工・建・夜
大学入門講座	大学入門講座 (工・機械) (夜)	総合科目		教務・学生委員	前	工・機・夜
大学入門講座	大学入門講座 (工・化学) (夜)	総合科目		教務・学生委員	前	工・化・夜
大学入門講座	大学入門講座 (工・生物) (夜)	総合科目		教務・学生委員	前	工・生・夜
大学入門講座	大学入門講座 (工・電気電子) (夜)	総合科目		教務・学生委員	前	工・電・夜
大学入門講座	大学入門講座 (工・知能) (夜)	総合科目		教務・学生委員	前	工・知・夜
高大接続科目	数学	数学		大沼	前	総科
自然科学入門	化学－化学のしくみ－			菊池	前	総科
自然科学入門	物理学			齊藤	前	総科
自然科学入門	生物学－基礎からの細胞生物学－			渡部	前	総科

歴史と文化

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
日本の古代史	日本史	人文科学	衣川	前	総科
古代・中世日本の社会	日本史	人文科学	衣川	後	総科
戦国時代から近世社会への変化	日本史	人文科学	桑原 (恵)	前	総科
江戸時代後期の社会変動と明治維新	日本史	人文科学	桑原 (恵)	後	総科
20 世紀前半の中国	外国史	人文科学	荒武	前	総科
20 世紀後半の中国	外国史	人文科学	荒武	後	総科
現代世界の展開	外国史	人文科学	佐久間	前	総科
現代世界の展開	外国史	人文科学	佐久間	後	総科
アジアの近代と日本	外国史	人文科学	葭森	前	総科
日本古代文学Ⅰ	日本文学	人文科学	堤	前	総科
日本古代文学Ⅱ	日本文学	人文科学	堤	後	総科
明治文学を読む	日本文学	人文科学	鳥羽	前	総科
戦後文学を読む	日本文学	人文科学	鳥羽	後	総科
日本中近世文学Ⅰ	日本文学	人文科学	原水	前	総科

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
日本中近世文学Ⅱ	日本文学	人文科学	原水	後	総科
日本語の音声	日本語学	人文科学	岸江	前	総科
方言と社会	日本語学	人文科学	岸江	後	総科
日本語について考える	日本語学	人文科学	仙波	前	総科
現代日本語の諸問題	日本語学	人文科学	仙波	後	総科
中国仙人文化論	外国文学	人文科学	有馬	前	総科
中国占夢小説研究	外国文学	人文科学	有馬	後	総科
ドイツ・北欧の伝説とオペラ	外国文学	人文科学	石川	後	総科
東アジア考古学概論Ⅰ	考古学	人文科学	東	前	総科
東アジア考古学概論Ⅱ	考古学	人文科学	東	後	総科
考古学概論Ⅰ	考古学	人文科学	中村（豊）	前	埋蔵文化
考古学概論Ⅱ	考古学	人文科学	中村（豊）	後	埋蔵文化
西洋音楽の歴史	芸術	人文科学	宮澤	前	総科
アーツ・アンド・テクノロジー	芸術	人文科学	石井（健）	前	総科
ビジュアルコミュニケーション	芸術	人文科学	石井（健）	前	総科
写真画像保存技術概論	芸術	人文科学	石井（健）	後	総科
民族音楽入門	芸術	人文科学	片岡	前	総科
民族音楽入門	芸術	人文科学	片岡	後	総科
絵画表現と技法の基礎	芸術	人文科学	平木	前	総科
現代絵画論	芸術	人文科学	平木	前	総科
絵画表現と技法の応用	芸術	人文科学	平木	後	総科
デスクトップミュージック入門	芸術	人文科学	宮澤	後	総科
西洋音楽の歴史	芸術	人文科学	宮澤	後	総科
異文化／自文化研究へのいざない	文化人類学	人文科学	高橋（晋）	前	総科
沖縄社会文化論	文化人類学	人文科学	高橋（晋）	後	総科
中東経済入門－歴史と文化基盤－	経済学	社会科学	水島	前	総科
宮澤賢治の時代と社会	経済学	社会科学	中嶋（信）	後	総科
世界遺産が語る地理と歴史	地理学	社会科学	豊田	前	総科
日本図の歴史	地理学	社会科学	平井	前	総科
日本図の歴史	地理学	社会科学	平井	後	総科
徳島を考える	総合科目	総合	高橋（晋）他	前	総科
（総）中国語Ⅱ	中国語(2)	中国語	邵	前	総科
（総）中国語Ⅱ	中国語(2)	中国語	葭森	後	総科

人間と生命

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
知の探求と現代	哲学	人文科学	石田（三）	前	総科
認知哲学	哲学	人文科学	山口（裕）	前	総科
認知哲学	哲学	人文科学	山口（裕）	後	総科
古代ギリシアの人と思想	哲学	人文科学	吉田（昌市）	前	総科
生命倫理学研究	倫理学	人文科学	山口（裕）	前	総科
罪と悪－旧約聖書の世界－	倫理学	人文科学	吉田（昌市）	後	総科
東洋の知識人	外国史	人文科学	葭森	後	総科
はじめての心理学	心理学	社会科学	内海	後	総科

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
自己発見の心理学	心理学	社会科学	香川	前	開放セ
自己発見の心理学	心理学	社会科学	香川	後	開放セ
学びの心理学	心理学	社会科学	川野	前	開放セ
心理学基礎	心理学	社会科学	境	前	総科
心理学基礎	心理学	社会科学	境	後	総科
心理学概説	心理学	社会科学	佐藤（健）	前	総科
心理学概説	心理学	社会科学	佐藤（健）	後	総科
心とからだの健康	心理学	社会科学	福森, 佐竹, 佐野	前	総科
生体の統合機能	心理学	社会科学	勢井	後	医
心理学入門	心理学	社会科学	濱田	前	総科
知覚の心理学	心理学	社会科学	濱田	前	総科
心理学入門	心理学	社会科学	濱田	後	総科
心理学初歩	心理学	社会科学	原	前	総科
心理学初歩	心理学	社会科学	原	後	総科
心理学概論	心理学	社会科学	福森	前	総科
心理学概論	心理学	社会科学	福森	後	総科
自己分析の心理学	心理学	社会科学	山本（真）	前	総科
自己分析の心理学	心理学	社会科学	山本（真）	後	総科
現代世界の生涯学習	教育学	社会科学	鈴木（尚）	後	開放セ
鉄道の教育人間学 ーなぜ子供は「でんしゃ」が好きなのかー	教育学	社会科学	弘田	前	総科
声に出して読みたい教育哲学	教育学	社会科学	弘田	後	総科
学校の現象学：学校はいま？	教育学	社会科学	廣渡	後	開放セ
環境問題などと科学者・マスコミ ー各種の情報に惑わされない為の基礎知識ー	生物学	自然科学	小山（保）	前	総科
環境とバイオテクノロジー	生物学	自然科学	佐藤（高）	前	総科
生物と環境	生物学	自然科学	佐藤（征）	後	総科
バイオテクノロジーと生命倫理	生物学	自然科学	辻（明）	後	工
生体のしくみ	生物学	自然科学	中川	前	総科
身の回りの微生物	生物学	自然科学	横井川	前	総科
科学技術と人間	総合科目	総合	石田（三）	後	総科
パンセと絵画	総合科目	総合	大橋（眞）, 光永, 中恵	前	総科
グローバル社会を考える	総合科目	総合	大橋（眞）, 光永	後	総科
生命・健康・病気(1)	学部開放科目	学部開放	医学部教員	前	医
（医）放射線医学入門	学部開放科目	学部開放	上野（淳）他	後	医保
（歯）口腔と健康	学部開放科目	学部開放	河野	前	歯

生活と社会

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
憲法と人権	法律学	社会科学	麻生	後	非常勤
経済と法	法律学	社会科学	泉（克）	前	総科
経済と法	法律学	社会科学	泉（克）	前	総科
現代社会と法	法律学	社会科学	上原	前	総科
情報と法	法律学	社会科学	上原	後	総科

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
憲法と人権Ⅰ	法律学	社会科学	上地	前	非常勤
憲法と人権Ⅱ	法律学	社会科学	上地	後	非常勤
会社法入門	法律学	社会科学	清水	前	総科
法学入門	法律学	社会科学	清水	前	総科
消費生活と財産法	法律学	社会科学	直井	前	総科
家族法の諸問題	法律学	社会科学	直井	前	総科
憲法と人権Ⅰ	法律学	社会科学	堀井	前	非常勤
憲法と人権Ⅱ	法律学	社会科学	堀井	後	非常勤
司法と市民	法律学	社会科学	泉（克）他	後	総科
政治とメディア	政治学	社会科学	饗場	後	総科
国際政治学入門	政治学	社会科学	饗場	後	総科
市民と政治	政治学	社会科学	栗栖	前	総科
市民と政治	政治学	社会科学	栗栖	後	総科
移民から世界をみる	社会学	社会科学	樋口（直）	前	総科
移民から世界をみる	社会学	社会科学	樋口（直）	後	総科
科学技術と社会	社会学	社会科学	樋口（直）	後	総科
社会学のパースペクティブ	社会学	社会科学	矢部	前	総科
ボランティア実践	社会学	社会科学	矢部	後	総科
財政制度入門	経済学	社会科学	石田（和之）	前	総科
工業経済学	経済学	社会科学	立花	後	総科
人口経済学入門	経済学	社会科学	趙	前	総科
マクロ経済学入門	経済学	社会科学	趙	後	総科
ミクロ経済学入門	経済学	社会科学	内藤	前	総科
ゲーム理論入門	経済学	社会科学	内藤	後	総科
食生活の経済学	経済学	社会科学	中嶋（信）	前	総科
経済学入門	経済学	社会科学	真弓	前	総科
中東経済入門（第二次世界大戦後の政治と経済）	経済学	社会科学	水島	後	総科
地方行政経営論	経営学	社会科学	石田（和之）	後	総科
人材マネジメント	経営学	社会科学	西村（孝）	前	総科
経営学入門	経営学	社会科学	西村（孝）	後	総科
相互行為分析と現代社会	地理学	社会科学	檜田	後	総科
国際化のなかで地域問題を考える	地理学	社会科学	北村（修）	前	総科
国際化と環境問題	地理学	社会科学	北村（修）	後	総科
産業と交通	地理学	社会科学	田中（耕）	前	総科
暮らしと地図	地理学	社会科学	田中（耕）	後	総科
地球環境問題	地理学	社会科学	豊田	後	総科
ゼミナール「意思決定と情報」	社会科学ゼミナール	社会科学	多田	前	総科
ゼミナール「現代日本経済論」	社会科学ゼミナール	社会科学	立花	前	総科
ゼミナール「社会科学の夢」	社会科学ゼミナール	社会科学	水島	前	総科
国際協力論－四国から世界へ知って理解し動ける人に－	総合科目	総合	饗場	前	総科
ボランティア論	総合科目	総合	檜田他	前	総科

自然と技術

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
数理科学の世界	数学	自然科学	桑原 (類)	後	総科
数理の世界	数学	自然科学	村上 (公)	前	総科
身のまわりの物性科学	物理学	自然科学	小山 (晋)	前	総科
相対論入門	物理学	自然科学	中山 (信)	前	総科
量子論入門	物理学	自然科学	中山 (信)	後	総科
現代物理学の世界	物理学	自然科学	日置	後	総科
宇宙物理学入門	物理学	自然科学	伏見	前	総科
原子核・素粒子物理学の最先端	物理学	自然科学	伏見	後	総科
天然物化学入門	化学	自然科学	中村 (光)	後	総科
化学と社会	化学	自然科学	三好	前	総科
環境科学入門～人間と地球の調和を目指して～	化学	自然科学	山本 (裕)	前	総科
化学と技術ー生きている化学はおもしろいー	化学	自然科学	和田	前	総科
水産と生物	生物学	自然科学	浜野	前	総科
地域の農林水産業とその支援技術	生物学	自然科学	浜野	後	総科
ゲノムと発生のテクノロジー	生物学	自然科学	真壁	前	総科
遺伝と進化	生物学	自然科学	松尾 (義)	後	総科
日本の植物の多様性	生物学	自然科学	山城	後	総科
地球の科学	地学	自然科学	石田 (啓)	前	総科
地球の科学	地学	自然科学	石田 (啓)	後	総科
ゼミナール「自然の観察からレポートまで」	地学	自然科学	石田 (啓)	後	総科
第四紀の自然環境	地学	自然科学	西山 (賢)	前	総科
防災のための地球科学	地学	自然科学	西山 (賢)	後	総科
生物がつくる鉱物ー生体鉱物ー	地学	自然科学	沼子	前	総科
天然に産する無機化合物ー鉱物	地学	自然科学	沼子	後	総科
地球と地層の科学	地学	自然科学	村田 (明)	前	総科
身の回りの地球科学	地学	自然科学	村田 (明)	後	総科
ゼミナール「自動分析とフロー分析」	自然科学ゼミナール	自然科学	田中 (秀)	後	薬
ゼミナール「DNAーRNA 核酸医薬の化学」	自然科学ゼミナール	自然科学	南川	後	薬
ゼミナール「くすりをつくるー現代の錬金術・有機化学への招待ー」	自然科学ゼミナール	自然科学	吉田 (昌裕)	後	薬
教養としての統計	総合科目	総合	川野	後	開放セ
情報メディアと教育	総合科目	総合	金西	後	高度情セ
アクティブラーニングで環境から科学を考える	総合科目	総合	齊藤	後	総科
アクティブラーニングと科学	総合科目	総合	齊藤	前	総科
災害を知る	総合科目	総合	中野他	前	工
災害に備える	総合科目	総合	中野他	後	工
資源と環境のはなし	総合科目	総合	眞弓	前	総科
インタラクティブシステムデザイン	総合科目	総合	吉田 (敦)	前	総科
(工) 化学応用工学概論	学部開放科目	学部開放	金崎, 森賀	前	工
(工) 機械工学概論	学部開放科目	学部開放	機械工学科教員	前	工
(工) 地域の環境と防災	学部開放科目	学部開放	河口	前	工
(工) 知能情報工学セミナー	学部開放科目	学部開放	知能情報工学科教員	前	工
(工) 電気電子工学概論	学部開放科目	学部開放	電気電子工学科教員	前	工
(医) 臨床検査学入門	学部開放科目	学部開放	西田他	前	医保

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
(医) 医療情報処理学入門	学部開放科目	学部開放	近藤 (正)	前	医 保
(歯) 医療情報処理	学部開放科目	学部開放	河野	前	歯
(工) 光の基礎	学部開放科目	学部開放	陶山	前	工
(歯) 歯学概論	学部開放科目	学部開放	歯学部教授	後	歯
(工) 生物工学概論	学部開放科目	学部開放	長宗他	後	工

ウェルネス総合演習

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	荒木	後	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	小原	前	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	小原	後	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	的場	前	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	的場	後	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	行實	前	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	行實	後	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	中村 (久)	前	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	中村 (久)	後	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	佐竹	前	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	佐竹	後	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	佐藤 (充)	前	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	佐藤 (充)	後	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	三浦 (哉)	後	総科
健康スポーツ演習		健康スポーツ演習・健康スポーツ科目	佐竹, 小原, 荒木	前	総科

共創型学習

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
身近にある「ゆったりもの」－方言をつかまえよう－	歴史と文化	総合科目・総合	岸江	前	総科
空海と歩く～歩き遍路の世界～	歴史と文化	総合科目・総合	田中 (俊)	後	開放セ
埋もれた文化遺産Ⅰ	歴史と文化	総合科目・総合	中村 (豊)	前	埋蔵文化
埋もれた文化遺産Ⅱ	歴史と文化	総合科目・総合	中村 (豊)	後	埋蔵文化
人間行動の科学	人間と生命	総合科目・総合	荒木 (秀)	前	総科
「つたえること」と「ものづくり」 －エコチャリでエコを語ろう－	人間と生命	総合科目・総合	大橋 (眞), 後藤	前	総科
異文化交流から何を学ぶのか？	人間と生命	総合科目・総合	大橋 (眞), 光永	前	総科
国際交流の扉を拓 (ひら) く	生活と社会	総合科目・総合	大石, 坂田, 金	後	国際セ
学生と社会人による授業企画ゼミ－大学で何を学ぶのか？－	生活と社会	総合科目・総合	大橋 (眞), 光永, 後藤	後	総科
地域のボランティアリーダーたちと語ろう!!	生活と社会	総合科目・総合	廣渡	後	開放セ
「つたえること」と「ものづくり」－科学と遊ぼう－	自然と技術	総合科目・総合	齊藤	後	総科
この良さをわかってほしい	自然と技術	総合科目・総合	佐藤 (征)	前	総科
「つたえること」と「ものづくり」－藍染めの科学－	自然と技術	総合科目・総合	佐藤 (高)	後	総科
宇宙を探る	自然と技術	総合科目・総合	伏見	後	総科
「つたえること」と「ものづくり」～陶芸入門～	自然と技術	総合科目・総合	山城	前	総科
iPhone アプリ開発入門	自然と技術	総合科目・総合	吉田 (敦)	前	総科

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
名著講読―名著を通して現代社会を考える―			大橋(眞), 中恵, 後藤	前	総科
名著講読―自分探しと現代社会―			大橋(眞), 中恵, 後藤	後	総科
名著講読―生き抜く力とは何か? ―			香川	後	開放セ
名著講読―世界の見方～文学作品や科学随筆を読む―			依岡	前	総科
名著講読―未知との出会い～文学作品や随筆を読む―			依岡	後	総科

ヒューマンコミュニケーション

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
社会人としてのマナーを学ぶ			關戸他	前	医保
高齢者との交流から学ぶ			日野出, 竹内(裕), 大西	後	歯
乳幼児との交流から学ぶ	人間と生命	総合科目・総合	荒木, 内海	前	総科
乳幼児との交流から学ぶ	人間と生命	総合科目・総合	荒木, 内海	後	総科

英語

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
基盤英語	英語(1)	英語	石田 (和枝)	前	非常勤
基盤英語	英語(1)	英語	石田 (メ)	前	非常勤
基盤英語	英語(1)	英語	魚崎	前	非常勤
基盤英語	英語(1)	英語	小野原	前	非常勤
基盤英語	英語(1)	英語	貝沼	前	非常勤
基盤英語	英語(1)	英語	ギュンター	前	非常勤
基盤英語	英語(1)	英語	坂田	前	国際セ
基盤英語	英語(1)	英語	座喜	前	総科
基盤英語	英語(1)	英語	スタージ	前	総科
基盤英語	英語(1)	英語	田中 (孝)	前	非常勤
基盤英語	英語(1)	英語	中島	前	総科
基盤英語	英語(1)	英語	西山 (高)	前	非常勤
基盤英語	英語(1)	英語	早内 (ブ)	前	非常勤
基盤英語	英語(1)	英語	樋口 (友)	前	総科
基盤英語	英語(1)	英語	フクダ	前	共通セ
基盤英語	英語(1)	英語	ポンド	前	非常勤
基盤英語	英語(1)	英語	前田 (一)	前	非常勤
基盤英語	英語(1)	英語	マーシェソ	前	非常勤
基盤英語	英語(1)	英語	三浦 (博)	前	非常勤
基盤英語	英語(1)	英語	三宅 (恵)	前	非常勤
基盤英語	英語(1)	英語	宮崎	前	総科
基盤英語	英語(1)	英語	宮田	前	開放セ
基盤英語	英語(1)	英語	森岡	前	総科
基盤英語	英語(1)	英語	山内	前	総科
基盤英語	英語(1)	英語	山田 (紀)	前	非常勤
基盤英語	英語(1)	英語	山田 (仁)	前	総科
基盤英語	英語(1)	英語	吉田 (文)	前	総科
基盤英語	英語(1)	英語	薮下	前	非常勤

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
基盤英語	英語(1)	英語	ラクストン	前	非常勤
基盤英語	英語(1)	英語	山森	前	非常勤
基盤英語	英語(1)	英語	米原	前	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	石田 (和枝)	後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	石田 (メ)	後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	上野 (加)	前・後	総科
主題別英語	英語(2)	英語	魚崎	後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	小野原	後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	貝沼	後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	ギュンター	後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	坂田	後	国際セ
主題別英語	英語(2)	英語	座喜	前・後	総科
主題別英語	英語(2)	英語	田中 (孝)	後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	中島	前・後	総科
主題別英語	英語(2)	英語	パトリック	後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	早内 (ブ)	後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	樋口 (友)	後	総科
主題別英語	英語(2)	英語	フクダ	後	共通セ
主題別英語	英語(2)	英語	フロスト	後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	ポンド	後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	前田 (一)	後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	マーシェソ	後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	三浦 (博)	後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	三宅 (恵)	前・後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	山田 (紀)	前・後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	宮田	前・後	開放セ
主題別英語	英語(2)	英語	森岡	前・後	総科
主題別英語	英語(2)	英語	山内	後	総科
主題別英語	英語(2)	英語	山田 (仁)	前・後	総科
主題別英語	英語(2)	英語	山森	後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	薮下	後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	吉田 (文)	前・後	総科
主題別英語	英語(2)	英語	米原	前・後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	ラクストン	後	非常勤
主題別英語	英語(2)	英語	未定	後	
発信型英語	英語(2)	英語	石田 (メ)	前・後	非常勤
発信型英語	英語(2)	英語	魚崎	前	非常勤
発信型英語	英語(2)	英語	木里	後	非常勤
発信型英語	英語(2)	英語	ギュンター	前・後	非常勤
発信型英語	英語(2)	英語	座喜	前・後	総科
発信型英語	英語(2)	英語	スタージ	前・後	総科
発信型英語	英語(2)	英語	スティーヴンズ	前・後	総科
発信型英語	英語(2)	英語	田中 (孝)	後	非常勤
発信型英語	英語(2)	英語	パトリック	前・後	非常勤
発信型英語	英語(2)	英語	早内 (ブ)	前・後	非常勤

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
発信型英語	英語(2)	英語	バロッグ	前・後	非常勤
発信型英語	英語(2)	英語	フクダ	前・後	共通セ
発信型英語	英語(2)	英語	フロスト	前・後	非常勤
発信型英語	英語(2)	英語	ポンド	前・後	非常勤
発信型英語	英語(2)	英語	マーシェソ	前・後	非常勤
発信型英語	英語(2)	英語	宮田	後	開放セ
発信型英語	英語(2)	英語	ラクストン	前・後	非常勤
発信型英語	英語(2)	英語	ワイス	前	非常勤

ドイツ語

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
ドイツ語入門	ドイツ語(1)	ドイツ語	石川	前・後	総科
ドイツ語入門	ドイツ語(1)	ドイツ語	石田 (基)	前・後	総科
ドイツ語入門	ドイツ語(1)	ドイツ語	井戸	前・後	総科
ドイツ語入門	ドイツ語(1)	ドイツ語	今井 (晋)	前・後	総科
ドイツ語入門	ドイツ語(1)	ドイツ語	桂	前・後	総科
ドイツ語入門	ドイツ語(1)	ドイツ語	ギュンター	前・後	非常勤
ドイツ語入門	ドイツ語(1)	ドイツ語	曾田	前・後	非常勤
ドイツ語入門	ドイツ語(1)	ドイツ語	ヘルベルト	前・後	総科
ドイツ語入門	ドイツ語(1)	ドイツ語	依岡	前・後	総科
ドイツ語初級	ドイツ語(1)	ドイツ語	石川	後	総科
ドイツ語初級	ドイツ語(1)	ドイツ語	井戸	後	総科
ドイツ語初級	ドイツ語(1)	ドイツ語	今井 (晋)	後	総科
ドイツ語初級	ドイツ語(1)	ドイツ語	桂	前・後	総科
ドイツ語初級	ドイツ語(1)	ドイツ語	ギュンター	後	非常勤
ドイツ語初級	ドイツ語(1)	ドイツ語	曾田	後	非常勤
ドイツ語初級	ドイツ語(1)	ドイツ語	依岡	後	総科
ドイツ語初級	ドイツ語(2)	ドイツ語	ヘルベルト	前・後	総科
ドイツ語(2)	ドイツ語(2)	ドイツ語	井戸	前・後	総科

フランス語

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
フランス語入門	フランス語(1)	フランス語	田島	前	総科
フランス語入門	フランス語(1)	フランス語	長井	前	総科
フランス語初級	フランス語(1)	フランス語	田島	後	総科
フランス語初級	フランス語(1)	フランス語	長井	後	総科

中国語

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
中国語入門	中国語(1)	中国語	荒武	前・後	総科
中国語入門	中国語(1)	中国語	韓	前・後	非常勤
中国語入門	中国語(1)	中国語	施	前・後	非常勤

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
中国語入門	中国語(1)	中国語	邵	前・後	総科
中国語入門	中国語(1)	中国語	田中 (智)	前	総科
中国語入門	中国語(1)	中国語	山木	前・後	非常勤
中国語初級	中国語(1)	中国語	韓	後	非常勤
中国語初級	中国語(1)	中国語	施	後	非常勤
中国語初級	中国語(1)	中国語	邵	後	総科
中国語初級	中国語(1)	中国語	田中 (智)	後	総科

情報科学

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
情報科学入門	情報科学	情報科学	芥川	前	工
情報科学入門	情報科学	情報科学	宇野	前	総科
情報科学入門	情報科学	情報科学	大橋 (守)	前	総科
情報科学入門	情報科学	情報科学	小野	前	総科
情報科学入門	情報科学	情報科学	香川	後	開放七
情報科学入門	情報科学	情報科学	掛井	前	総科
情報科学入門	情報科学	情報科学	金西	前・後	高度情七
情報科学入門	情報科学	情報科学	河原崎	後	総科
情報科学入門	情報科学	情報科学	鈴木 (雄)	前	非常勤
情報科学入門	情報科学	情報科学	中山 (慎)	前・後	総科
情報科学入門	情報科学	情報科学	蓮沼	前・後	総科
情報科学入門	情報科学	情報科学	松浦	前	高度情七
情報科学入門	情報科学	情報科学	村上 (明)	前・後	非常勤

日本事情

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
日本事情Ⅰ	日本事情	日本事情	橋本	前	国際七
日本事情Ⅱ	日本事情	日本事情	橋本	後	国際七
日本事情Ⅲ	日本事情	日本事情	三隅	前	国際七
日本事情Ⅳ	日本事情	日本事情	三隅	後	国際七

日本語

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
日本語 1	日本語(1)	日本語	遠藤	前	非常勤
日本語 2	日本語(1)	日本語	遠藤	後	非常勤
日本語 3	日本語(2)	日本語	三隅	前	国際七
日本語 4	日本語(2)	日本語	三隅	後	国際七
日本語 5	日本語(1)	日本語	大石	前	国際七
日本語 6	日本語(1)	日本語	大石	後	国際七
日本語 7	日本語(2)	日本語	三隅	前	国際七
日本語 8	日本語(2)	日本語	三隅	後	国際七

基礎科目群

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
医療情報処理	基礎数学	基礎教育科目	河野	前	歯
線形代数学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	大沼	前	総科
線形代数学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	大沼	前	総科
線形代数学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	岡本（邦）	前	工
線形代数学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	片山	前	総科
線形代数学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	桑原（類）	前	総科
線形代数学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	蓮沼	前	総科
線形代数学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	守安	前	総科
線形代数学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	村上（公）	前	総科
線形代数学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	大沼	後	総科
線形代数学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	大沼	後	総科
線形代数学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	岡本（邦）	後	工
線形代数学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	片山	後	総科
線形代数学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	桑原（類）	後	総科
線形代数学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	蓮沼	後	総科
線形代数学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	村上（公）	後	総科
線形代数学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	守安	後	総科
統計学	基礎数学	基礎教育科目	大橋（守）	前	総科
統計学	基礎数学	基礎教育科目	片山	後	総科
統計学	基礎数学	基礎教育科目	村上（公）	後	総科
統計学	基礎数学	基礎教育科目	守安	後	総科
微分積分学	基礎数学	基礎教育科目	伊藤（正）	前	総科
微分積分学	基礎数学	基礎教育科目	宇野	前	総科
微分積分学	基礎数学	基礎教育科目	大沼	前	総科
微分積分学	基礎数学	基礎教育科目	小野	前	総科
微分積分学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	伊藤（正）	前	総科
微分積分学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	宇野	前	総科
微分積分学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	大橋（守）	前	総科
微分積分学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	片山	前	総科
微分積分学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	竹内（敏）	前	工
微分積分学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	長町	前	工
微分積分学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	鍋島	前	総科
微分積分学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	水野	前	工
微分積分学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	伊藤（正）	後	総科
微分積分学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	宇野	後	総科
微分積分学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	大橋（守）	後	総科
微分積分学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	片山	後	総科
微分積分学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	竹内（敏）	後	工
微分積分学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	長町	後	工
微分積分学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	鍋島	後	総科
基礎物理学Ⅰ・物理学概論	基礎物理学	基礎教育科目	齊藤	前	総科
基礎物理学Ⅰ・物理学概論	基礎物理学	基礎教育科目	松尾（俊）	前	非常勤
基礎物理学Ⅱ・物理学概論	基礎物理学	基礎教育科目	齊藤	後	総科
基礎物理学Ⅱ・物理学概論	基礎物理学	基礎教育科目	松尾（俊）	後	非常勤

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
基礎物理学 f・力学	基礎物理学	基礎教育科目	川崎 (祐)	前	工
基礎物理学 f・力学概論	基礎物理学	基礎教育科目	大野	前	非常勤
基礎物理学 f・力学概論	基礎物理学	基礎教育科目	岸本	前	工
基礎物理学 f・力学概論	基礎物理学	基礎教育科目	中山 (信)	前	総科
基礎物理学 f・力学概論	基礎物理学	基礎教育科目	日置	前・後	総科
基礎物理学 f・力学概論	基礎物理学	基礎教育科目	真岸	前	総科
基礎物理学 g・電磁気学概論	基礎物理学	基礎教育科目	大野	後	非常勤
基礎物理学 g・電磁気学概論	基礎物理学	基礎教育科目	中村 (浩)	後	工
基礎物理学実験 A	基礎物理学	基礎教育科目	伏見, 齊藤, 折戸	後	総科
基礎物理学実験 B	基礎物理学	基礎教育科目	中山 (信), 小山, 真岸	後	総科
力学及び熱力学	基礎物理学	基礎教育科目	日置	前	総科
化学の基礎	基礎化学	基礎教育科目	菊池	前	総科
基礎化学Ⅰ・生化学の基礎	基礎化学	基礎教育科目	佐々木	前	医
基礎化学Ⅰ・電子と有機化学	基礎化学	基礎教育科目	根本	前	薬
基礎化学Ⅰ・物理化学(平衡と反応速度)	基礎化学	基礎教育科目	村田 (勝)	前	非常勤
基礎化学Ⅰ・物理化学(化学平衡と反応速度論)	基礎化学	基礎教育科目	植野	後	薬
基礎化学Ⅱ	基礎化学	基礎教育科目	伊藤 (孝)	後	薬
基礎化学Ⅱ・原子と分子	基礎化学	基礎教育科目	植野	後	薬
基礎化学Ⅱ・有機化学(ライフサイエンスの基礎)	基礎化学	基礎教育科目	増田 (晃)	前	非常勤
基礎化学Ⅱ A・有機化学(ライフサイエンスの基礎)	基礎化学	基礎教育科目	三好	後	総科
基礎化学Ⅱ B・有機化学(ライフサイエンスの基礎)	基礎化学	基礎教育科目	増田 (俊)	前	総科
基礎化学Ⅲ・細胞生物化学の基礎	基礎化学	基礎教育科目	山崎	前	薬
基礎化学 i・化学結合論	基礎化学	基礎教育科目	武田 (清)	前	非常勤
基礎化学 i・化学結合論	基礎化学	基礎教育科目	山本 (孝)	前	総科
基礎化学概論	基礎化学	基礎教育科目	村田 (勝)	後	非常勤
基礎化学実験	基礎化学	基礎教育科目	薬学部教員	通年	薬
基礎化学実験	基礎化学	基礎教育科目	今井 (昭) 他	前	総科
基礎化学実験	基礎化学	基礎教育科目	増田 (俊) 他	後	総科
基礎化学実験	基礎化学	基礎教育科目	三好他	後	総科
基礎生物学DⅠ	基礎生物学	基礎教育科目	北村 (清) 他	前	歯
基礎生物学DⅡ	基礎生物学	基礎教育科目	三宅 (洋) 他	後	歯
基礎生物学H	基礎生物学	基礎教育科目	渡部	後	総科
基礎生物学MⅠ	基礎生物学	基礎教育科目	六反 他	前	医
基礎生物学MⅡ	基礎生物学	基礎教育科目	六反 他	後	医
基礎生物学N	基礎生物学	基礎教育科目	金丸	後	総科
基礎生物学P	基礎生物学	基礎教育科目	松尾 (義)	前	総科
基礎生物学T	基礎生物学	基礎教育科目	佐藤 (高)	前	総科
基礎生物学実験A	基礎生物学	基礎教育科目	山城 他	後	総科
基礎生物学実験B	基礎生物学	基礎教育科目	山城 他	後	総科
基礎生物学実験N	基礎生物学	基礎教育科目	山城 他	前	総科

V 徳島大学全学共通教育履修規則

V. 徳島大学全学共通教育履修規則

(趣 旨)

第1条 この規則は、徳島大学学則（以下「学則」という。）第31条の規定に基づき、全学共通教育（以下「共通教育」という。）の授業科目、単位、履修方法、試験等に関し必要な事項を定めるものとする。

(授業科目の区分)

第2条 共通教育として開設する授業科目の区分は、大学入門科目群、教養科目群、社会性形成科目群、基盤形成科目群及び基礎科目群とする。

(開設授業科目)

第3条 前条の各区分で開設する授業科目は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 大学入門科目群

大学入門講座、高大接続科目、自然科学入門

(2) 教養科目群

歴史と文化、人間と生命、生活と社会、自然と技術

(3) 社会性形成科目群

ウェルネス総合演習、共創型学習、ヒューマンコミュニケーション

(4) 基盤形成科目群

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、情報科学

(5) 基礎科目群

基礎数学、基礎物理学、基礎物理学実験、基礎化学、基礎化学実験、基礎生物学、基礎生物学実験

2 前項に規定するもののほか、外国人留学生に対しては、教養科目群に日本事情を、基盤形成科目群に日本語を置く。

3 授業科目に授業題目を設ける。

4 授業題目、授業概要等の授業計画等については、別に定める。

(単位の基準等)

第4条 前条の授業科目の単位数は、次の各号に定めるところにより計算する。

(1) 講義は、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習及び実験は、30時間の授業をもって1単位とする。

(履修要件)

第5条 共通教育として履修する授業科目、単位数等の履修要件は、徳島大学全学共通教育センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）における協議・調整を経て、各学部において定めるものとする。

(外国人留学生の履修の特例)

第6条 外国人留学生が、日本事情の単位を修得したときは、教養科目群の歴史と文化、人間と生命、生活と社会又は自然と技術の単位に、日本語の単位を修得したときは、基盤形成科目群の英語、ドイツ語、フランス語又は中国語の単位にそれぞれ充てることができる。

(履修手続)

第7条 学生は、学期の初めに第3条第4項に規定する授業計画から履修しようとする授業科目又は授業題目を選択して、別に定めるところにより履修の届出をしなければならない。

（授業科目の成績評価及び単位の認定）

第8条 授業科目の成績の評価は、試験、学習報告、学習状況等によって担当教員が行うものとし、合格者に対しては、学生が所属する学部の教授会の議を経て、当該学部長が単位を認定する。

（試 験）

第9条 試験は、原則として学期末に行う。ただし、演習及び実験については、試験を行わないことがある。

2 試験を受けるには、授業時間数の3分の2以上出席していなければならない。

（成 績）

第10条 成績は、100点をもって満点とし、60点以上をもって合格とする。

2 成績は、優（80点以上）、良（70点以上）及び可（60点以上）に区分する。

（追試験及び再試験）

第11条 病気その他やむを得ない事情のため、定められた期日に受験できなかった者は、願い出により、追試験を受けることができる。

2 試験を受けて合格しなかった者に対しては、再試験を行うことがある。

（既修得単位等の認定）

第12条 学則第21条の4、第22条、第22条の2及び第22条の3の規定により、編入学、補欠入学、転学部及び転学科を許可された者の共通教育に関する既修得単位の認定は、運営委員会の予備審査に基づき、各学部教授会の議を経て、各学部長が行う。

2 学則第34条の4の規定による入学前の既修得単位等の認定は、前項の規定を準用する。

（留学及び他の大学又は短期大学において修得した単位の認定）

第13条 学則第27条の2の規定により外国の大学又は短期大学に留学を許可された者及び第34条の2の規定により他の大学又は短期大学の授業科目の履修を許可された者の当該大学又は短期大学において修得した共通教育に関する単位の認定は、前条第1項の規定を準用する。

2 学則第34条の3の規定による大学以外の教育施設等における学修の共通教育に関する単位の認定は、前条第1項の規定を準用する。

（雑 則）

第14条 この規則に定めるもののほか、共通教育の実施に関し必要な事項は、運営委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成8年5月17日から施行する。

附 則

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成11年7月23日から施行する。

附 則

この規則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 各学部において、この規則による改正後の徳島大学全学共通教育履修規則の規定によりがたい事情がある場合には、徳島大学全学共通教育センター運営委員会における協議・調整を経て、なお従前の例により履修要件を定めることができる。

附 則

この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

VI 全学共通教育に関わる学生生活

1. 学生窓口と取扱時間	87
1. 1. 全学共通教育履修学生の窓口事務	87
1. 2. 2年次生（後期）以降の窓口事務	87
1. 3. 取 扱 時 間	87
2. 学生への連絡方法（掲示）	87
3. 学 生 証	88
4. 各種証明書の発行	89
5. 講義室の使用	90
6. 授 業 料	90
7. 授 業 料 免 除	91
8. 奨 学 金	91
9. 健 康 管 理 関 係	91
10. 課外活動その他学生生活に関すること	91
11. 交通事故の防止	91
12. そ の 他	91
12. 1. 学生の呼び出し等について	91
12. 2. 郵便物について	92
12. 3. 喫煙について	92
12. 4. 遺失物及び拾得物について	92
12. 5. 交通事故・盗難について	92
12. 6. 携帯電話等の使用について	92
12. 7. エレベーターの使用について	92
12. 8. そ の 他	92

VI. 全学共通教育に関わる学生生活

1. 学生窓口と取扱時間

1. 1. 全学共通教育履修学生の窓口事務

教育支援課共通教育係（共通教育4号館1階）では、主として1年次生から2年次生（前期）までの全学共通教育履修学生の窓口として、次の事務を取り扱っています。本履修の手引94ページ記載の配置図で位置を確認しておいてください。

- 全学共通教育の教育課程に関すること。
- 全学共通教育の授業及び試験に関すること。
- 全学共通教育の成績に関すること。
- 全学共通教育に係る講義室の管理に関すること。
- 各種証明書の発行に関すること。
- その他全学共通教育に関すること。

1. 2. 2年次生（後期）以降の窓口事務

2年次生後期からの窓口事務は、所属学部・学部の学務係が担当します。所属学部の履修の手引等で位置を確認しておいてください。ただし、全学共通教育を引き続き履修する者に係る履修手続き等は、教育支援課共通教育係が担当します。

2年次生（後期）以降の窓口事務

所属学部・学科	担 当 係	地 区
総合科学部	学務係	常三島地区
医学部 医学科	第一教務係	蔵本地区
栄養学科	”	蔵本地区
保健学科	第四教務係	蔵本地区
歯学部	第二教務係	蔵本地区
薬学部	第三教務係	蔵本地区
工学部	学務係	常三島地区

1. 3. 取 扱 時 間

業務の取扱時間は、土・日・祝祭日を除き次のとおりです。

昼間コース学生： 8:30～12:00 13:00～17:15

夜間主コース学生： 上記のほか 17:00～21:30

2. 学生への連絡方法（掲示）

大学が、全学共通教育履修学生に対して行う一切の連絡・通知・告示等は、原則としてすべて学生掲示板（共通教育4号館1階のエレベーター横）に掲示することにより連絡します。

掲示板には、「全学共通教育履修に関する事項」のほか、「授業時間割や教室変更」「休講通知」「試験や補講の実施及び成績交付」「追試・再試の実施」「奨学金の申請・許可」「授業料の納付」「授業料免除の申請・許可」「健康診断の実施」「学生呼出」など学生生活に関わるすべてのことが掲示されます。

したがって、全学共通教育掲示板は
毎日必ず見るよう心掛けてください。

3. 学 生 証

学生の身分を証明するもので、学期末試験の受験、各種証明書の発行や図書館の利用など、すべてに必要ですので常に携帯してください。

万一紛失又は汚損したときは、直ちに教育支援課教務情報係(総合科学部と工学部)又は各学部教務係(医学部・歯学部・薬学部)に行き、再発行の手続き(学生証汚損紛失届を提出)をしてください。

なお、学生証に記載されている内容は次のとおりです。

1 0	1 0	0 4	0 0 1	8
-----	-----	-----	-------	---

学部コード 入学年度 学科コード 一連番号 チェックディジット

総合科学部 1 0	人間文化学科	0 4
	社会創生学科	0 5
	総合理数学科	0 6

医学部 2 0	医学科	0 1
	栄養学科	0 2
	保健学科	
	看護学専攻	0 3
	放射線技術科学専攻	0 4
	検査技術科学専攻	0 5

歯学部 3 0	歯学科	0 1
	口腔保健学科	0 2

薬学部 4 0	薬学科・創製薬科学科	0 3
---------	------------	-----

工学部 5 0	もの作り創造システム工学系	
	建設工学科	0 1
	機械工学科	0 2
	物質生命工学系	
	化学応用工学科	0 3
	生物工学科	0 4
	コンピュータ工学系	
	電気電子工学科	0 5
	知能情報工学科	0 6
	光応用工学科	0 7

[夜間主コース]

もの作り創造システム工学系	
建設工学科	2 1
機械工学科	2 2
物質生命工学系	
化学応用工学科	2 3
生物工学科	2 4
コンピュータ工学系	
電気電子工学科	2 5
知能情報工学科	2 6

4. 各種証明書の発行

4. 1. 発行機で交付される証明書

「学割旅客運賃割引証（学割証）」、「在学証明書」、「成績証明書」、「卒業見込証明書」は、『学割・証明書発行機』により交付されます。

学生証を使って、操作手順に従って、自分で出力してください。

※学割・証明書発行機の設置場所

常三島地区：共通教育 4 号館 1 階、工学部共通講義棟 1 階

蔵 本 地 区：医学基礎 A 棟（第一教務係） 1 階

(1) 学割旅客運賃割引証（学割証）

学割証は、割り当て枚数の範囲内で学生個人の自由な権利として使用することを前提としたものでなく、修学上の経済的負担の軽減と、学校教育の振興に寄与することを目的として設けられた制度で、原則として次の目的をもって鉄道旅行する場合に限り、年間 10 枚を限度として発行されます。ただし、J R の片道営業キロが 101 キロ以上の旅行でなければ利用できません。

【使用目的】

- ① 休暇等による帰省
- ② 正課の教育活動（実習など）
- ③ 課外活動
- ④ 就職又は進学のための受験等
- ⑤ 学校が認めた見学又は行事への参加
- ⑥ 傷病の治療等
- ⑦ 保護者との旅行

【使用上の注意】

- ・ 学割証は、他人に譲渡してはならない。
- ・ 有効期限は、発行日から 3 カ月以内であるので、有効期間を厳守すること。
- ・ 使用に際しては必ず学生証を携帯することとし、申請目的以外の目的で使用しないこと。
- ・ 学割証の不正使用に対しては、J R から、本人はもちろんのこと全学生に対する学割証発行停止等の措置を取られることがあるので、絶対に慎むこと。

(2) 在学証明書

学生本人が本学に在学していることを証明するものです。

(3) 成績証明書

学生本人の学業成績を証明するものです。

(4) 卒業見込証明書

学生本人の卒業見込を証明するものです。

4. 2. 窓口で交付される証明書

通学証明書は、教育支援課共通教育係（共通教育 4 号館 1 階）窓口で交付されます。

通学証明書は、通学のため定期券を購入するために発行するものです。通学定期券使用に際しては、必ず学生証を携帯してください。また、通学以外のアルバイト等には使用できません。

【申 請】教育支援課共通教育係に備えてある「通学証明書交付願」に必要事項を記入の上、申し込んでください。

【交 付】申請日の次の日から 3 日後（土曜・日曜・祝祭日は除く。）に教育支援課共通教育係で発行されるので、受け取ってください。

5. 講義室の使用

共通教育4号館の一部講義室は、授業及び大学の行事等に差し支えない場合で、全学共通教育履修学生が課外活動等で20名以上の会議等を行う場合に限り、使用することができます。希望する場合は、次により申請してください。

【申請】教育支援課共通教育係で空き講義室を確認の上、使用日の1週間前（土・日及び祝祭日は除く。）までに次により教育支援課共通教育係に願い出てください。

- 公認の学生団体又は大学祭実行委員会等（学生委員会で承認されたもの）が講義室を使用する場合は、所定の「講義室使用許可願」に必要事項を記入の上、助言指導教員又は学生生活支援課学生支援係の認印を得るとともに「所定の集会者名簿」を添え、教育支援課共通教育係へ願い出てください。
- クラス単位で講義室を使用する場合は、所定の「講義室使用許可願」に必要事項を記入の上、所属学部の補導教員又は学務（教務）係長の認印を得るとともに「所定の集会者名簿」を添え教育支援課共通教育係へ願い出てください。

【許可】使用を許可したときは、使用許可証を交付します。講義室の使用時間は特に許可された場合を除き、18時から20時までとし、使用に当たっては次のことに留意してください。

【使用上の注意】

- ① 使用後は、整理・整頓に留意し、戸締まりや後片付けをすること。
- ② 火気の使用及び喫煙は禁止する。
- ③ 借りた物品は、その日のうちに速やかに教育支援課共通教育係へ返却（21時以降は翌日）すること。

6. 授 業 料

授業料は、前期分（4月～9月）と後期分（10月～3月）に区分し、次の期間に納付してください。ただし、前期・後期分を併せて納付することも可能です。

6. 1. 納 付 期 間

- 前期分授業料 4月1日から4月30日まで（新入生にあつては、入学許可日から4月30日まで）
- 後期分授業料 10月1日から10月31日まで

注 授業料の納付を怠ったときは、除籍の対象となりますので期限内に必ず納付してください。

6. 2. 納 付 方 法

- 1年次生の前期分授業料は常三島会計事務センター（工学部共通講義棟1F）へ持参してください。
- 1年次生の後期からの授業料は代行納付方式により納付することとなります。

注 代行納付とは、学生又は保証人名義の預金口座からの自動引落し（一定期日）により、銀行が学生に代わって授業料を大学に納付する方法です。

6. 3. 納 付 場 所

- 1年次生は、常三島会計事務センター（工学部共通講義棟1F）
- 2年次生からは、総合科学部、工学部学生は常三島会計事務センター、医学部、歯学部、薬学部学生は蔵本会計事務センター（医学基礎A棟1F）

7. 授業料免除

経済的な理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者に対しては、授業料の全額又は半額を免除する制度があります。詳しくは「学生生活の手引」を参照してください。

8. 奨学金

日本学生支援機構奨学金、地方公共団体及び民間奨学金に関することは、「学生生活の手引」を参照してください。

9. 健康管理関係

定期健康診断の実施や保健管理センターの利用及び学生教育研究災害傷害保険に関することは「学生生活の手引」を参照してください。

10. 課外活動その他学生生活に関すること

これらに関することは、「学生生活の手引」を参照してください。

11. 交通事故の防止

最近、交通事故が社会的に大きな問題となっていますが、本学学生の中にも、その当事者となり、身体的、精神的な打撃を受けて、勉学に支障を来している人もおります。また、学内においても、自動車、オートバイ及び自転車の無秩序な駐車等が原因の事故、並びに市道への飛び出しによる出会い頭の衝突事故が多発しており、その対策として、下記により学内の交通を規制しています。お互いに迷惑を掛けないう、自主的で規律のある行動を期待しています。

- 自動車及びオートバイのキャンパス内への乗り入れ・走行は禁止します。
- 総合科学部第一駐車場の使用は、許可車（夜間主コース学生のみ）に限ります。
- オートバイ及び自転車は、必ず指定された場所へ置いてください。
- 総合科学部と工学部の間の市道を走行するときには、特に次の点に注意してください。
 - ・市道での自動車・オートバイ走行は、制限速度を遵守するとともに、正門等からの自転車や学生の飛び出しにも十分注意してください。
 - ・市道での自転車走行や歩行は車等に注意し、道路端を一行に走行・歩行してください。
 - ・オートバイあるいは自転車の駐輪場への出入りの際は、必ず一時停止をして、十分に安全確認をしてください。
 - ・市道への駐車は交通の妨害となり、危険なので絶対にしないでください。

12. その他

12. 1. 学生の呼び出し等について

電話による学生の呼び出しや住所・電話番号の照会には応じることはできませんので、保護者や知人に十分周知しておいてください。

12. 2. 郵便物について

学生個人あての郵便物等は，原則として取り扱いできません。

12. 3. 喫煙について

構内の喫煙については，指定場所以外の喫煙は禁止します。もちろん，講義室，廊下その他の場所においての歩きながらの喫煙も禁止します。なお，喫煙した場合はすいがらを灰皿にすてること。

12. 4. 遺失物及び拾得物について

共通教育棟における，遺失物及び拾得物は教育支援課共通教育係に，速やかに届けてください。

12. 5. 交通事故・盗難について

共通教育棟における交通事故，盗難被害は，学生生活支援課（共通教育4号館1階）に速やかに届け出てください。特に，体育館，総合運動場での盗難には十分注意しておいてください。

12. 6. 携帯電話等の使用について

携帯電話等のスイッチは，授業中は切っておいてください。

12. 7. エレベーターの使用について

身体に障害を有する学生のため，共通教育4号館1階にエレベーターを設置してあります。ケガや病気等やむを得ない場合を除き，一般学生の使用はご遠慮ください。

12. 8. そ の 他

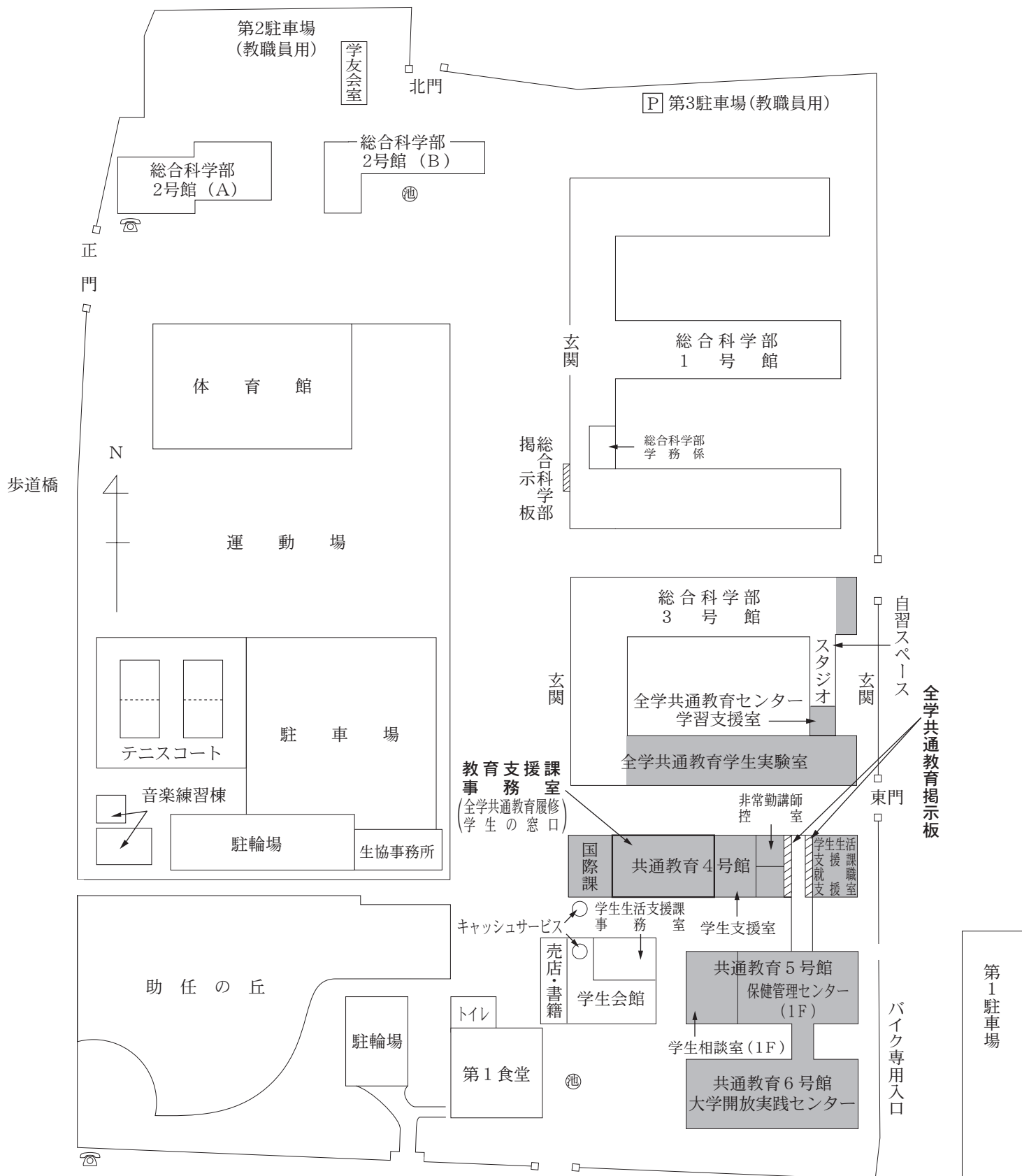
大声でしゃべったり，大きな音を立てるなど，他の人に迷惑となる行為は慎んでください。

VII 常三島キャンパス

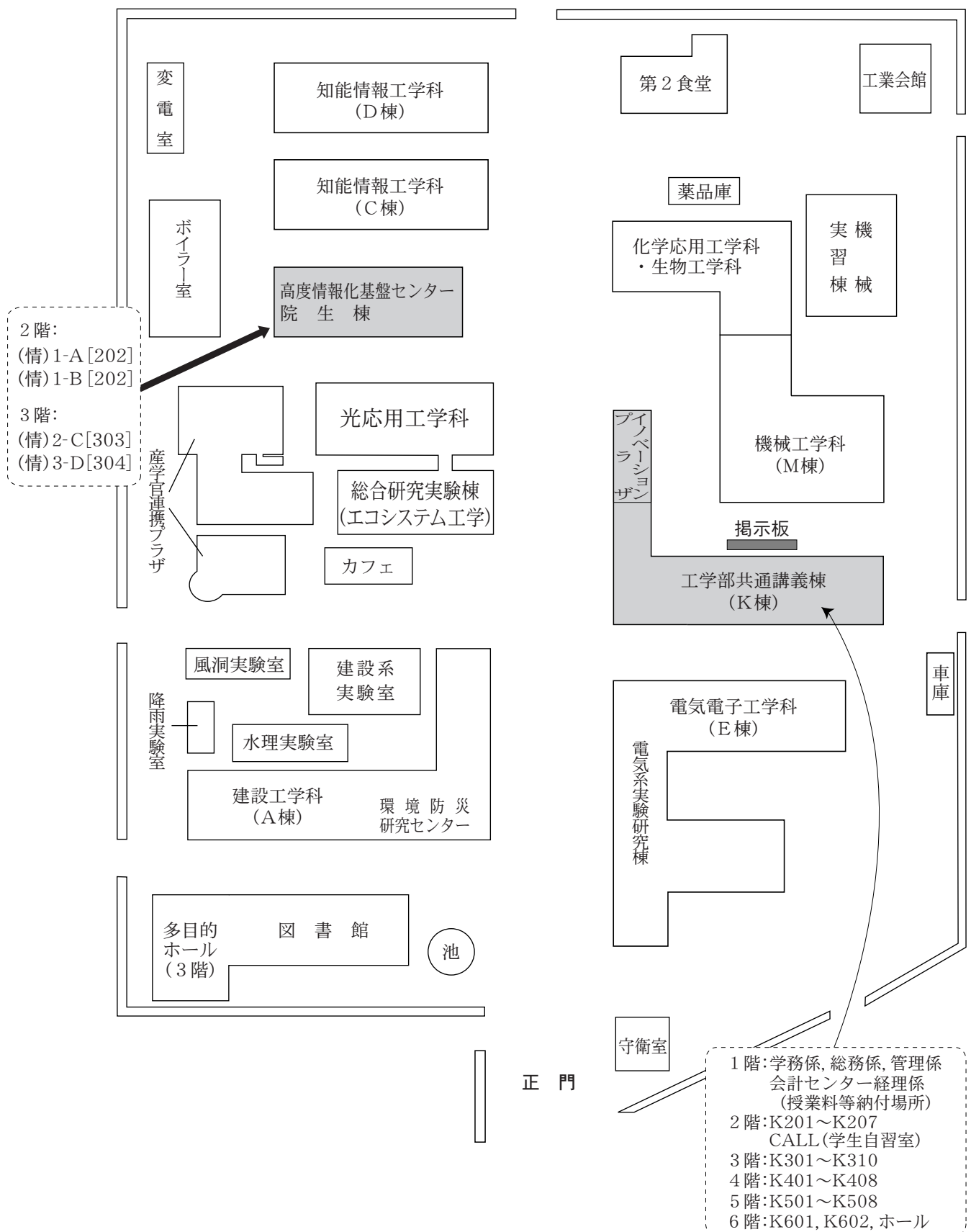
総合科学部建物配置図（共通教育棟を含む）	94
工学部建物配置図	95
共通教育 4 号館	96
共通教育 5 号館	97
共通教育 6 号館	98
総合科学部 3 号館	99
総合科学部 1 号館	101
総合科学部 2 号館	104
工学部共通講義棟（K 棟）	105
総合運動場	107

VII. 常三島キャンパス

総合科学部建物配置図（共通教育棟を含む）



工学部建物配置図



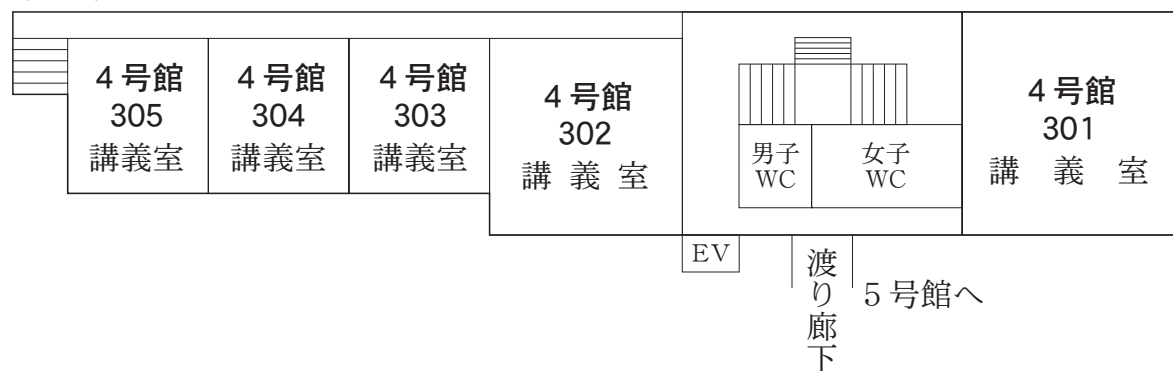
共通教育 4 号館

全学共通教育講義室と全学共通教育の窓口、授業料免除・奨学金の窓口、就職支援室などがあります。

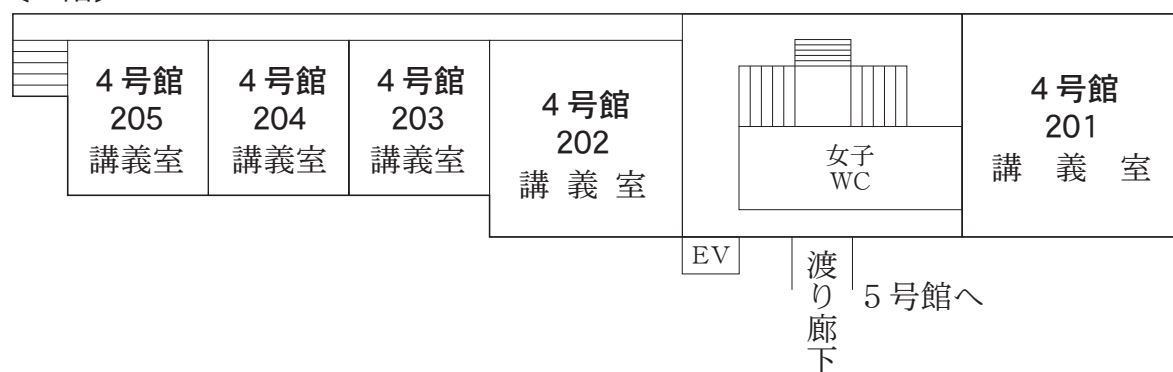
〔4 階〕



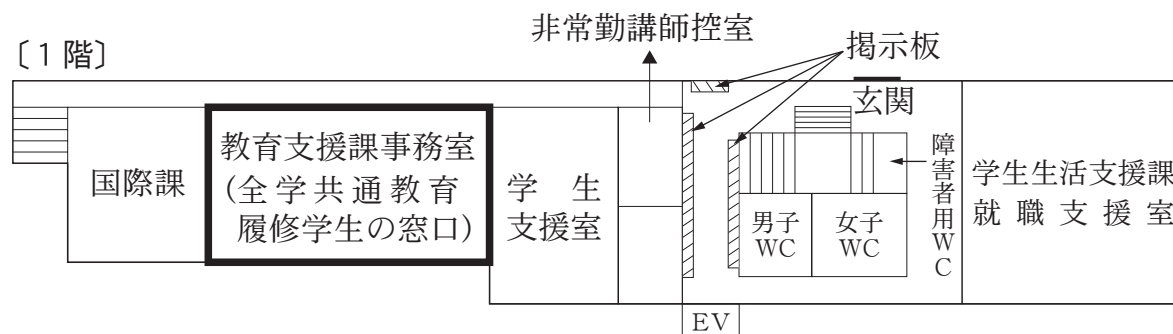
〔3 階〕



〔2 階〕



〔1 階〕



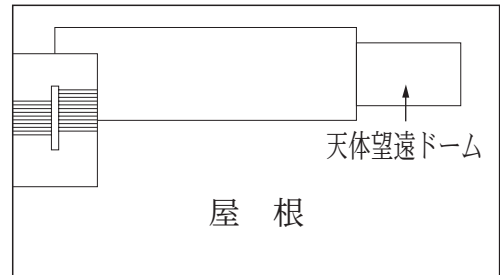
共通教育 5 号館

全学共通教育講義室（学生自習スペースを含む）と保健管理センター，学生相談室があります。

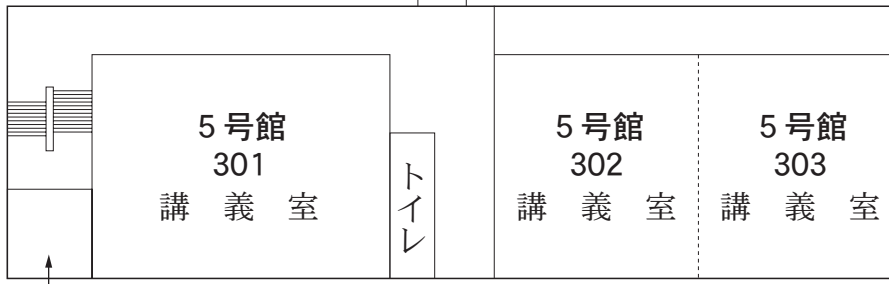
〔4 階〕



〔屋階〕

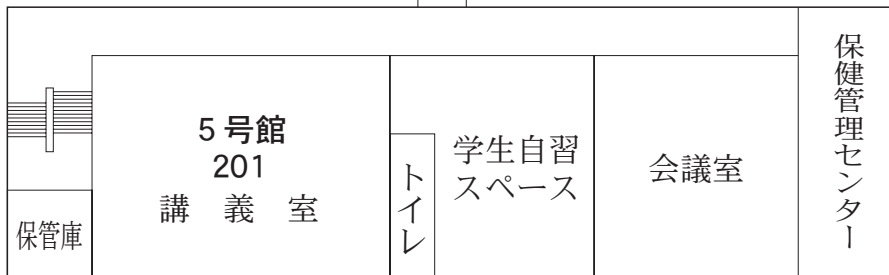


〔3 階〕



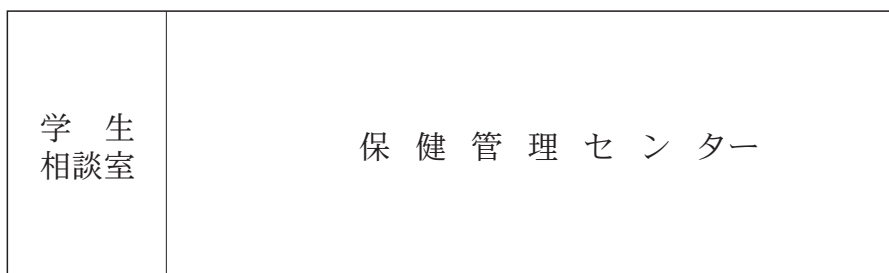
ミーティングルーム

〔2 階〕



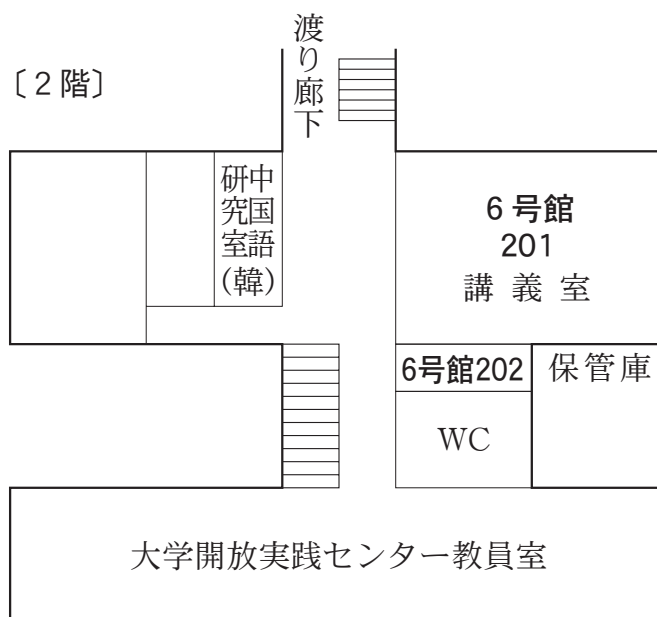
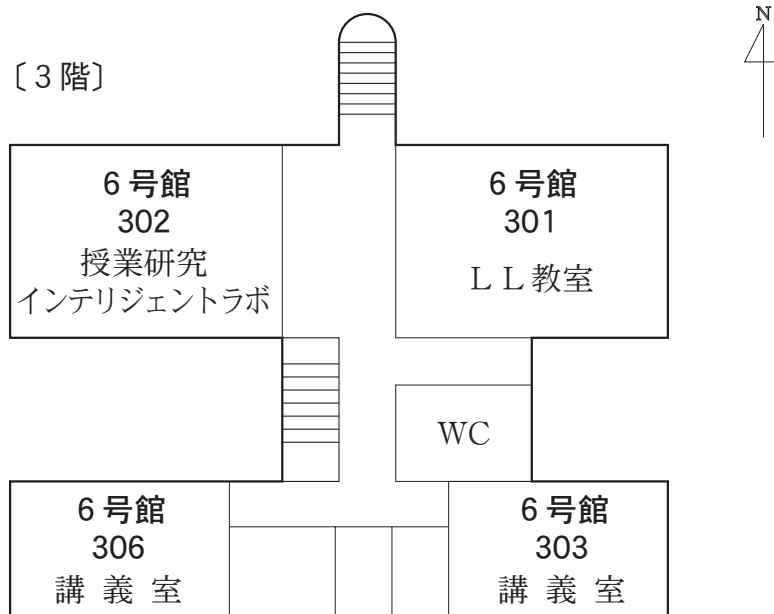
渡り廊下
6 号館へ

〔1 階〕



共通教育 6 号館

全学共通教育講義室と大学開放実践センター教員室があります。

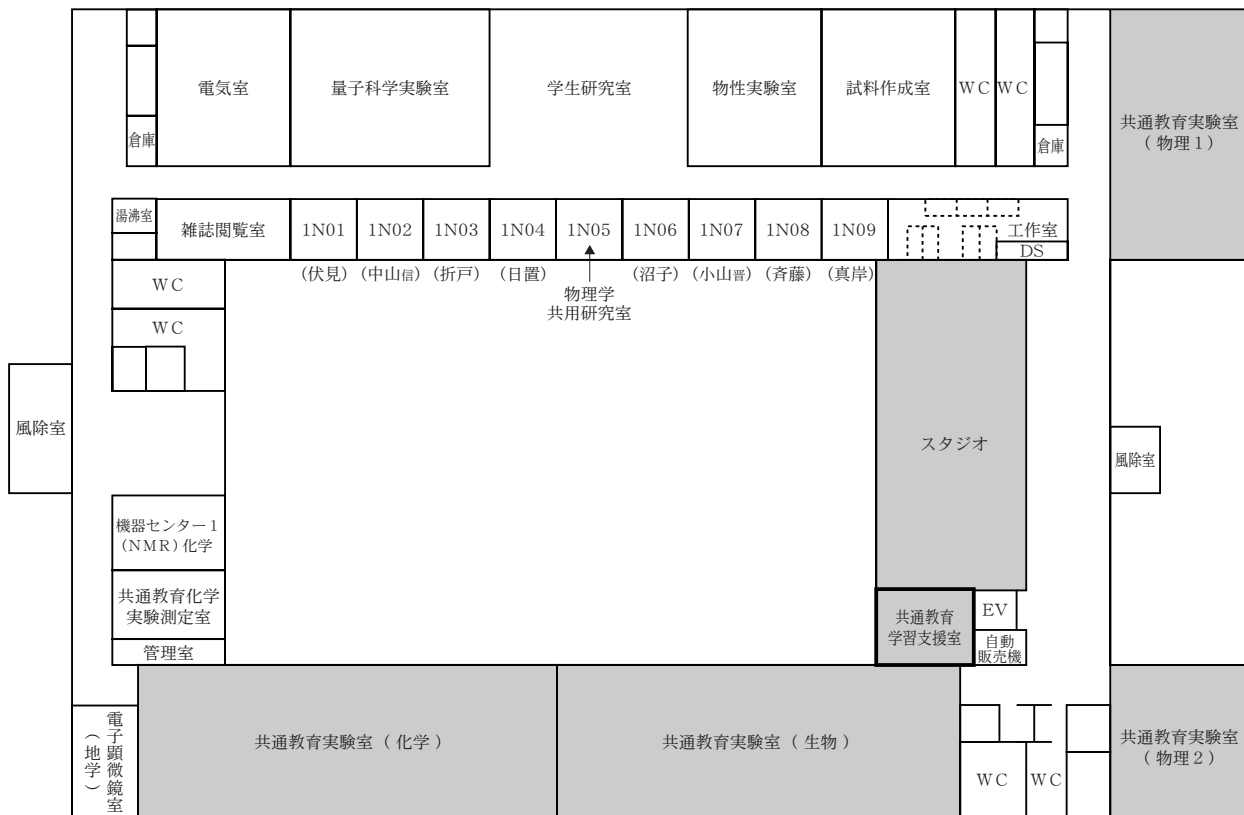


総合科学部 3 号 館

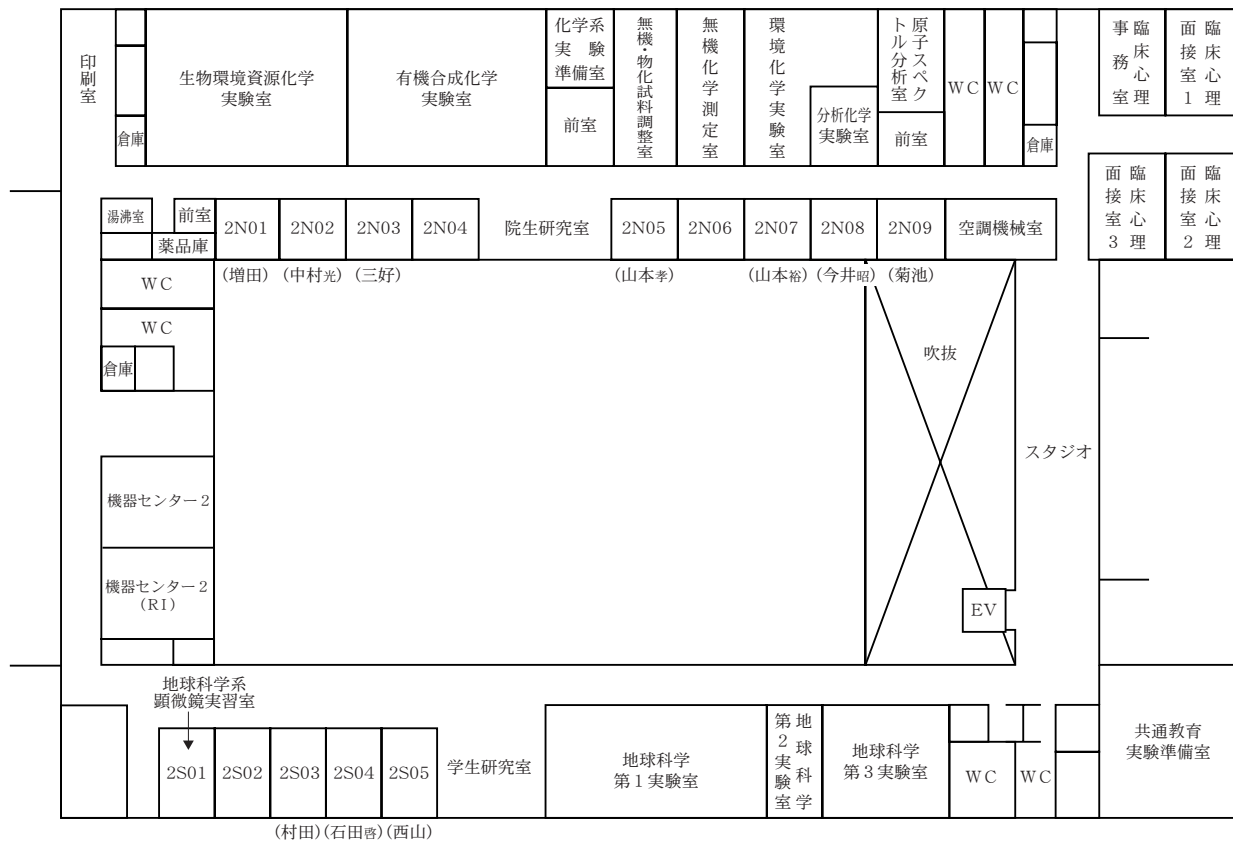
全学共通教育実験室、学習支援室などがあります。

総合科学部の全学共通教育担当教員研究室があります。

〔 1 階 〕

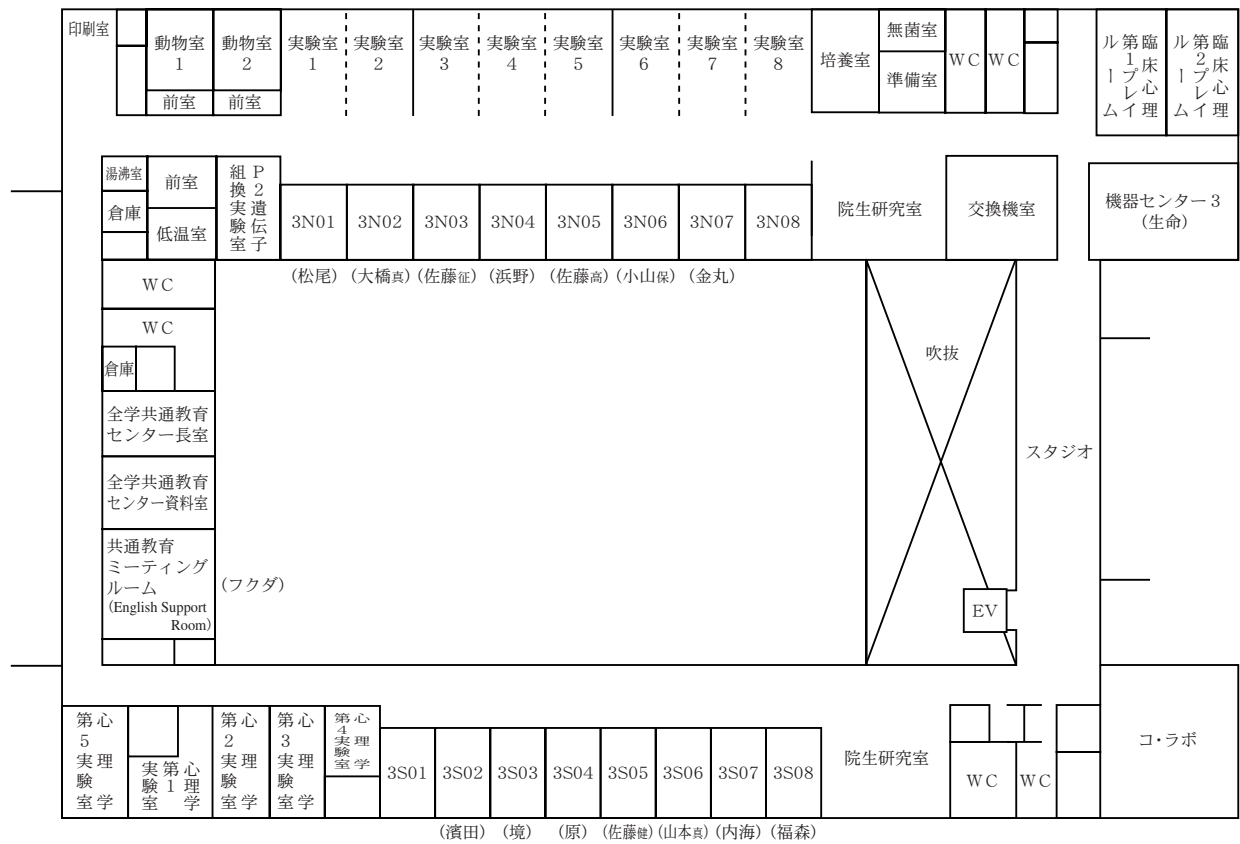


〔2 階〕



総合科学部 3 号 館

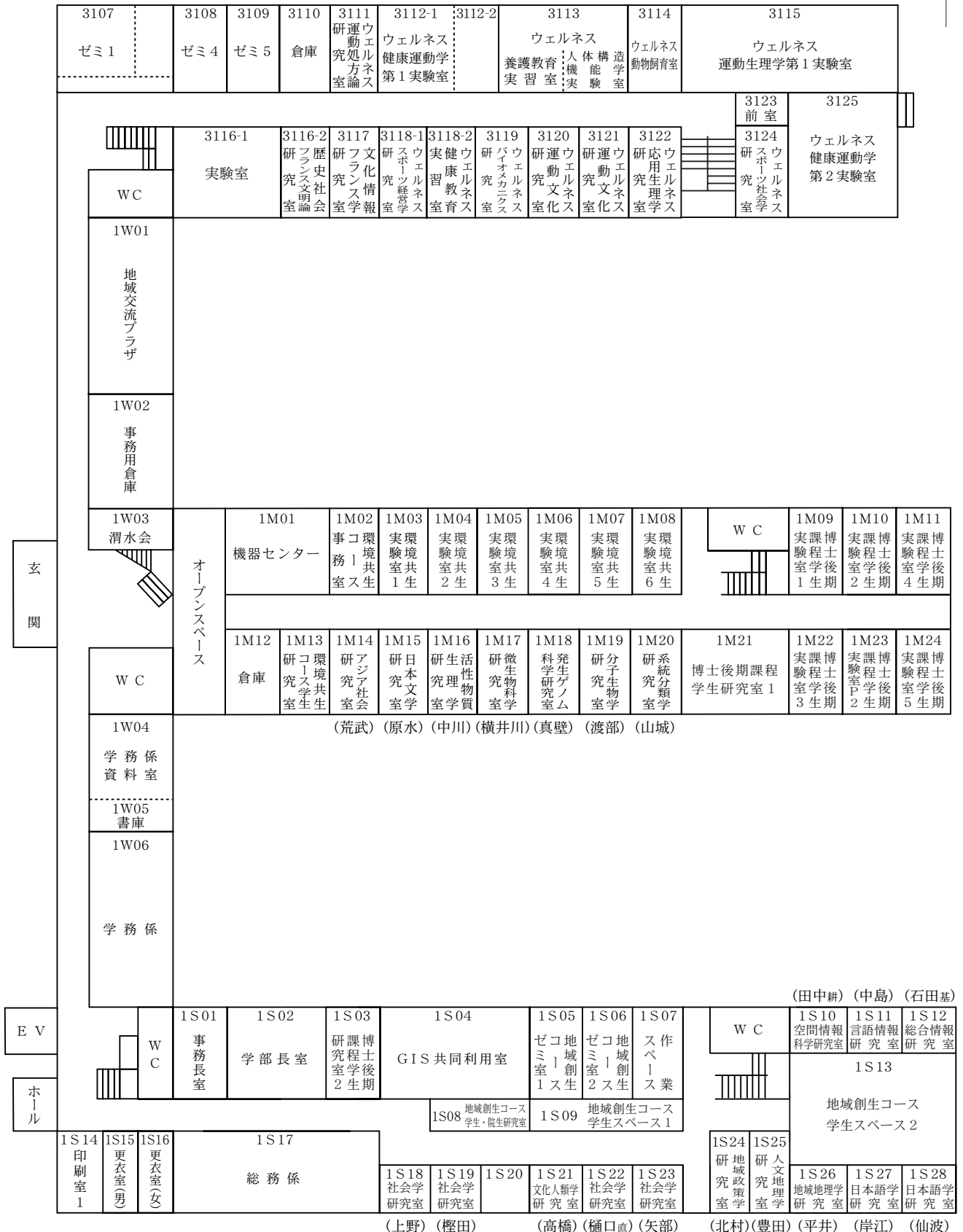
〔 3 階 〕



総合科学部 1 号 館

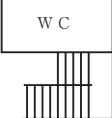
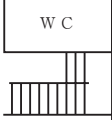
総合科学部の全学共通教育担当教員研究室があります。

〔 1 階 〕



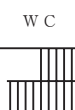
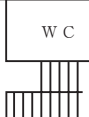
総合科学部 1 号 館

〔2 階〕

3204 生 命 科 学 生 物 活 性 実 験 室	3205-1 消毒 ----- 3205-2 無菌室	3206 生 命 科 学 分 子 生 物 学 実 験 室	3207-3 精密測定室		3208 生 命 科 学 系 統 分 類 学 実 験 室		3209 生 命 科 学 分 子 生 体 環 境 学 実 験 室		3210 実 験 室	3211 研 分 生 命 究 子 生 物 科 学	3212 生 命 科 学 発 生 学 実 験 室	3213 資 共 経 済 料 料 社 会 室 同 会
											3225	
 W C	3215 ゼ ミ 国	3216 サ ー バ ー 室	3217 研 国 経 究 際 済 室 治 社 学 会	3218 民 法 経 究 研 済 室 社 会	3219 分 析 生 測 定 命 室 科 学	3220 研 究 生 究 生 命 室 科 学	3221 研 環 分 生 究 境 子 命 室 学 体 学	3222 研 生 活 生 究 理 性 命 室 物 科 学	3223 研 系 統 生 究 究 命 室 分 科 学	3224 研 究 室	 3226 ----- 3227	学部学生自習室 大学院実習室
2W01 第2会議室												
2W02 第3会議室	(弘田) (大宮) (衣川)											
2W03 印刷室 2 	2M01 研 教 育 究 思 想 室	2M02 研 道 徳 究 教 育 室 学	2M03 研 日 究 本 室 史	2M04 健 康 社 会 デ ザ イン 第 1 分 析 室	2M05 運 動 生 理 学 第 2 実 験 室	2M06 ス ポー ツ 健 康 増 進 ラ ボ ラ ト リー	2M07 心 理 健 康 コ ー ス ゼ ミ 室		2M08 運 動 生 理 学 第 1 実 験 室			
 W C	2M09 研 人 間 究 形 成 室 論	2M10 研 経 ス 究 営 ポ 室 学 ツ	2M11 研 社 ス 究 会 ポ 室 学 ツ	2M12 ス ポー ツ 科 学 学 生 ・ 院 生 研 究 室	2M13 研 運 動 究 行 動 制 室 御	2M14 研 運 動 究 処 方 室	2M15 研 健 康 究 体 力 室 学	2M16 研 運 動 究 文 化 室	2M17 研 応 用 究 生 理 学 室	2M18 研 運 動 究 生 理 学 室	2M19 ス ポー ツ 科 学 動 物 飼 育 室	準備室 ----- 実験室
2W04 数 理 科 学 コ ー ス 演 習 室	(山下) (行實) (佐藤充) (荒木) (小原) (佐竹) (中村久) (三浦) (的場)											
2W05 数 理 科 学 コ ー ス 情 報 実 習 室	(依岡) (小野) (伊藤) (中山慎) (宇野) (鍋島) (大沼)											
 2S01 サ ー バ ー 室	2S02 ド イ ツ 語 比 較 文 学 比 較 文 化 研 究 室	2S03 数 理 科 学 コ ー ス 学 生 実 験 室	2S04 院 コ 数 生 理 理 究 研 科 室 学	2S05 研 数 究 理 科 室 学	2S06 研 数 究 理 科 室 学	2S07 研 数 究 理 科 室 学	2S08 研 数 究 理 科 室 学	2S09 研 数 究 理 科 室 学	2S10 研 数 究 理 科 室 学		2S11 数 理 科 学 コ ー ス 図 書 関 覧 室	
2S13 英 語 学 研 究 室	2S14 ゼ ミ 総 ミ 数 学 室 2 科 合	2S15 ゼ コ 数 ミ 理 理 室 1 科 学	2S16 数 理 科 学 コ ー ス 学 生 研 究 室	2S17 研 数 究 理 科 室 学	2S18 研 数 究 理 科 室 学	2S19 研 数 究 理 科 室 学	2S20 研 数 究 理 科 室 学	2S21 研 数 究 理 科 室 学	2S22 研 数 究 理 科 室 学	2S23 研 数 究 理 科 室 学	2S24 数 理 科 学 コ ー ス ゼ ミ ナー 室	2S12 数 理 科 学 コ ー ス 資 料 室
(山田仁) (桑原頼) (村上) (大橋守) (守安) (大淵) (片山) (蓮沼)												

総合科学部 1 号 館

〔 3 階 〕

3304 306 講義室	3306-1 305 講義室	3306-2 日 本 文 化 日 本 関 係 図 書 資 料 室	3307 302 講義室	3308 研 英 英 究 文 室 学 語	3309 研 英 英 究 文 室 学 語	3310 研 英 英 究 文 室 学 語	3311 研 英 英 究 文 室 学 語	3312 301 講義室							
 W C	3313 社 会 調 査 室	3314 研 中 ア 究 国 ジ 室 文 ア 学 研 究	3315 304 講義室	3316 303 講義室	3317 研 行 経 究 政 済 室 法 社	3318 研 経 経 究 済 済 室 法 社	3319 教 育 外 研 究 推 進 室 国 室 語								
3W01 人 間 文 化 学 科 ゼ ミ 室 2															
3W02 情 報 実 習 室 1															
3W03 非 常 勤 講 師 控 室	3M01 コ ・ ラ ボ 室	3M02 社 会 創 生 学 科 ゼ ミ 室 2	3M03 公 共 政 策 コー ス 学 生 ・ 院 生 研 究 室	3M04 ゼ コ 公 共 ミ ー 政 室 ス 策	3M05 研 経 研 究 済 組 室 法 経	3M06 研 組 経 究 織 室 論 営		3M07 研 商 究 法	3M08 研 民 究 法	3M09 研 経 国 究 済 室 学 際					
ゴ ミ 置 き 場	3M10 研 セ 国 究 ン タ 1 階 際	3M11 研 セ 国 究 ン タ 2 階 際	3M12 研 セ 国 究 ン タ 3 階 際	3M13 研 考 究 古 室 学	3M14 研 日 本 究 文 文 室 学	3M15 研 経 日 究 済 治 室 論 本	3M16 研 政 国 究 治 室 学 際	3M17 研 経 資 究 済 源 室 環 境	3M18 研 行 究 究 政 室 法	3M19 研 経 空 究 済 室 学 問	3M20 研 財 究 究 政 室 学	3M21 研 経 マ 究 済 ク 室 学 口	3M22 研 マ イ 究 ケ イ ン 論 室	3M23 研 経 究 究 済 室 学	3M24 研 政 環 究 治 室 学 境
3W04 電 気 室	(東) (鳥羽) (中嶋) (饗場) (眞弓) (上原) (内藤) (石田和) (趙) (多田) (立花) (栗栖)														
3W05 情 報 実 習 室 2															
 倉 庫 2	3S01	3S02 情 報 実 習 室 3	3S03 ゼ 学 ミ 室 5 部	3S04 306 講義室	3S05 307 講義室		 W C	W C	3S06 310 講義室						
3S07 技 術 職 員 室	3S08 倉 庫 1	3S10 第 1 会 議 室		3S11 ゼ 学 ミ 室 6 部	3S12 308 講義室		3S13 ゼ 学 ミ 室 7 部	3S14 309 講義室							
	3S09 サ ー バ ー 室														

総合科学部 2 号 館 (A) (マルチメディア A 棟)

〔 2 階 〕

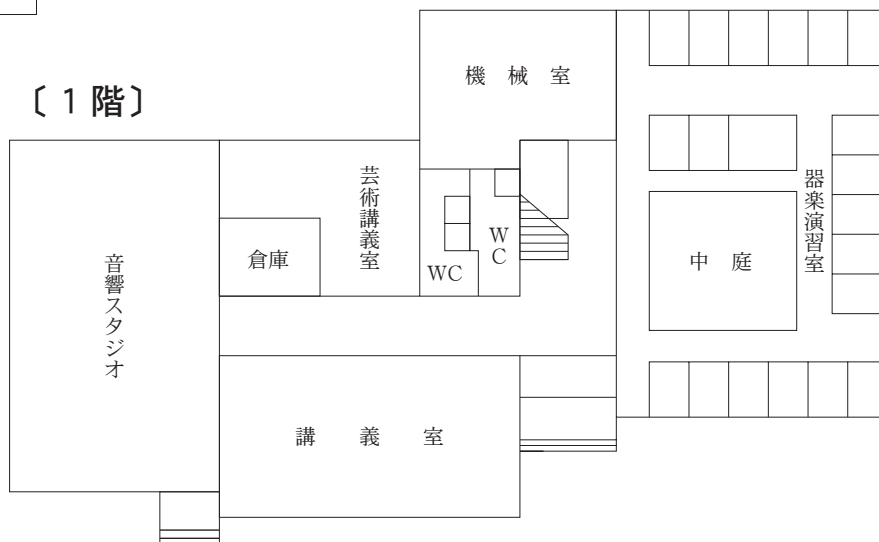
(宮澤)



(片岡)

(吉田教)

〔 1 階 〕

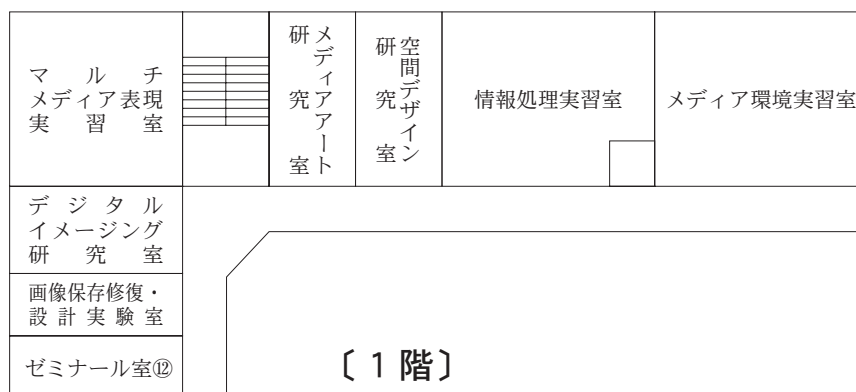


総合科学部 2 号 館 (B) (マルチメディア B 棟)

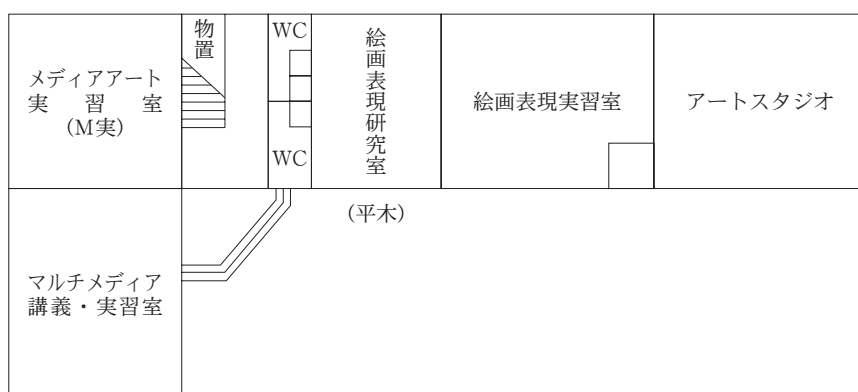
〔 2 階 〕

(河原崎) (掛井)

(石井健)



〔 1 階 〕



工学部共通講義棟（K棟）

〔2階〕

	CALL教室	トイレ	K 205 42(42)	K 204 42(42)	K 203 63(42)
	K 206 176(112)	EV	K 201 126(76)	K 202 126(76)	
		階段			

〔3階〕

	K 308 40(40)	K 307 60(36)	トイレ	K 306 42(42)	K 305 42(42)	K 304 42(42)
	K 309 176(112)	EV	K 301 40(40)	K 302 84(56)	K 303 84(56)	
		階段				

〔4階〕

	K 406 40(40)	K 405 60(60)	トイレ	K 404 63(42)	K 403 63(42)	
	K 407 176(112)	EV	K 401 108(72)	K 402 126(72)		
		階段				

工学部共通講義棟（K棟）

〔5階〕

	K 506 38 (38)	K 505 61 (61)	トイレ	K 504 63 (42)	K 503 63 (42)	
	K 507 178 (92)			EV	K 501 108 (72)	K 502 126 (72)
				階段		

〔6階〕

	創成学習 スタジオ 315 (210)	トイレ	K 602 63 (42)	中会議室	小会議室
			EV	K 601 40 (40)	大会議室
			階段		

●徳島大学総合運動場へのアクセス



* 全学共通教育センターロゴマーク



ロゴマークとしてパンジーの花を用いました。

パンジーの名称は、フランス語の“思う、考える”を意味するパンセに由来します。

平成 20 年 3 月に全学共通教育センターのロゴとして採用されました。